

赤ちゃんから
おとなまで

聖書教育

2022年

10
11
12
月号

絵
主
題

時代を生きる教会

テ
マ

主を礼拝する共同体の形成



エズラ・ネヘミヤ・ルカ

2023年度プログラム表

年主題:「今」

課	月 日			週題	聖書箇所	
1	4月2日	受難週	ローマ	今日わたしと一緒に楽園に	ルカ23:26~43	
2	4月9日	イースター		エマオの途上で	ルカ24:13~35	
3	4月16日			福音を恥としない	ローマ1:8~17	
4	4月23日			正しい者は一人もない	ローマ3:9~20	
5	4月30日			神の恵みにより無償で義とされる	ローマ3:21~31	
6	5月7日		ローマ	主により神との間に平和を得ている	ローマ5:1~11	
7	5月14日			律法ではなく、恵みのもとに	ローマ6:1~14	
8	5月21日			望まない悪を行うわたし	ローマ7:7~25	
9	5月28日			ペンテコステ	霊の執り成し	ローマ8:18~30
10	6月4日		ローマ	主の名を呼び求める者は	ローマ10:5~13	
11	6月11日			神の秘められた計画	ローマ11:25~36	
12	6月18日			沖縄命どう宝の日	喜び人と共に喜び 泣く人と共に泣く	ローマ12:1~21
13	6月25日	神学校週間	創世記	キリストの福音をあまねく宣べ伝える	ローマ15:14~21	
14	7月2日			天地の初め	創世記1:1~25	
15	7月9日			創造の完成と安息	創世記1:26~2:4前半	
16	7月16日			命の息を吹き込まれ	創世記2:4後半~17	
17	7月23日			応え合う者として	創世記2:18~25	
18	7月30日		創世記	エデンの園、追放	創世記3:1~24	
19	8月6日			カインの罪	創世記4:1~16	
20	8月13日			平和	神の憐れみを受けて	創世記4:17~26(参照4:13~16)
21	8月20日				洪水の予告	創世記6:5~22
22	8月27日	箱舟生活	創世記7:1~24			
23	9月3日	教会学校月間	創世記	洪水の終わり	創世記8:1~22	
24	9月10日			約束の虹	創世記9:1~17	
25	9月17日			ノアと息子たち	創世記9:18~28	
26	9月24日			バベルと呼ばれた町	創世記11:1~9	
27	10月1日		イザヤ	行いの実	イザヤ3:12~15	
28	10月8日			神の悲しみ	イザヤ5:1~6	
29	10月15日			間違った正義	イザヤ5:7~9	
30	10月22日			わたしと和解するがよい	イザヤ27:2~6	
31	10月29日			呼びかける声	イザヤ40:1~11	
32	11月5日		イザヤ	神の選んだ僕	イザヤ42:1~9	
33	11月12日			国々の光	イザヤ49:1~6	
34	11月19日			神に聞き従うもの	イザヤ50:4~11	
35	11月26日	世界祈禱週間	イザヤ	インマヌエルの神	イザヤ53:1~8	
36	12月3日			大いなる光	イザヤ9:1~6	
37	12月10日			その名はインマヌエル	イザヤ7:10~14	
38	12月17日			主によって確かなものに	イザヤ25:1~9	
39	12月24日	クリスマス	ヨハネ	光は闇の中に	ヨハネ3:16~21	
40	12月31日		ヨハネ	希望が語り継がれて	イザヤ61:1~3	
41	1月7日			あなたこそ神の子です	ヨハネ1:43~50	
42	1月14日			水がめに水をいっぱい入れなさい	ヨハネ2:1~11	
43	1月21日			その水をください	ヨハネ4:1~42	
44	1月28日	協力伝道週間	ヨハネ	少しも無駄にならないように	ヨハネ6:1~15	
45	2月4日	わたしは良い羊飼いである		ヨハネ10:7~18		
46	2月11日	信教の自由	ヨハネ	主よ、信じます	ヨハネ9:1~40	
47	2月18日			ラザロ、出て来なさい	ヨハネ11:1~44	
48	2月25日			光を信じなさい	ヨハネ12:27~43	
49	3月3日		ヨハネ	わたしはまことのぶどうの木	ヨハネ15:1~17	
50	3月10日			しかし、勇気を出しなさい	ヨハネ16:25~33	
51	3月17日			真理とは何か	ヨハネ18:28~38	
52	3月24日			受難週	成し遂げられた	ヨハネ19:17~37
53	3月31日			イースター	わたしは主を見ました	ヨハネ20:11~23

テーマ 主を礼拝する共同体の形成

教会学校の目的

教会学校の目的は、その活動を通して、すべての人々がイエス・キリストを信じる信仰告白に導かれ、教会を形づくり、生の中において主に聞き、主を証しする生活を確立していくことにある。

日本バプテスト連盟 1971年制定、1999年改訂

聖書教育ホームページ <https://www.bapren.com/>

1	目次	
2	プログラム表	
3	準備のための聖書日課	原田義也
特集・連載		
4～	特集 クリスマスメッセージ	根内 睦
6～	特集 キリスト教教育週間	NCC教育部
8～	連載 世界バプテスト祈禱週間を考える	米本裕見子
10～	連載 今、信仰を告白ということ	富田直美
12	執筆者紹介	
13	概論 この時代につながりを覚えて、エズラ記、ネヘミヤ記、そしてルカ福音書を読む	原田義也
今号の展開例 ● 第27課～第39課		
14～	聖書の学び・成人科	原田義也
16～	みんなで聴く聖書のおはなし	川内裕子
17～	青少年科	広木 愛
18～	幼小科	蛭川潤子
92～	暗唱聖句手話	塩山幸子
94～	暗唱聖句カード 新共同訳・口語訳	
99	『聖書教育』奉仕者紹介…暗唱聖句手話・おはなしカット作者編	
100	次号予告	

2022年度

聖書教育

2020～2022年度プログラム

総主題

時代を生きる教会

課	月 日		週題	聖書箇所
1	4月3日		ユダヤ人の王	マルコ15:6～20(参照15:1～5、21～32)
2	4月10日	受難週	あらわになった神	マルコ15:21～41
3	4月17日	イースター	約束のことは	マルコ16:1～8
4	4月24日		アテネでのパウロ	使徒17:16～34
5	5月1日		恐れるな、語り続けよ	使徒18:1～11
6	5月8日		それでもエルサレムへ	使徒20:17～38
7	5月15日		神の前で、人々の間で	使徒22:30～23:11
8	5月22日		鎖につながれながら	使徒26:19～32
9	5月29日		ともに元気に	使徒27:13～38
10	6月5日	ペンテコステ	聖霊は語り続ける	使徒28:17～31
11	6月12日		今や、明らかにされた!	コロサイ1:24～2:5
12	6月19日	沖縄命どう宝の日	新しい人を着て	コロサイ3:5～17
13	6月26日	神学校週間	祈りの輪の中で	コロサイ4:2～6
14	7月3日		ほめたたえられますように	エフェソ1:3～14
15	7月10日		かなめ石はキリスト	エフェソ2:14～22
16	7月17日		でっかい愛がうれしくて	エフェソ3:14～21
17	7月24日		心の底から新たにされて	エフェソ4:17～24
18	7月31日		愛されている子ども	エフェソ5:1～20
19	8月7日		神の武具を身に着けなさい	エフェソ6:10～20
20	8月14日	平和	平和を実現する人々	マタイ5:9
21	8月21日		それでも神さまに	ダニエル1:1～21
22	8月28日		ダニエルは思慮と知恵とをもって	ダニエル2:1～24(参照2:25～45)
23	9月4日		燃え盛る炉の中で	ダニエル3:13～30
24	9月11日	教会学校月間	獅子の洞窟の中で	ダニエル6:10～29
25	9月18日		ダニエルの祈り	ダニエル9:1～19
26	9月25日		その時まで、その時には	ダニエル12:1～13
27	10月2日		バビロンからの帰還	エズラ1:1～11
28	10月9日		神殿建設のはじまり	エズラ3:1～13
29	10月16日		神殿の完成	エズラ6:13～22
30	10月23日		礼拝を整える人たち	エズラ8:15～23(参照8:24～30)
31	10月30日		エルサレムへの想い	ネヘミヤ2:1～10
32	11月6日		良い企てへの備え	ネヘミヤ2:11～20
33	11月13日		主を喜び祝う日	ネヘミヤ7:72～8:12
34	11月20日		みんなで賛美	ネヘミヤ12:27～43(参照12:44～47)
35	11月27日	世界祈祷週間	立ち上がるイエスさま	ルカ4:16～21
36	12月4日		ヨハネ誕生の約束	ルカ1:5～25
37	12月11日		イエス誕生の約束	ルカ1:26～38
38	12月18日		マリアとエリサベト	ルカ1:39～56
39	12月25日	クリスマス	イエスの誕生	ルカ2:1～20
40	1月1日		十二歳のイエス	ルカ2:41～52
41	1月8日		荒れ野の試み	ルカ4:1～13
42	1月15日		あなたの罪は赦された	ルカ5:17～26
43	1月22日		安息日の主	ルカ6:1～11
44	1月29日	協力伝道週間	ヨハネの時、イエスの時	ルカ7:18～35
45	2月5日	信教の自由	イエスの涙、イエスの怒り	ルカ19:41～48
46	2月12日		ともし火をともして	ルカ8:16～18
47	2月19日		神の前に豊かに	ルカ12:13～21
48	2月26日		見つけだすまで	ルカ15:1～10
49	3月5日		気を落とさずに	ルカ18:1～8
50	3月12日		主がお入り用なのです	ルカ19:28～40
51	3月19日		ぶどう園はだれのものに	ルカ20:9～19
52	3月26日		最後の晩餐	ルカ22:14～23

2022年4月現在

2022年10月

準備のための聖書日課

1日㊥ 歴代誌下36:17~23	捕囚の始まり、そして終結	17日㊥ エズラ7:1~10	捕囚から帰って来たエズラ
2日㊥ エズラ1:1~11	バビロンからの帰還	18日㊥ ルカ10:38~42	必要なことはただ一つ
3日㊥ エズラ2:1~35	捕囚から帰って来た人々たち	19日㊥ 詩編34:2~11	どのようなときも主をたたえ
4日㊥ エズラ2:36~58	捕囚から帰って来た神殿関係者	20日㊥ エズラ7:27~8:14	エズラと共に行く人びと
5日㊥ 使徒言行録4:32~36	心と思いを一つにして	21日㊥ ローマ12:1~8	自分の体を神に献げて
6日㊥ エズラ2:64~70	神殿再建のための献げ物	22日㊥ ルカ14:15~24	盛大な宴会への招き
7日㊥ 詩編107:1~9	主に贖われた感謝	23日㊥ エズラ8:15~23(参照8:24~30)	礼拝を整える人々たち
8日㊥ 詩編136:1~26	主の慈しみはとこしえに	24日㊥ 哀歌2:8~12	エルサレムの荒廃
9日㊥ エズラ3:1~13	神殿建設のはじまり	25日㊥ 哀歌3:16~27	苦渋と欠乏の中で
10日㊥ エズラ4:1~5	神殿建設の困難	26日㊥ ルカ21:20~24	エルサレム滅亡の予告
11日㊥ エズラ5:17~6:5	キュロスの布告の再確認	27日㊥ ルカ21:25~28	解放の時到来の約束
12日㊥ ハガイ2:1~9	預言者ハガイの励まし	28日㊥ ネヘミヤ1:1~3	エルサレムの現状
13日㊥ ゼカリヤ6:9~15	預言者ゼカリヤの励まし	29日㊥ ネヘミヤ1:4~11	ネヘミヤの祈り
14日㊥ ルカ6:46~49	岩の上に土台を置いて	30日㊥ ネヘミヤ2:1~10	エルサレムへの想い
15日㊥ 詩編127:1~5	主御自身が建ててくださる	31日㊥ 詩編6:1~11	祈りを受け入れる主
16日㊥ エズラ6:13~22	神殿の完成		

2022年11月

準備のための聖書日課

1日㊥ 詩編33:1~11	主の企てはとこしえに	16日㊥ 詩編122:1~9	城壁のうちの平和
2日㊥ 1コリント4:1~5	神の計画と人の企て	17日㊥ 詩編148:1~14	こぞって、主を賛美
3日㊥ エズラ8:31~35	エズラの三日間	18日㊥ ルカ24:36~53	絶えず神をほめたたえて
4日㊥ ルカ2:41~52	神殿で三日過ごす少年イエス	19日㊥ ヨハネの黙示録22:1~5	新しいエルサレムで
5日㊥ ヨハネ2:13~22	三日で神殿を建ててイエス	20日㊥ ネヘミヤ12:27~43(参照12:44~47)	みんなで賛美
6日㊥ ネヘミヤ2:11~20	良い企てへの備え	21日㊥ イザヤ56:1~8	異邦人にも救い
7日㊥ ネヘミヤ3:33~38	城壁再建の困難の一場面	22日㊥ イザヤ60:1~7	主の栄光の輝き
8日㊥ ネヘミヤ6:15~7:3	城壁の完成とその後の困難	23日㊥ マルコ1:1~8	福音の初め
9日㊥ 詩編19:8~11	喜びの律法	24日㊥ マルコ1:14~15	福音を信じなさい
10日㊥ 詩編119:169~176	律法と賛美	25日㊥ マタイ4:12~17	天の国は近づいた
11日㊥ 申命記26:5~11	共に喜び祝う	26日㊥ ルカ4:14~15	ガリラヤから広がる福音
12日㊥ ルカ24:28~35	心燃やす聖書	27日㊥ ルカ4:16~21	立ち上がるイエスさま
13日㊥ ネヘミヤ7:72~8:12	主を喜び祝う日	28日㊥ ルカ1:1~4	確実な教えを伝えるために
14日㊥ ネヘミヤ9:1~6	罪の告白と賛美	29日㊥ フィリピ2:12~18	非のうちどころのない者
15日㊥ 詩編48:1~15	地の果てに及ぶ賛美	30日㊥ ルカ24:22~27	天使の言葉に対する不信

2022年12月

準備のための聖書日課

1日㊥ 使徒言行録26:19~23	天の示しに応じて	17日㊥ サムエル上2:1~10	ハンナの祈り
2日㊥ イザヤ49:14~21	主は忘れぬ	18日㊥ ルカ1:39~56	マリアとエリサベト
3日㊥ マラキ3:19~24	預言者エリヤと主の日	19日㊥ フィリピ2:1~11	人間の姿で現れたキリスト
4日㊥ ルカ1:5~25	ヨハネ誕生の約束	20日㊥ ルカ9:57~62	人の子が枕する所
5日㊥ エフェソ1:1~9	御子による恵み	21日㊥ ルカ13:22~30	神の国の宴会
6日㊥ エフェソ1:10~14	救いをもたらす福音	22日㊥ 使徒言行録26:12~18	天からの光の中で
7日㊥ マタイ1:18~25	主の天使とヨセフ	23日㊥ イザヤ11:1~10	エッサイの根を求めて集う
8日㊥ 創世記18:9~15	主に不可能はない	24日㊥ ミカ5:1~3	ベツレヘムよ
9日㊥ ルカ18:24~30	神による救い	25日㊥ ルカ2:1~20	イエスの誕生
10日㊥ ヨブ42:2~6	人の知識と神の経綸	26日㊥ イザヤ9:5~6	平和のみどり子
11日㊥ ルカ1:26~38	イエス誕生の約束	27日㊥ ルカ2:15~21	母の思い巡らし
12日㊥ ルカ11:27~28	幸いな人	28日㊥ ルカ2:22~35	シメオンの祝福
13日㊥ ルカ12:35~40	人の子を待つ幸い	29日㊥ ルカ9:46~48	いちばん偉い者
14日㊥ ローマ12:9~15	共に喜び、共に泣く	30日㊥ ルカ10:21~24	幼子のような者に
15日㊥ 詩編34:2~11	共に主をたたえよ	31日㊥ ルカ2:39~40	幼子の成長
16日㊥ 詩編25:1~5	わたしの魂は仰ぎ望む		



クリスマス メッセージ

ベツレヘムで過ごした クリスマスの夜のこと

ルカによる福音書2章10〜12節



花小金井キリスト教会
根内 睦

皆さん、クリスマスおめでとうございます。

新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で、教会に通うことが難しくなったり、賛美歌を大きな声で歌うことができなったり、マスクで表情が分かりづらい、愛餐会ができない等々、人との直接のふれあいを我慢する日々が続きました。今年のクリスマスは、マスクは外せないかもしれませんが直接顔と顔を合わせて「クリスマスおめでとうございます」と言って握手ができるのではないのでしょうか。こんな些細なことが大きな喜びになるとは、以前は思ってもいませんでした。また世界のあちこちで国の領土を奪い取るための戦争や、平和を求める人々を抑圧、拘束するなどの事態が起こっています。人のものを奪ったり、傷つけたり、悲しませたりしてはいけないことを幼い子どもたちも知っているのに、大人が率先して行っている。こんな悲しい現実をいつまで子どもたちに見せ続けるのでしょうか。

私は家族と共に、2018年から2019年にかけてイスラエル・パレスチナ（生活していた街は、イスラエルは自国領と言って管理していますが、国際法ではパレスチナ・ヨルダン川西岸地区です）で生活をしていました。そこは聖書によく出てくるエルサレム郊外の街でしたが、ユダヤ人の多く住むイスラエルでは、イエスさまがお生まれになったクリスマスをお祝いしません。一方、私たちが住んでいた場所から近く、イスラエルとパレスチナを隔てる分離壁を歩いて超えた先のパレスチナにあるベツレヘムでは、ユダヤ教徒よりもキリスト教徒とイスラム教徒の人たちが多く住んでおり、クリスマスのお祝いをしま

す。イスラエルとパレスチナ、目と鼻の先くらいしか離れていない場所でこんなにも違うのは「なぜ?」と思うかもしれません。イエスさまもユダヤ教徒でした。ユダヤ教徒はイエスさまが生まれる前の神さまからの教えを忠実に守っていますが、イエスさまがメシアであるということは受け入れられないからでしょう。しかし、同じくイエスさまをメシアであるとは信じていない、しかし大切な預言者だと信じているイスラム教徒にはクリスマスをお祝いする人たちもいるのです。

クリスマス・イブの夜、イエスさまがお生まれになったとされる、ベツレヘムに建てられた降誕教会内では、世界中の言語で礼拝がもたれ、教会の前には美しく輝きそびえ立つクリスマスツリーと等身大の聖家族像が世界中の人々を温かく迎えてくれました。そこではイタリア人司祭たちによるクリスマスコンサートが催され、一曲目、クリスマスソングが演奏されると思っていた私たち聴衆の耳に聞こえてきたのは、ジョン・レノンの「イマジン」でした。一瞬にして驚きと感動がコンサート会場に広がりました。それは「長い間続いているイスラエルとパレスチナの紛争が、一日も早く和解し、平和と平等のもとで互いに暮らせますように」と、クリスマス・イブの夜に歌を通してユダヤ教徒、キリスト教徒、イスラム教徒が共に信仰している唯一の神さまに反戦を、そこに集った皆が願ったからでしょう。

クリスマス・イブからクリスマスへと時を跨いでベツレヘム大学のチャペルでもクリスマス礼拝が行われていました。アラビア語の礼拝は、何を語ってい

るのか私には全く分かりませんでした。賛美歌は「諸人こぞりて」、「牧人ひつじを」、「荒野のはてに」等々、日本の教会でも良く賛美され、街に流れている曲が多く、心が躍り、言語が異なっても共に賛美することができることに感謝しました。パレスチナは分離壁に囲まれていて、イスラエルが発行する許可証がなければ、自由に壁の外に出ることができません。しかし、チャペルの壁一面には、世界中の民族衣装を着た女性と子どもたちが楽しそうに棕櫚の葉を持ち列をなして行進している姿が描かれており、その先の祭壇中央にはイエスさまの像が置かれているのです。日本の子どもたちもアジアの子どもたちと一緒に提灯や桜の花咲く枝をもって微笑みながら歩いています。「ああ、なんて平和で穏やかな風景なのだろう」と思いました。

私たち人間は、自分と異なる人たちを排除しようとし、それは、その人を良く知らないから怖いのです。本当は誰も争いたくはないのです。傷つけないのです。壁に描かれた子どもたちのように分離壁が崩れて、世界中の人々と知り合い、助け合い、笑い合いながら手をつないで歩いていける世界が一日も早く訪れますように、と切に祈ります。

生まれた国、目の色、肌の色、言語、性別、そしてイエスさまをどなたと今信じているか、その「宗教」は異なっている、私たち人間は、神さまに分け隔てなく愛されている民であり、その私たちのためにイエスさまはお生まれになったのです。これほど大きな喜びはありません。「クリスマスおめでとうございます」。

第72回 キリスト教教育週間

2022年10月16日(日)～23日(日)

日本キリスト教協議会(NCC)教育部
総主事 比企敦子

平和のきずな献金 さあ、つながろう

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」
(ローマの信徒への手紙 12章 15節)
(日本聖書協会新共同訳)

コロナ感染症拡大の長期化に加え、ミャンマー国軍による圧政は2年目となり、ロシアによるウクライナ侵攻は全く先が見えない状況です。20世紀は「難民の世紀」とも言われましたが、21世紀は「分断と対立の世紀」となってしまうのでしょうか？ パンデミック・紛争・災害は経済格差を加速させ、子どもたちは真っ先に打撃を受けます。ミャンマー、ウクライナだけでなく、パレスチナ、シリア、アフガニスタンなどでも同様です。子どもたちの未来までも奪ってしまわないよう、教派を超えた祈りと支えによってつながりましょう。

「平和をつくりだす働き人となる」 ために

2022年度海外献金先を紹介します。1つめは、「アトウトウ ミャンマー支援」です。国軍はこの16カ月の間に1,963人を殺害し、民主化を求めて活動する若者に死刑判決を下しています。クーデター直後から続く日本での毎週金曜夜の「オンライン祈り会」は7月29日で77回目となり、在日ミャンマー人を含む90名程が集います。スライドで紹介される映像や証言は生々しく、親を殺され家を



第72回キリスト教教育週間
2022年10月16日(日)～23日(日)は、第72回キリスト教教育週間です。
子どもたちの日々のくらしや安全が守られ、
将来にたのびますよう共に祈りましょう。

さあ、
つながろう

平和のきずな献金
募金期間:2022年4月～2023年3月末

喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい。
ローマの信徒への手紙12章15節(新共同訳)

献金先

- ① ミャンマー国軍のクーデターにより、養育者を失った子どもたちの生活・教育支援 (アトウトウミャンマー支援)を通して
- ② ルワンダで平和構築を学ぶ学生への奨学金 (日本バプテスト連盟国際ミッション・ボランティア佐々木和之さんの活動を通して)
- ③ アイヌ奨学金 (アイヌ奨学金キリスト教協力会)を通して
- ④ 外国にルーツをもつ福島と四国の子どもの教育支援 (福島移住女性支援ネットワーク(EIWAN)/四国初中級学校)
- ⑤ 教育部平和教育推進基金

献金送付先
郵便振替 00150-8-98713
加入者名 日本キリスト教協議会教育部
振込用途に「平和のきずな献金」と明記してください。献金は2023年3月末までお受けします。

呼びかけ: NCC教育部 日本キリスト教協議会(NCC)教育部
東京 飯新橋区飯新橋田2-3-8 21 TEL/FAX: 03-3203-0921
Email: ncc-education@cello.ocn.ne.jp URL: <https://ncc-j.edu.jmdofree.com>

焼かれた子どもたちもいます。献金は、ポーカレン神学校による養育者を失った子どもたちの生活・教育支援に捧げます。また、日本のODA(政府開発援助)がミャンマー国軍に流れないように政府への抗議を続けたいと思います。

2つめは、ルワンダで平和構築を学ぶ学生への奨学金支援です。日本バプテスト連盟国際ミッション・ボランティア佐々木和之さんの活動支援です。28年前に起きた民族間での大虐殺を踏まえ、若い世代が加害・被害の壁を乗り越えて平和構築への困難ながら大切な働きをめざしています。

「とがちエテケカンパ」と 教育支援

国内献金先の1つはアイヌ民族の子どもたちへの教育支援です。31年前にキリスト教各派がこの奨学金制度を始めました。昨年は6名の高校生や大学生の奨学金と「とがちエテケカンパ」活動を支援しました。この会



NCC 教育部
(日本キリスト教協議会教育部)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-21

TEL&FAX 03-3203-0731

E-mail ncc-education@cello.ocn.ne.jp

URL <https://nccj-edu.jimdofree.com>

募金期間 2022年6月～2023年3月末

献金送付先 郵便振替 00150-8-98713

加入者名 日本キリスト教協議会教育部

振込用紙に「平和のきずな献金」と明記してください

献金先

- ミャンマー国軍のクーデターにより、養育者を失った子どもたちの生活・教育支援
(「アトゥウミャンマー支援」を通して)
- ルワンダで平和構築を学ぶ学生への奨学金
(日本バプテスト連盟国際ミッション・ボランティア佐々木和之さんの活動を通して)
- アイヌ奨学金
(「アイヌ奨学金キリスト教協力会」を通して)
- 外国にルーツをもつ福島と四国の子どもの教育支援
(「福島移住女性支援ネットワーク」(EIWAN) / 「四国朝鮮初中級学校」)
- 教育部平和教育推進基金

は、週一度、小・中学生への学習支援や生活の悩みを聞くなど、子どもたちに寄り添う活動をしています。「エテケカンパ」とは、アイヌ語で「手を重ね合わせる」という意味です。政府のアイヌ政策は先住民族としての権利を無視したままですが、関心をもってアイヌ文化を学んでみてください。

外国にルーツをもつ子どもたちの母語継承教育

「EIWAN」への支援は11年に及びます。須賀川市、いわき市、郡山市の母語継承教室における母子への教育活動により、多くの生徒が高校・大学に進学しました。今年度からは、四国で唯一の民族学校である四国初中級学校の教育支援を開始します。設立は1945年で、現在生徒数9名、教員5名の小さな学校です。子どもたちの民族性を大切にしつつ、同胞保護者、地域の方たちとの交流を積極的に行っている学校です。

「原発処理水は安全」とのチラシを全国の小中高に配布

復興庁は、政府が昨年4月に処理水の海洋

放出を決めたことを受け、12月に「放射線副読本」を全国の中高生に配布しました。さらに、チラシ「ALPS（アルプス処理水）について知ってほしい3つのこと」(A4版2枚)を全国の小中高に、教育委員会を通さず直接配布しました。保留する学校もあり、各教育委員会の対応も分かれています。チラシでは、トリチウムを含む処理水の安全性が強調されていますが、いくら希釈されても放射性廃液なのです。国家による一方的な見解のみの内容であるため、学校現場も困惑し、対応も分かれています。

技術者や学識者による「原子力市民委員会」は、処理水のモルタル固化処分や大型タンクでの長期保存を提言しています。海洋放出への賛否両論を示さず、一方的な考え方への誘導は、子どもたち自身の未来への決定権を奪い地元の分断や対立を煽るものです。

原発事故の影響で甲状腺がんを発症したとして、若者ら6人が東京電力を相手に提訴しました。「宗教者核燃裁判」他、東電と国家の責任が問われています。当事者の痛みに寄り添いたいと願っています。



～「世界バプテスト 祈禱週間」を考える～ 世界の平和を望みつつ

世界の平和を望みつつ

コロナが始まった2年半前、慣れないオンラインを用いた日本バプテスト女性連合（以下、女性連合）の実行委員会でも悩んだ末に決まった標語「常に祈る」の副題が「世界の平和を望みつつ」でした。これが今、一時も忘れられない重い祈りの課題となっていることに驚いています。昨年2月にはミャンマーで国軍によるクーデターが、今年2月にはロシアがウクライナへ軍事侵攻。悲惨を極める事態がこれほど長期化するとは想像もしませんでした。さらにアフガニスタン、シリア、パレスチナ、コンゴなど、世界中にはあまり報道されない多くの紛争・戦争があり、人々の大切なのちが犠牲となっています。

世界で唯一の戦争被爆国であるこの国は、憲法9条によって77年間戦争を放棄してきましたが、この間も間接的には諸外国の紛争や戦争に関与してきた自己矛盾とも無縁ではありません。今の世界情勢に乗じてますます「戦争のできる国」に近づこうとしている風潮^{うれ}を憂います。一人は小さく弱くても、平和を願い祈りの輪を広げることを諦めずにいたいと願います。

女性連合の歴史と国外伝道の構造

女性連合が世界の平和を祈りつつ推進してきた「世界バプテスト祈禱週間」。その献金額は少子高齢化による会員の急激な減少に比例し、この

20年減少し続け21年度の献金総額は2800万円を割りました。さらに担い手不在やジェンダー的観点などから「女性会」を解消する教会も増えており、毎年、会員約100名、機関誌『世の光』月平均の購読数100冊近くが減少し、女性連合の存続が非常に厳しくなっています。

ここで少し歴史を振り返りますと…、女性連合は1920年「婦人会同盟」が設立された当初から「世界伝道」を使命としてきました。米国南部バプテストから来られた宣教師「夫人」たちの祈りと導きによって、当時、教育も参政権も与えられなかった女性たちは教会に集い、福音に触れ心は世界に開かれていきました。

第2次大戦後、日本バプテスト連盟（以下、連盟）の「婦人部」として「世界バプテスト祈禱週間」の推進を担い、連盟派遣の宣教師たちを支えはじめました。その後1973年、連盟の機構改革にともない、婦人部は連盟から切り離され「日本バプテスト婦人連合」（のちに女性連合）として出発しました。当時、連盟からの切り離しに少なからず戸惑い反発した女性たちは、自らのリーダーシップのもと希望をもって「自主自立」し、引き続き「世界伝道」を使命とすることを選び取りました。このことは連盟に期待される働きとして、また連盟派遣宣教師（働き人）たちを支え、世界の福音宣教に仕えるという純粋な信仰が女性たちの心一つにしてきたといえるでしょう。先達のその篤いスピリットに心から敬意と感謝を表します。

女性連合に加盟する女性たちは、女性連合の



1920年 第1回婦人会同盟総会（福岡簗子町バプテスト教会）



1973年 第1回日本バプテスト婦人連合総会・大会（天城山荘）

会員であり連盟のメンバーである、という2つのアイデンティティをもつため、構造的なジェンダー課題があっても意識しにくいものとなっています。女性の連盟理事や、連盟総会などで女性の代議員たちは、連盟のメンバーとして発言する機会がありますが、それは「女性連合」のメンバーとしてではありません。女性連合は、自主自立した信徒運動団体となった後も連盟と協約や覚書などはない状態で、連盟の国外伝道の意思決定プロセスに参加することができないまま、50年間「世界バプテスト祈祷週間」の推進と、その献金の殆どを連盟に捧げるという役割を担ってきました。ここにジェンダーに基づく不平等構造が見えるのではないのでしょうか。今の時代、意識して構造的な課題を改善していく必要があると感じています。そして、こ



れまでの尊い働きの歴史から学びつつ、今ある「当り前」を絶対化せず、自由でありたいと思います。

協働による世界宣教へ： 対等なパートナーとして

この時代、なぜ女性たちが集まるのか。女性連合の意義と活動・体制が問われています。「女性」たちは数の上ではマジョリティ（多数派）でも社会的には未だマイノリティ（少数派、抑圧される側）におかれています。「女性」たちが集い、励ましあい、気づきあうことは、ますますこれから大切なことと確信しています。

「協働」とは対等なパートナー関係があつてこそ。女性連合は、自主自立の団体として連盟とこれからの世界宣教をどのように持続可能な形で協働し進めていけるか、共に考えていきたいと願います。連盟も女性連合も時代の転換点に立つ今、新たに生まれ変わる創造の時です。ジェンダーに基づく不平等構造を払拭し、誰もが福音によって解放され自分らしく生きる場所に本当の平和への働きが実現していくことでしょう。ジェンダーに限らずあらゆる差別のある所に平和はなく、平和のある所に差別はありません。隣人とともに今ここからこの先へ。神の新たな創造と導きに信頼して希望をもっていきたいと願い祈ります。世界の平和を望みつつ。

日ごとに 新たにされて

2つの委員会の協働によって

2005年以降『聖書教育』は、教会教育室のもとで、教会教育専門委員と『聖書教育』編集委員、2つの委員会が協働して企画や編集を進めてまいりました。私はおもに、教会教育専門委員として『聖書教育』の企画やプログラム選定に関わっておりました。

2009年からの3年間は連盟事務所の職員として『聖書教育』60年の変遷やバプテスト連盟の「教会教育」の歩みをまとめ、これまでとこれからを考える機会としました。また、2020年からは、教会教育室長として現在進められている機構改革によって、2つの委員会が担ってきた働きを、どのように継続されることが相応しいか、これからの検討委員会の方々と協議しております。

ターニングポイント

教会学校が、み言葉を教える学びの場として整えられてくると「学校」の真似事のように、「正解を知っている者が知らない者に教える」というスタイルに傾斜してきました。また、忙しい日常生活の中で、教える者の準備を軽減させることが『聖書教育』に求められるようにもなりました。ワークシートの充実やわかりやすい解説など、購読者からのご意見をもとに多くの方々にご利用いただける

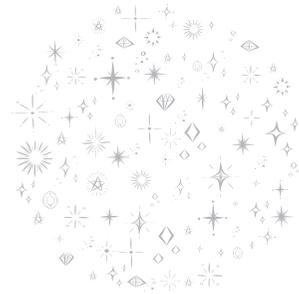
ようにとの工夫が始まります。一方で、前号で紹介された通り、2005年以降「カリキュラム」から「プログラム」へ変更がありました。教会学校ではこの変更をターニングポイントとして捉えることが薄かったように感じています。それでも「学校制度の持つ、適切な学習を効率よく進める在り方」に疑問を呈し「プログラム」としたことは、その後『聖書教育』の編集に影響を与えることになっていったと思います。

人が育つ過程で、立ち上がることもなく歩き出したり、走り出したりすることがないように、積み重ねの中で習得した学びのスタイルは、企画が新たにされたからといって、いきなり変ることはありません。慣れ親しんだ学びのスタイルを保持しながらも、新しい出会いや出来事が起こるような記事を取り入れて、気づいてもらう工夫がなされています。2004年～2008年まで「今、教育を考える」という連載を掲載し、一般の教育に欠けている視点を教会教育に持ち込み、キリスト者として人間と社会を見つめ直すことに焦点を当てたのもその一つでしょう。

『聖書教育』の変更は、連盟の他の出版物でも裏付けされています。『いま、バプテストを生きる～バプテストの教会形成の課題を共に考える～』では「教える者も学ぶ者も対話を通して共に聖書から聴いていく姿勢を大切に」と書かれています。そして、教育の



日本バプテスト連盟
宣教部 教会教育室 室長
富田直美



大切な視点として「お互いの主体的な信仰を尊重しつつ、自己を絶対化せず、常に異なる者との対話に開かれていること」と書かれています (P21)。

2005年～2007年「プログラム」となっ
て学びで大事にしたことは、信仰生活の基盤
をやしなうことを目的とした①イエス・キリ
ストの宣教 ②この世での教会奉仕 ③三位
一体を中心とする教理 ④教会での交わりの
4つの分野でした。教会学校運動が、運営の
ノウハウを伝達する推進から、宣教の課題を
踏まえた人格形成へと広がっていきます。

対話に開かれることを願って

聖書を勉強するイメージから、クラスでは
対話に開かれることをイメージして「教える」
ための教案誌ではなく、共に読み合うことを
目指し、2011年4.5.6月号から表紙に記載
されていた「教案誌」という言葉を取りまし
た。また、新企画の要となった「おはなし」
は、子どものために書かれた「子どもメッセ
ージ」が名称を変更したのではなく、すべて
の年齢層に向けて書かれました。「テーマ」
に即した獲得目標を目指して学ぶのではなく、
物語をじっくりと味わうことによって私たち
が生きる「テーマへ」と導かれていくように
と編集されています。「おはなし」の執筆者は、
聖書の歴史的な時代背景や人物について解説

することなく「おはなし」におり込んで、伝
える工夫をいたしました。

この時期(2008年～2016年)には、『聖
書教育』フォーラムも各地9ヶ所で開催して、
物語企画の意図、取り扱いの方法の紹介、『聖
書教育』を巡る様々な意見交換をいたしまし
た。また、教会学校奉仕者に向けた研修会を
各地8ヶ所で開催し、自分で語る「ことば」
を耕し培うことが伝えられます。

共にキリストを証しするために

さらに、2020年度から現在に至る『聖書
教育』では、総主題を「時代を生きる教会」
として、聖書を読むことが、実際の生活と深
く関わっていると感じ取れるように、また
痛んでいる人の痛みを想像し、時代特有の
葛藤を理解し、そこに励ましや慰めを届けら
れるようにと編集しています。

私たちは今、機構改革というチャレンジを
神さまから受けて、『聖書教育』の大きな変
更を余儀なくされています。今度は人格的な
関わり合いの只中で自ら聖書を読み、日ごと
に新たにされて重荷と責任を担い、自身が連
盟をかたちづくる一人として整えられようと
しています。

共にキリストを証しするために。

執筆者紹介



概論・聖書の学び・成人科

はらだ よしよ
原田 義也

企救バプテスト教会 牧師

『聖書教育』の執筆をさせていた
だくようになった当初、編集の方

との原稿のやり取りは郵送でした（あて先は、ヨルダン社!）。続いては、FAX（そのことのために、FAX 付きの電話機を購入!）、そして、今は、パソコンでのメールです（キーボード相手に悪戦苦闘!）。その間、『聖書教育』の体裁なども変化しました。しかし、変わらないもの、聖書がそこにあり、その言葉に生かされている信仰の友が各地におられること、これからも!



みんなで聴く聖書のおはなし

かわち ひろこ
川内 裕子

帯広バプテスト・キリスト教会
牧師

いろいろな時代のエリシェバ（エリサベト）やミリアム（マリア）、ヨハナン（ヨハネ）と聖書を旅したらどうかと出発した執筆でした。結果として、主への礼拝へと、登場人物たちはぐいぐい進んで行き、私は後からついて歩いて彼らのものがたりを拾い集めました。数ヵ月、寝ても覚めても一緒に過ごしたので、送り出したあとはしばらくぼっかりさみしくなりました。今度はあなたの横で、彼らが息づいて一緒に旅をしてくれますように。



青少年科

ひろき あい
広木 愛

大井バプテスト教会 教員
(2022年6月現在)

教会の教会学校がお休みで、誰

かと一緒に聖書を分かち合う場所がなくなりました。そのような中で、教会学校の分級の思い出を頭に浮かべながら準備することの難しさを感じていました。一人で聖書を読む豊かさや誰かと一緒に聖書を読む豊かさ。その両方を感じることができる場所が教会の交わりなのだろうと、改めて思われています。



幼小科

ひるかわ じゅんこ
蛭川 潤子

郡山コスモス通りキリスト教会
教員

受浸後半年で教会学校の奉仕に加わり、共に聖書を学ぶ場を与えていただきました。それから52年間、幼児から中学生までと、私にはクラスで共に学び合う仲間がいました。その中心には温かなまなざしを注いでくださるイエスさまがおられ、『聖書教育』がありました。24年前に初めて執筆の機会を与えていただき、その後も編集担当の方々のお支えの中で取り組むことができました。たくさんのお会い、喜びをいただき、今のすべてに感謝いたします。



表紙

みうら
三浦 あや

藤沢バプテスト教会
教員

表紙タイトル「かがやく星がみちびくクリスマス」

アドヴェントの12月4日から12月25日の聖書箇所であるルカによる福音書の1章2章をテーマにしました。「ヨハネ誕生の約束」「イエス誕生の約束」「マリアとエリサベト」「イエスの誕生」それぞれのシーンを下から順にお話の流れに合わせた絵になっています。羊飼いや馬小屋の動物たちもイエスさまの誕生を共に喜び合い、素朴で平和なクリスマスをデザイン的に描きました。

編集後記

執筆者会議を前にして、あまり馴染みのないエズラ記、ネヘミヤ記の資料に（資料が少ない）目を通してながら気持ちが重たくなっておりましたが、「聖書の学び」の原稿が届き、読み進めていくと、歴史的な背景やつながりが分かってきて面白く読むことができました。また、クリスマスだからと開くことになるはずのルカ福音書が絶妙に繋がっていることを知らされて、時代を生きる私たちの礼拝にも繋がっているのだと感じています。

(N・T)

この時代に 「つながり」を覚えて、エズラ記、ネヘミヤ記、 そして、ルカ福音書を読む

企救バプテスト教会
牧師 原田義也

A セット? B セット?

バビロン捕囚後の社会状況を舞台として、主の出来事を記すエズラ記、ネヘミヤ記は同じ社会状況を舞台とする「エステル記」と合わせて読まれることがあります。この三書の組み合わせの注解書も複数あります。しかし、エステル記には、主、神という言葉が一つもなく、エズラ記などとは異なる視点で、主の出来事を記しています。

一方で、エズラ記などと同じ視点で、主の出来事を記しているのが、「歴代誌」です。いずれも表や数字、系図を多用する共通点があります。また、歴代誌の終わりの部分とエズラ記の冒頭の記述が一致していることには、明確な「つながり」があります。

神殿建築をテーマとするエズラ記と城壁再建をテーマとするネヘミヤ記を続けて読む時には、エルサレムに帰還したのは、エズラが先かネヘミヤが先かという議論があるように、時系列を整えて、両書を読むには困難があります。そこでは、単に時間の流れをたどる見方とは異なる形で主の出来事が描かれています。歴代誌でも、分裂王国後の北イスラエルの歴史に全く触れないなどの独自の視点があります。何より、エズラ記、ネヘミヤ記、歴代誌をつないでいるもの、各書に共通するのは「礼拝」です。それぞれに礼拝への備え、賛美があふれる礼拝の場面が繰り返し記されています。信仰の共同体の姿があります。

スペシャルセット!

今回私たちは、エステル記や歴代誌ではなく、ルカ福音書とのセットで、聖書を学びます。ルカ福音書には、エズラ記、ネヘミヤ記から直接引用した言葉はなさそうです。ルカ福音書がどれくらいエズラ記、ネヘミヤ記を意識しているのかは不明です。しかし、「つながり」を感じる箇所がいくつかあります。たとえば、ルカ福音書 3:23～38 のイエスの系図は、アダムまでさかのぼる主の救いの歴史であり、エズラ記などと同じ視点の歴代誌は、アダムから始まる系図によって、主の救いの歴史の記述をスタートします。

何よりの共通点は、エルサレムを舞台としての主を礼拝する共同体の形成です。ルカ福音書において、そのことは、キリストの福音に基づく共同体として、展開の多くは、続く使徒言行録につながりますが、エルサレムの神殿で祭司の務めをしているザカリアに始まり、エルサレムの神殿で神をほめたたえる弟子たちの姿で、ルカ福音書は閉じられます。

様々な形での分断、分裂、対立があふれているこの時代でしょうか。そこにはまた、痛み、悲しみ、涙があふれています。

エズラ、ネヘミヤ、そして、ルカへとつながった主を礼拝する信仰の共同体に、私たちがつながり、キリストの福音を喜び、礼拝で主をほめたたえます。

新しい時の始まり

新しい時が始まります。第一次として紀元前 598 年に起こり、この年、紀元前 538 年まで続いた「バビロン捕囚」が終わるのです。捕囚の間、詩人は泣き（詩編 137）、人々は「主はわたしを見捨てられた。わたしの主はわたしを忘れられた」（イザヤ 49 : 14）と嘆いていました。もちろん、この間、エゼキエルをはじめとする預言者たちは主の慰めやエルサレムに帰還する希望の言葉を語っていました。しかし、50 年以上の時が流れています。希望の言葉も色あせ、涙も嘆きも尽きません。バビロンの生活に魅力を感じる人も現れます。いいえ、バビロン捕囚は終わるのです。

キュロスの布告

エズラ 1 : 1～3 には、歴代誌下 36 : 21～23 と重なる言葉がいくつもあります。その中で特に印象的なのが、「神が共にいてくださるように」という言葉です。

キュロスはペルシアの初代の王として（紀元前 559～529 年在位）、かつてのアッシリアとは異なる政策を行いました。征服した国や民族の伝統を尊重し、宗教の自由を認めたのが、その一つです。ユダヤ（イスラエル）への直接の言及はありませんが、大英博物館に所蔵されている「キュロスの円筒碑文」と呼ばれている文書には、ペルシア以外の国の神殿や神像を復興し、バビロニアによって、捕囚とされた民を元来の土地に戻すことなどが記されています（杉本智俊『図説旧約聖書

の考古学』河出書房新社）。

このようなキュロスの政策に対する期待は、イザヤ 44 : 28 や 45 : 1 などにも見ることができます。しかし、結局のところ、キュロスの政策は、自国の繁栄を願ってのことで、預言者を失望させます。

「天にいます神」と主

キュロスの言葉にある「天にいます神」（直訳すると「天の神」）という表現は、違和感はないかもしれませんが、しかし、この表現は、紀元前 5 世紀にエジプトのユダヤ人共同体が生活していたエレファンティネで発見された文書ではアラム語で記されており、ペルシア時代にユダヤ人の神を指して用いられた特別なものです。

キュロスは歴史に名を残しています。先に紹介したような碑文も残しています。しかし、真に歴史を導いているのは「主」です。「主はかつてエレミヤの口によって約束されたことを成就するため、ペルシアの王キュロスの心を動かされた」ということ、キュロスではなく、主が動かしている歴史です。それは、主が生きて働いておられるということです。旧約聖書の時代、戦争に負けるのは、その国の神が相手の国の神に敗北したと考えられていました。バビロン捕囚は、イスラエルの神、主がバビロニアの神マルドックに敗北したということ…、いや、主は敗北などせず、生きておられ、その言葉は成就するのです（エレミヤ 25 : 11、12、29 : 10、31 : 38）。

帰還

バビロン捕囚の年月は長く、また、時間が止まってしまったような嘆きがありました。しかし、時が動き始めると、もう一気に、という印象です。まるで、バビロンからエルサレムに瞬間移動しているような旅路です。エルサレムへの帰還は、新しい出エジプト、第二の出エジプト、出バビロンなどと言われますが、途中の話は何もありません。身も心も一気にバビロンからエルサレムへ！

忘れてならないことがあります。エルサレムに帰還するには、目的があります。主の神殿を建てるのです。バビロンでも主を礼拝することは許されていました。しかし、神殿がないということは、人々の心に虚ろなものがあつたでしょう。かつて神殿にあつた祭具

準備のための聖書日課			
26日	㊦	捕囚の地バビロンへ	列王記下24:10~17
27日	㊧	捕囚の地からの救いの約束	エレミヤ30:10~11
28日	㊨	捕囚の地で見た神殿の幻	エゼキエル40:1~5
29日	㊩	エルサレム帰還の慰めの預言	イザヤ40:1~8
30日	㊪	牧者キュロスへの期待	イザヤ44:24~45:1
1日	㊫	捕囚の始まり、そして終結	歴代誌下36:17~23

などが返還されました。支援を受けることもできました。あのキュロスの布告もあります。何より、エレミヤの預言が成就します。主が生きて、働いておられます。



成人科

●長く停止していたような時間が動き始めるきっかけとなる「言葉」についての思い出のようなものがあるでしょうか。天地創造の始めの「光あれ」、福音の宣教の始めの「神の国は近づいた」などの言葉が聖書にはあります。動き出したと言っても、その後、その出来事が順調に進んでいくとは限りませんが、何かが動き始めるきっかけとなる、あるいは、なった言葉について共に考えてみましょう。その言葉は、人間の言葉であることが多いと思いますが、そこに「神が心を動かされた」ということを覚えることができた経験があれば、さらに、分かち合ってみましょう。

●キュロスの「神が共にいてくださるように」という言葉はとても印象深いものですが、その前にある「主の神殿を建てるために」という言葉も、今後の出来事の展開となります。そこでは、建造物としての神殿が大きなテーマとなるので、会堂建築という視点から考えることもありますが、よりシンプルに、「神への思い」、「礼拝への思い」ということで考えるとどうでしょうか。詩編122の詩人が歌う、「主の家に行こう、と人々が言ったとき わたしはうれしかった」という言葉が、日曜の朝、私たちの心のうちにあふれているのでしょうか？

バビロンからの帰還

聖書 エズラ記1章1～11節

暗唱 聖句 上って行くがよい。神なる主がその者と共にいてくださるように。
歴代誌下 36 : 23

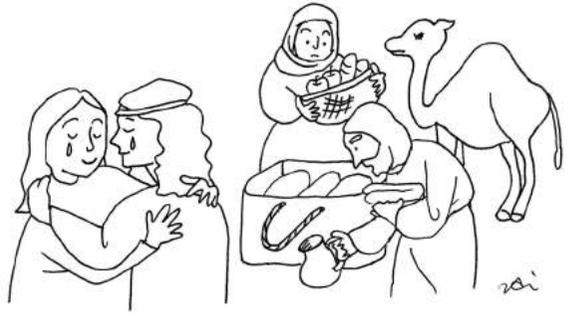
27
課

10
月
2
日

あたりは、羊やろばの鳴き声と、父さんや近所の人たちの話し声でいっぱい。土ぼこりが舞い、みんなの汗や家畜のにおい、焼いてるパンのにおいがまざって、あたしは胸のあたりがむずむず落ち着かない。旅立ちが決まってから、ずっとこんな気持ち。

そう、旅立ち！「わしらは、エルサレムに帰ろう。神殿をもう一度建て直して、そこで礼拝しよう！」じいちゃんが決心したから、あたしたち家族は旅立つ。じいちゃんは急に若くなったみたい。腰がしゃんとして、生き生きしてる。じいちゃんをよく川のほとりでエルサレムを思って泣いてる人たちの横に座り、「必ずエルサレムに神さまが連れ帰ってくださる」という預言者の言葉を繰り返して慰めてた。だから、キュロス王の言葉を聞いた時、じいちゃんはすぐ決断した。「主なる神さまが、キュロス王を使ってエルサレム神殿を再建せよとおっしゃった。神さまと一緒にいてくださる。さあ、帰ろう！」それから近所の人たちが次々に、金銀の器、宝石、家畜などを、どうぞエルサレムに持って行ってとやってくる。

ばあちゃんと母さんが保存用のパンをたくさん焼いてる横で、あたしができ上がったパンを包んでると、「エリシエバ！ちょっと来て」とミリアムのよく通るささやき声が聞こえた。あたしはミリアムと家の陰に回る。「あんたたち、ほんとにエルサレムに行くのね。うちは行かないの。父さん



が、ここを離れるわけにはいかないって」。「そうなの。わくわくするよ。じいちゃんやばあちゃんが子どもの頃住んでたエルサレム。何度も神殿の話聞いたもん」。「エリシエバ。あたしのこと忘れないで。これ持って行って」。ミリアムは懐から黒く光る石を取り出した。二人で色違いの石を磨いてお揃いで作ったすべすべ石。穴をあけてひもを通した。あたしは胸がきゅっと苦しくなり、ミリアムをぎゅうっと抱きしめた。ミリアムのふさふさの髪の毛が鼻をくすぐる。ミリアムのすべすべ石と同じ黒い髪。「ああ、ミリアム。あんたたちも行くんだったらいいのに。あんたのこと、忘れないよ。ねえ、あたしのをあげる。とりかえっこしよう」。あたしは首からアーモンドの花色のすべすべ石を外してミリアムの首にかけた。「ミリアム、いつか会えますように。行くよ、あたしたち。すべてを動かしてくれた神さまと一緒に。壊された神殿をもう一度建てるの。そこで主なる神さまを礼拝するの」。

バビロンからの帰還

青少年科



聖書

エズラ記1章1～11節

暗唱
聖句

上って行くがよい。神なる主がその者と共にいてくださるように。
歴代誌下 36 : 23

27
課

10
月2
日

聖書から…

バビロン捕囚の終わりが宣言されました。異邦人の王キュロスによって、解放の預言が成就していきます。イスラエルの神さまは、異邦人の王を用いて、ご自分の民の救いを成し遂げてくださいました。そして民は、礼拝する場所、神殿建設へと導かれていきます。エルサレムにあった神殿の祭具は、一度はバビロンに奪われてしまったものの、主は、キュロスを用いて、イスラエルの民の手に戻してくださいました。

バビロンからエルサレムまで、その道のりは、エルサレムを知っている世代の人たちにとっては、どれほど軽い足取りだったのでしょうか。自分の国を初めてみる世代の人たちにとっては、不安な道のりだったのでしょうか。バビロン捕囚という苦しい時間が終わり、神殿建設までの歩みは、喜び、不安、期待、疑い…、いろんな感情の中で進められていったのではないのでしょうか。捕囚が始まる時、終わる時、エルサレムに向かって出発する時、到着する時。状況は違っていても主が共にいてくださるという変わらない事実を大切に受け取りたいと思います。

分かち合おう

- 自分の知らない土地で、新しい生活に踏み出すことには、勇気が必要です。イスラエルの人たちが新しい進路に進み出す時、主なる神さまが共にいてくださることがどれほど心強かったのでしょうか。新しいことに踏み出す時、主の伴いをどのような時に感じますか。
- 創造主なる神さまが私たちの歩んできた歴史を導いてくださると知っていますが、「この現実を変えてください」と祈っても、変わらない現実があります。それでも、神さまが導いてくださっていることを信じたいと思います。それをどのような時に実感するのでしょうか、またわかっていても、実感できないとき、どのように乗り切るのでしょうか。
- 「同世代の人と一緒に礼拝したい」。私が少年少女の時に思っていたことです。賛美もメッセージも大人の言葉でよくわからないとっていました。あるとき、「若者」だけだけの礼拝に参加しました。みんな元気に賛美をしていて、ノリも良くて、楽しい気持ちになりました。でも、何か足りないと感じました。いつもの教会のいつもの礼拝に出席した時に、なぜかほっとしました。いろんな世代の人と一緒に礼拝することって、大切だなんて初めて感じました。世代の違う人と一緒に礼拝をささげる楽しさってどんなことがあるのでしょうか。

バビロンからの帰還

聖書 エズラ記1章1～11節

暗唱 聖句 上って行くがよい。神なる主がその者と共にいてくださるように。
歴代誌下 36 : 23

27 課

10 月 2 日

聖書から…

王さまの布告を聞く人たち、その人たちの中には50年以上も前に捕らえられ、バビロンに連れてこられて、大切な礼拝を神殿で守ることができないことに心を痛め、涙を流している人たちがいます。また、ようやく落ち着いた生活が送れるようになったと喜んでいる人たちもいます。王さまはどんな布告を出したのでしょうか。それは神さまを信じる主の民は「神殿を建てるためにエルサレムに帰っていい」というものでした。苦しい時も、希望が見えないような時も、預言者の言葉を信じて待っていた人たちは、それが神さまの導きであることを知ることができました。帰る決断をした人、残る決断をした人、神さまはそのような人々の真ん中にいてくださいます。

活動①

「神さま、ありがとう」

- ①みんなで椅子に座りましょう。
- ②リーダーが「キュロス王が言いました。上って行くがよい」と言うと、全員椅子から立ちあがり「神さま、ありがとう」と言きましょう。
- ③リーダーが「上って行くがよい」（キュロス王はぬかす）と言うと、全員椅子から立たないで耳に手を当て、よく聞こうとします。
- ④リーダーが「キュロス王が言いました。神さまを礼拝する神殿をつくりなさい」と言うと、全員椅子から立ちあがり「神

さま、ありがとう」と言います。

- ⑤リーダーが「神さまを礼拝する神殿をつくりなさい」（キュロス王はぬかす）と言うと、全員、椅子から立たないで耳に手を当て、よく聞こうとします。

* 王さまの心を動かしてくださった神さまに「ありがとう」を言いましょ。リーダー役は交代しましょ。

活動②

ワークシート

「布告を聞いて」

●準備●人数分ワークシートのコピー、鉛筆、消しゴム、色鉛筆など

- ①王さまの布告を聞いたユダの人たちの中にはどんな人たちがいたのか、「みんなで聴く聖書のおはなし」を聞き、出し合ってみましょ。年齢も背景もさまざまでした。

- ②布告を聞いた時、それぞれの人はどんな気持ちになったか考えてみましょ。

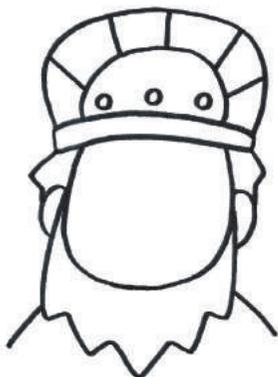
（喜ぶ人、戸惑う人…。クラスで出し合って、他の人の考えも聞きましょ）

- ③ワークシートの人物の顔に目、鼻、口を描きましょ。

- ④色を塗り、顔を書きましょ。

- ⑤吹き出しに言葉を書いて発表し合いましょ。王さまの吹き出しには暗唱聖句を書き、他の三人は、メンバーが自由に書きましょ。

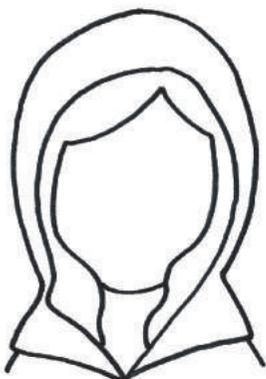
* 捕囚から50年以上が経ち、王さまの言葉を聞く人たちの思いは様々。一人ひとりの気持ちは違っても、それぞれの思いを神さまは受け止めてくださいます。



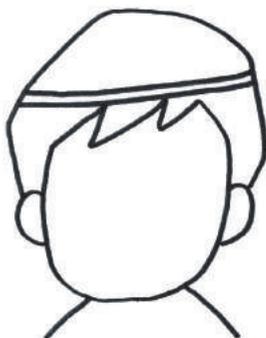
Speech bubble for the king.



Speech bubble for the man with a beard and mustache.



Speech bubble for the woman wearing a headscarf.



Speech bubble for the man wearing a cap.



神殿建設のはじまり

聖書 エズラ記3章1～13節

暗唱聖句 主の神殿の基礎が据えられたので、民も皆、主を賛美し大きな叫び声をあげた。エズラ3：11

28課

10月9日

祭壇を築く

「民はエルサレムに集まって一人の人のようになった」(3：1) という印象深い言葉によって、エルサレムに帰還した目的である神殿建設が始まり、6章の完成までの工事期間を過ごします。3節に「その地の住民に恐れを抱きながら」とあり、工事は順調に進まないことが予想されます。しかし、人々は、その不安で座り込むのではなく、立ち上がり、祭壇を築きます。

もう一つ印象的な言葉があります、「エルサレムの神殿に帰った」(3：8、参照・エズラ2：68)、工事はまだ始まっていません。6節に「主の神殿の基礎はまだ据えられていなかった」とあります。しかし、人々の心には、すでに完成している神殿の姿があります。主の約束の成就を確信して、祭壇を築きます。

かつて、アブラハムが主の祝福の約束によって、旅立った後、行く先々で祭壇を築いたように(創世記12章)、人々は祭壇を築きます。祭壇と言えば、そこで献げられる「物」のこともあります。そこには、主との交わり、祈りがあります。こうして、工事が始まります。

エルサレムでの生活

「第七の月になって」(3：1、6) というのが、バビロンからエルサレムに帰還して、七カ月目のことか、当時の暦の七月(現在の暦での9～10月)なのかは不明ですが、エルサレ

ムでの生活もそれなりの日数がたっているようです。当時の暦の七月とすると、仮庵祭を行う月です。この祭は、出エジプトの荒野の苦しみを記念するものですから、新しい出エジプトとしてのエルサレム帰還にふさわしいものです。こうして、先に覚えた献げ物として、焼き尽くす献げ物をはじめ、様々なものがあげられています。相当数の家畜が献げられたことが想像できます。

また、神殿建設に携わる石工と大工への銀貨は先払いされたようです。その滞りはありません。シドン人とティルス人には、食べ物と飲み物と油が与えられています。この油はおそらくオリーブ油、食べ物と飲み物は農作物によるものと考えられます(パン、ぶどう酒)。農作業が豊かな実りをもたらしていたことがうかがわれます。ここにも仮庵祭の意味があります。この祭は秋の収穫祭という側面があります。

さらに、建築資材としての杉材供給もペルシア王キュロスの許しと共に、レバノンの地から海路、無事に進んでいます。そこには、近隣諸国との友好関係があります。神殿建設の先行きには不安があります。不安を数えるとキリがありません。しかし、主の恵みを数えてもキリはないのです。献げ物は主の恵みへの応答です。

定礎式の礼拝

ついに工事が始まります。「神殿の基礎を据え」(3：10) ました。次に立てるのは、柱でしょうか。立ったのは、祭司とレビ人で

す。工事はまだ基礎段階です。予想される困難を考えると工事を急いだ方が良いでしょう。しかし、ここに、賛美の歌声が響き渡ります。「イスラエルの王ダビデの定めに従って」ということから、表題に「ダビデの詩」とある詩編3～41のうちの何かが、「主は恵み深く、イスラエルに対する慈しみはとこしえに」という言葉からは、詩編106、107、118、136などが聞こえてくるようです。

その賛美に民の喜びの歌声が加わります。ところが、泣き声も混じっています。かつてのソロモンの神殿を知っている年配の人たちの声です。それは再建のうれし涙ではなく、これまでの苦勞を思っ^ての泣き声、ソロモンの神殿と比べると新しい神殿が大きさも見栄えも劣っていることへの嘆きの声でもありそうです。

二つの声が響き渡ります。「遠くまで響い

準備のための聖書日課			
3日	㊦	捕囚から帰って来た人々たち	エズラ2:1～35
4日	㊧	捕囚から帰って来た神殿関係者	エズラ2:36～58
5日	㊨	心と意思を一つにして	使徒言行録 4:32～36
6日	㊩	神殿再建のための献げ物	エズラ2:64～70
7日	㊪	主に贖われた感謝	詩編107:1～9
8日	㊫	主の慈しみはとこしえに	詩編136:1～26

た」ということには、横への広がりと共に、遠く天までの響きを考えてよいでしょうか。喜びの声、嘆きの声、賛美の声、献げ物の煙が主に届いています。



成人科

●「十人十色」という言葉がありますが、私はより小さい数字の「三者三様」という言葉の方を感じる事が多くあります。たとえ、二人であっても、意見の違い、考えの違いがあり、それがぶつかること、一致できないことがあります。ここにある「一人の人のようになった」という出来事に、圧倒されます。当時の人口は不明ですが、十人どころではない数の人が「一人の人のようになった」ということ、もちろんそれは、「声の大きな人」の意見で、一つにまとめられたということではありません。何かの強制力によって、一つになる、ということは論外ですが、私たちは何によって、どのようにして「一人の人のようになる」のでしょうか？

●献げ物がささげられ、賛美が広がる場面に、「礼拝」の光景が広がっています。しかし、そこに集う者は、日常生活での恐れを抱いており、目の前にあるのは、完成した神殿ではなく、建物の基礎があるだけです。未完のものがあ^るります。それは言葉を変えると、これから先に不安があるということです。しかし、ここに、礼拝があります。私たちは、喜びと感謝を携えて、礼拝に集いますが、恐れや不安を抱えて集う者でもあります。今日は何を持って礼拝に来ましたか？

神殿建設のはじまり

聖書 エズラ記3章1～13節

暗唱
聖句

主の神殿の基礎が据えられたので、民も皆、
主を賛美し大きな叫び声をあげた。エズラ3：11

28
課

10
月
9
日

誇らしくラッパが吹き鳴らされ、シンバルが華やかに響く。晴れやかな賛美の声をあげるレビ人の列の中に、父さんと兄さんがいる。「主は恵み深く、慈しみはイスラエルに」。その先唱に続いて、あたしも他のみんなと一緒に歌う。「主は恵み深く、慈しみはイスラエルに！」

今日は神殿の基礎が据えられた感謝の礼拝。心が弾む。エルサレムに来た時、バビロンで聞いてた美しいエルサレムは、なかった。神殿も祭壇も崩され、町も荒れてた。それを見た時は気持ちがおしお沈んだけど、一緒に帰って来た祭司たちは、立ち上がってあたしたちを元気づけた。

周りの民の邪魔を恐れながらも、祭司たちは昔の神殿の土台の上に祭壇を築き、まず神さまに犠牲を捧げた。久しく捧げられることのなかった捧げものの煙が、天にまっすぐ立ちのぼるのを、あたしたちは見上げた。

その後、きちんと寸法通りに切られた石や、いい匂いの太くてまっすぐな木材が、次々とエルサレムに運ばれてきた。みんな力で力を合わせて懸命に働いて据えられたのが、この神殿の基礎。若々しい賛美の聲がはじけるようにあがる。

礼拝の途中、下を向いて弟を背負い直していると、目の前で影がゆらりと揺れ、「お…お……」と言う声と同時に、ぱたぱたと乾いた地面にしずくが落ちて茶色いしみとなった。何だろうと見上げた先に、じい



ちゃんのしわくちゃな泣き顔があって、あたしはぎょっとした。「じいちゃん、どうしたの。なんで泣いてるの？」バビロンでも、エルサレムでも、決して失望せず、みんなを励ましてたじいちゃんが泣いてる。「エリシェバ…。わしが知っているソロモン王さまの造った神殿は、もっと大きくて、美しくて、立派だった。精いっぱいがんばって、これが今のわたしの現実なのか…」。じいちゃんはぼろぼろ涙を落としながら声をしばった。「じいちゃん…。あたしはじいちゃんのごつごつした手をそっと握った。

みんなで力を合わせて据えた神殿の基礎。根無し草だったあたしたちが、やっと根っこを張ったみたいで、あたしはうれしい。「じいちゃん、あたしたち、これからこの基礎の上に神殿を建てていくんだよ。神さまはあたしたちを決して忘れてなかったじゃない。荒れ果ててたこの場所に、土台を据えてくださったんだよ」。じいちゃんたちの泣き声も、あたしたちの喜びの声も、神さまへの賛美の祈りとなって立ちのぼり、高く、遠く、絡まりながら広がって…。空に、とけた。

神殿建設のはじまり



聖書

エズラ記3章1～13節

暗唱
聖句

主の神殿の基礎が据えられたので、民も皆、
主を賛美し大きな叫び声をあげた。エズラ3：11

28
課

10
月
9
日

聖書から…

神殿建設が始まりました。バビロンに壊された神殿を知っている人たちもいれば、初めてエルサレムの地を踏む人たちも、一緒になって神殿建設に向かいます。神殿建設は、私たちにとっては、規模は違うけれども教会建設と言えるかもしれません。建物に一番大切な基礎が造られた時、みんなで主を賛美（礼拝）したと聖書には書かれています。まだ建物全体ができた訳でもないけれど、神さまが必ず完成させてくださるであろう神殿で、神さまへの賛美があふれる礼拝をささげる姿を想像できたのだと思います。だからこそ、建物の基礎の段階で、すでに賛美が起こされたのでしょうか。すべては主が備えてくださっているのです。

壊された神殿を、また造り直すということは大変だけれども、でも一緒に礼拝する場所が整えられていくということは何れも嬉しいことだったのでしょ。昔を知っている人たちにとっては、これっぽっちの神殿しか建てられないという思い、初めて神殿をみる人たちにとっては、堂々と礼拝することができる神殿がもうすぐ完成するんだ！という思いなど、いろいろな思いが混ざり合う中で、イスラエルの人たちは主を賛美していました。私たちの礼拝も、いろいろな世代、いろいろな背景、いろいろな経験をもった人たちが一緒に集いあっている豊かさに溢れています。

分かち合おう

- 「民も皆、主を賛美し大きな叫びをあげた」（3：11）。その叫びの中に、喜びも泣き声も含まれていたと聖書に書いています。私たち自身も整理されない色々な感情を持ちながら礼拝をささげているのではないのでしょうか。教会にきて元気が出た！礼拝に出席したら元気になった、そんな経験はありませんか？ 私たちにとって礼拝とは、教会とは、なんなのでしょうか？
- 「最近の若者は…」 「あなた、若いんだから…」なんて言葉聞いたことありませんか？ そう言われてしまうと、なんだか、あなたは違うグループと言われているようで、少し寂しくなります。違う世代の人たちと比べるのは聖書の時代にもあったと思います。一人ひとりが経験したことは時代や社会によって異なりますが、礼拝と一緒にささげることにはできると思います。おはなしの中に出てくる「じいちゃんのしわくちゃな泣き顔があって、あたしはぎょっとした」を読んでどう感じましたか。一緒に礼拝をささげる方とこれまでの経験や、なぜ礼拝に集っているのか、なぜ聖書を読むのかなど分かち合ってみませんか？

神殿建設のはじまり

聖書 エズラ記3章1～13節

暗唱 聖句 主の神殿の基礎が据えられたので、民も皆、主を賛美し大きな叫び声をあげた。エズラ3：11

28課

10月9日

聖書から…

神さまに「焼き尽くす献げ物」をささげている人たちの心はひとつになりました。バビロンでの捕囚の生活を人々は、「大変なこと、色々あったよね」「希望が持てないようなときもあった」などと口々に話しました。そして今、神殿の基礎が据えられて、みんなで一緒に賛美をささげることができたのです。その喜びの中で、変わらぬ導きと備えをいただいていたことを思い起こすことができました。賛美と共に泣き声もあちらこちらから聞こえてきます。年配の人たちが泣いているのです。うれしい気持ちと共に、人々は思い出していたのです。「ソロモンの神殿は立派だった」「もっとずっと大きかった」と。神さまを礼拝する人の思いはさまざま、捧げる働きも異なります。しかし、そんな人々を、神さまへの感謝の賛美がつかないでいきました。

活動①

みんなで賛美しましょう

●準備●タンバリンや鈴、カスタネット(音の出る楽器を用意、または手拍子)

*「ハレル ハレル」(『ふくいんこどもさんびか』48番 日本児童福音伝道協会)を賛美しましょう。

(例)「ハレル」と「ハレルヤ」を歌うときは楽器をたたく(または手拍子)。

「主をほめよ」を歌うときは楽器を振る(または手を上にあげてふる)

*「ハ、ハ、ハレルヤ」(『プレイズワール

ド』1番 いのちのことば社)を賛美しましょう。

・歌いながらうれしい気持ちで自由に踊ってみましょう。

・「なんだかウキウキ」と「なんだかワクワク」をどんな風に踊りましょうか。

一人ずつ発表してみましょう。一緒に喜び合えるって素敵。喜びはどんどん広がっていきますね。世界中に、イエスさまと一緒に喜びが広がりますように…、一緒にお祈りしましょう!

活動②

ワークシート

「ソロモンの神殿」

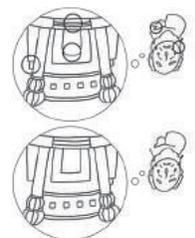
●準備●ワークシートのコピー、鉛筆、消しゴム(人数分)

ワークシートに描かれている2つの絵を比べてみましょう。この絵は、「ソロモンの神殿はりっぱだった」と年配者が思い出している神殿です。2つを比べると違いが5つあります。探してみましょう。

*ソロモンの神殿とは?

ソロモン王によって、紀元前958年に建築が始まりました。建築には7年半かかりました。列王記上6章、7章には神殿の壮麗さが詳しく描かれています。

紀元前586年に新バビロニア王国のネブカドネツアル王の軍によって、南ユダ王国が滅亡したとき、この神殿は破壊されてしまいました。



神殿のつくりかた





神殿の完成

聖書 エズラ記6章13～22節

暗唱 聖句 主御自身が建ててくださるのでなければ 家を建てる人の労苦はむなしい。詩編 127：1

29課

10月16日

神殿完成に至るまで

神殿の建設工事は、様々な困難に直面しての遅々とした歩みでした。20年ほどの中断も考えられます（参照・エズラ4章）。旧約聖書を開くと、困難にある時、主の召命を受けた預言者が登場し、慰めと希望を語ります。今回の神殿工事の困難に関しては、14節に「預言者ハガイとイドの子ゼカリヤの預言に促されて順調に建築を進めていたが」とありますが、この二人については、エズラ5：1～2に記されています。

そこにはその具体的な預言の言葉は記されていませんが、ハガイ書2：6～9には、次のようにあります、「まことに、万軍の主はこう言われる。わたしは、間もなくもう一度天と地を、海と陸地を揺り動かす。諸国の民をことごとく揺り動かし、諸国のすべての民の財宝をもたらし、この神殿を栄光で満たすと万軍の主は言われる。銀はわたしのもの、金もわたしのものと万軍の主は言われる。この新しい神殿の栄光は昔の神殿にまさると万軍の主は言われる。この場所にわたしは平和を与える」。

ちなみに、ハガイは、幼い頃にソロモンの神殿を見たことがあり、預言者として召された時は、80歳以上の年齢であったと考えられます。一方のゼカリヤはハガイに遅れること二か月ほどして、預言を始めます。それは、八つの「幻」という独特な形での励ましとなっています（ゼカリヤ書1：7～6：8）。

神殿完成

ついに、神殿が完成します。14節に「ペルシア王キュロス、ダレイオス、アルタクセルクセスの命令によって」とありますが、その言葉に先立つ、「イスラエルの神の命令」によって、工事は完了したのであり、それは、先のハガイとゼカリヤの預言の成就です。

詩編の歌声が聞こえてくる思いがします、「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなしい。主御自身が守ってくださるのでなければ、町を守る人が目覚めているのもむなしい。朝早く起き、夜おそく休み、焦慮してパンを食べる人よ、それは、むなしいことではないか。主は愛する者に眠りをお与えになるのだから」（詩編127：1～2）。ついに、神殿が完成しました。長年の苦労も吹っ飛びます。今晩はゆっくりと眠ることができます。いや、喜びの興奮で眠れないかも。

神殿奉献式

場面は苦難から喜びへと転換します。「イスラエルの人々、祭司、レビ人、残りの捕囚の子らは、喜び祝いつつその神殿の奉献を行った」（6：16）。大喜びの場面ですが、忘れることのない、「（バビロン）捕囚」、そして、この後行われる、過越祭で記念されるエジプトでの苦しみ（と、そこからの解放）です。「アダルの月」は、ユダヤの暦では12月になりますが、現在の暦での2月から3月です。冬から春へ季節が変わる頃、教会が受難週を

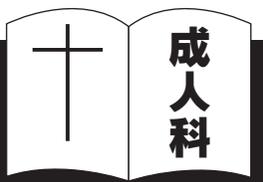
過ごす時と重なります。21節には、「過越のいけにえにあずかった」とありますが、「主の晩餐にあずかる」ことの意味をかみしめる場面にもなります。

奉献式に戻りましょう。奉献のためにささげられた家畜の数があげられています、「雄牛百頭、雄羊二百匹、小羊四百匹」(6:17)。歴代誌下7:5には、ソロモンが神殿奉献の時にささげた家畜のことが記されています。その数字には多少の誇張があると考えられますが、それを差し引いたとしても桁違いの数字です。

また、神殿の建物も、ソロモンの神殿と比較すると規模も見栄えも劣っています。しかし、ここに、ソロモンの神殿奉献にはなかったものが一つあります。「贖罪しよくざいの献げ物」です。「全イスラエルのために」とあるわりには、

準備のための聖書日課			
10日	㊦	神殿建設の困難	エズラ4:1~5
11日	㊦	キュロスの布告の再確認	エズラ5:17~6:5
12日	㊦	預言者ハガイの励まし	ハガイ2:1~9
13日	㊦	預言者ゼカリヤの励まし	ゼカリヤ6:9~15
14日	㊦	岩の上に土台を置いて	ルカ6:46~49
15日	㊦	主御自身が建ててくださる	詩編127:1~5

雄山羊十二匹という寂しい？数字です。しかし、ここにあるのは喜びを与えてくださる主との交わりの回復です。それは神殿の完成に勝るとも劣らぬ喜びの出来事です。



成人科

- 何かのわざをしていて、それが順調に進まない時、孤軍奮闘こぐんふんとうしている思いに

なることがあるでしょうか。しかし、そこには、気づいていない仲間、見えていない協力者、聞こえていない祈りがあります。もしかしたら、それらの仲間たちの励ましの言葉が、自分には厳しい言葉に聞こえ、聞きたくない言葉として、無視し、誰も自分のことをわかってくれない、助けてくれないと、自分を孤軍奮闘している英雄のようにとらえていることがあるかもしれません。ハガイやゼカリヤの預言の言葉は、人々にどのように届いていたのでしょうか。何より、最高の協力者としての主なる神がおられることを

どのように受け止めている自分がいるでしょうか。

- 神殿完成の喜びは確かなものです。と言いつつ、私たちは自分のものと他のものを数字で比較しがちです。ソロモンの神殿と比べて、建物が大きい小さい、ソロモンの神殿と比べて、建築のスピードが、速い遅いなどなど。しかし、ここには、数字では表せないものがあります。それは、主なる神の前にある自分です。復活の主「この人はどうなるのでしょうか」と尋ねたペトロに「あなたは、わたしに従いなさい」と言われたイエスさまの言葉を思います(ヨハネ21:20~22)。

神殿の完成

聖書 エズラ記6章13～22節

暗唱
聖句

主御自身が建ててくださるのでなければ 家を建てる人の労苦はむなし。
詩編 127:1

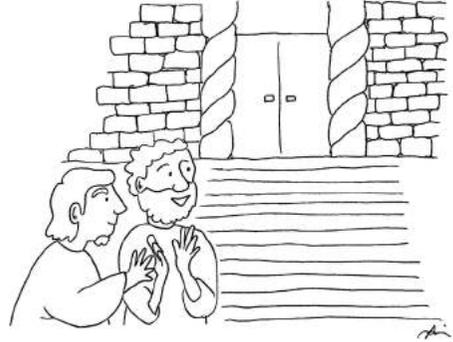
29
課

10
月
16
日

「かあちゃん、もっとよく見たいよ！」服の裾を引っ張るアサフを、もう抱くには重いけどと思いつつも、あたしはよいしょと抱き上げる。「どう？見える？」「うん！神殿の石、つやつやだ。あっ。山羊が焼かれてるよ」。アサフが鼻をひくひくさせる。新しい杉材の香りに混じり、贖罪しほくざいの捧げものの香ばしい煙が上がる。「あれはあたしたちみんなの罪を許してくださいという捧げもの。あたしたちが、神さまの前に立ち帰る証し」。あたしはアサフの耳元でささやく。イスラエル部族分の12匹の雄山羊。お受け取りくださいと祭司たちが祈り、賛美を捧げる。あたしたちもその後について声を上げる。アサフはあたしの胸元の黒いすべすべ石をなでながら周りを見ている。エルサレムにやって来た時、あたしは小さな子どもだった。

とうとう神殿が完成した。今日は神殿の献堂礼拝。ここまで本当に長かった。神殿の土台を据え、さあこの上に柱を立て壁を張ろうと張り切っていた。だのにこのあたりの監督人たちのたくらみで、ペルシア王の中止命令が出され、工事は無理やり中止となって、そのまま20年。あたしたちはすっかり心折れてしまった。

そんな時、預言者ハガイとゼカリヤが立ち上がった。「さあ、さあ、神殿を荒れたままにしてよいものか！途中で放り出してはいけない。みんな勇気を出して工事を続けよう。神さまは必ず成し遂げてくださ



る」。あたしたちはその言葉で目覚め、工事を再開した。その言葉通りに神さまはペルシア王の心を動かし、神殿再建を続ける命令が出された。必要な建材も与えられ、あたしたちは元気づいて工事を続け、とうとう神殿が完成した。

この長い年月を通して示されたのは、神さまの言葉は必ず成し遂げられるということ。信じ切れずに離れてしまうあたしたちを、神さまは引き戻してくださった。

来月には過越祭が行われる。昔々神さまが民をエジプトの奴隷の地から導き上げてくださったことを記念し感謝するお祭り。バビロンでの捕囚の時を過ごして、神さまにエルサレムへと導いてもらったあたしたちには、その恵みが自分によくよく重なる。昔も今も、神さまの言葉は必ず実現することをあたしたちはこの身に刻む。

でき上がった神殿をあたしはまぶしく見上げる。神さまが建ててくださらなければ、この神殿はでき上がらなかった。生きて働いてくださる神さまとの関係をもう一度取り戻して、新しくあたしたちの民は歩む。

神殿の完成



聖書

エズラ記6章13～22節

暗唱
聖句

主御自身が建ててくださるのでなければ 家を建てる人の労苦はむなし。
詩編 127：1

29
課

10
月
16
日

聖書から…

捕囚から帰ってきたイスラエルの人たちが神殿を建てることができたのは、主から励まされ、そして同じ主を見上げる仲間と一緒に建築のいろいろな働きに携わったからだと思えます。祈りをささげる人がいて、身体を動かす人がいて、礼拝を整える人がいて、建築の工程全体を管理する人がいて、主の言葉で励ます人がいて、疲れて帰ってきた人のために食事を整える人がいて…。神殿建築の背後にはたくさんの人が祈り続けてきたのでしょう。

神殿建設までの道のりは喜びの出来事だけではなかったようです。きっと完成を見ることができない人もいたかもしれません。物心ついたら新しい神殿があった人もいたかもしれません。人々は、神殿完成の喜びを礼拝で神さまにお返しします。その喜びを一緒に超越しの食事を分かち合うことで共有しました。一人でも主を礼拝し、祈ることはできるけれども、私たちが一緒に主を礼拝し、祈ることの本質がここにありそうな気がします。

分かち合おう

- これが主のみ心だ！ と思ってもうまく事が進まない時、それは主のみ心が変わった、または祈りが足りないと思ってしまいますか。主のみ心って誰が教えてくれるのでしょうか。イスラエルの人たちは預言者の希望の言葉に励まされながら、神殿建築を進めてきました。私たちの教会には預言者はいますか。牧師？ 執事？ 教会学校の先生？ バプテスト教会の預言者は、聖書のみ言葉を読む私たち一人ひとりです。教会につながる私たちも聖書に聞きながら、教会を建てていくことができるのでしょうか。今教会が直面する課題に取り組むために、聖書はどのような導きをくれるのでしょうか。あなたが受け取った神さまからのみ言葉を教会の「大人」の人たちと分かち合う場所はありますか？
- 新型コロナウイルスの影響を受け、礼拝がオンラインになったり、食事を共にできなくなったり変化がありました。今までは大きな声で賛美をしていたのに、気を使いつつながら礼拝をささげる。これまでみたいに一緒に礼拝をすることはもうできないかも…と頭をよぎります。今主に喜ばれる方法で礼拝をささげることができるよう、主に託された働きのために何ができるだろうかと祈ることはできます。また、これまで当たり前だった食事の準備や礼拝のために必要な環境を整えてくださっていたのは誰でしたか。教会での見えない働きや、誰が担っていたのか分かち合ってみましょう。

神殿の完成

聖書 エズラ記6章13～22節

暗唱 聖句 主御自身が建ててくださるのでなければ 家を建てる人の労苦はむなしい。詩編 127:1

29課

10月16日

聖書から…

神さまからの約束の実現を待つには忍耐と祈り、そして神さまへの信頼が必要です。「いつまで待つのだろう」、「本当に実現するのだろうか」、次々とわいてくる思いがあります。「神さまは私たちを見放すのでは」「困難に打ち負かされるにちがいない」などの声も聞こえてきます。しかし、ついにイスラエルの人たちは新しい神殿を見ることができました。そして神さまの預言は成就したのだと知りました。預言者ハガイは預言しています。「この新しい神殿の栄光は昔の神殿にまさると万軍の主は言われる」(ハガイ2:9)。

自分だけが忍耐していると思えば辛くなる時があります。そのような私たちを、神さまは愛し赦して下さり、励ましと希望を注いで待ち続け、実現の時を用意してくださっています。遠い昔も、そして今も。

活動①

「みことばをありがとう」

「ありがとうイエスさま」(『新生讃美歌』323番 日本バプテスト連盟発行)を歌いましょう。2番では、イエスさまを「いのちのパン」とうたっています。「いのちのパン」をいただくことができる私たちがうれしくなる時は、どんな時ですか。

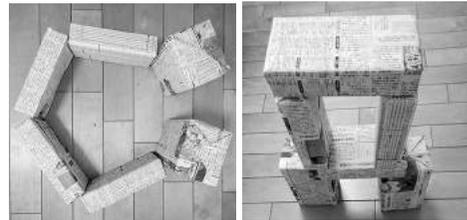
活動②

「さあ建てよう」

段ボール箱や未使用のティッシュペーパー

一箱(新聞などで包んでおく)を6個～8個くらい用意します。積み上げていろんな形を作ってみましょう。

- ①広くするにはどうしますか。
- ②高くするためにはどのように積みますか。
- ③どうしたら力を合わせることができるのでしょうか。



活動③

ワークシート

「約束のみことば」

●準備●ワークシート はさみ

- ①神さまの約束の言葉、ハガイ2:9を読みましょう。
- ②線に沿ってばらばらに切りましょう。
- ③元に戻し、読んでみます。
- ④ピースをばらばらにし、全員で元に戻しましょう。
- ⑤メンバー一人(Aさん)は目を開け、他のメンバーは目をつぶります。Aさんがピース一枚をはずします。
- ⑥他のメンバーは、はずされた言葉を言います。そのあとでピースをはめます。
- ⑦隠す言葉を増やし、その言葉を声に出して言ってみましょう。
- ⑧神さまからの約束、その約束が実現した時のイスラエルの人たちの喜びの気持ちを考えて互いの思ったことを分かち合ってみましょう。



あたら
この 新しい

しんでん
神殿の

えいこう
栄光は

むかし
昔

しんでん
の神殿

に

まさると

ばんぐん
万軍の

しゆ
主

は言

い
は言

われる

ハガイ 2 : 9



礼拝を整える人たち

聖書 エズラ記8章15～23節(参照8:24～30)

暗唱聖句 あなたたちは、主にささげられた聖なる人々です。
エズラ8:28

30課

10月23日

わたし・エズラ

神殿完成の喜びに続いて、出来事の舞台は再びエルサレムからバビロンに戻っています。それは新しい出来事の始まり、いよいよ、エズラが登場します(エズラ7:1)。唐突な感じのエズラの登場ですが、彼については「イスラエルに対する主の戒めと掟の言葉に精通した、祭司であり書記官」(エズラ7:11)とありますから、バビロン捕囚の民の中では、よく知られた人物だったのでしょう。また、ペルシア王との交渉も行っていますから、相当な実力者であったことがうかがえます。しかし、人間の何かではなく、神によって立てられているエズラであることを忘れてはなりません(エズラ7:6)。神のみ手によって、エズラは完成した神殿に必要なものを整えていきます。

神殿に必要なもの

神殿に必要なもの、言葉を変えると、礼拝に必要なものです。エズラはその整えのために奔走します。その行動については、前後のつながりの分かりづらい点があり、詳細を正確にたどることは難しいのですが、繰り返される言葉があります。「慈しみ深い神の御手がわたしたちを助けてくださり」(エズラ8:18)、「わたしたちの神を尋ね求める者には、恵み溢れるその御手が差し伸べられ」(エズラ8:22)、神のみ手によって、必要なものが整えられていきます。

礼拝に必要なものは何でしょうか。器とし

ての神殿は完成していますから、その中身ということになります。24節以下で、祭具のことが語られています。とても高価な品々です。しかし、祭具のことは、すでにエズラ1:5～10で報告がなされています。今回の祭具の話と矛盾しているのか、それとも追加された祭具なのかはわかりませんが、いずれにしても、これらの祭具以上に、礼拝に必要なものがあります。それは、人です。言葉を加えるならば、主を賛美する「人」、主に仕える「人」です。

神殿に仕える人たち

エズラの行動のきっかけは、アルタクセルクセス王からエズラへの親書です(エズラ7:13)。このことで、エズラは主を賛美し、自分と共に行く者を集めます(エズラ7:27～28)。集まったメンバーが、エズラ8:1～14に記されています。主を礼拝する人たちです。民がいて、祭司がいます。しかし、レビ人がいません。

「レビ人」について、民数記3章に記されています。その7～8節に「彼らはアロンと共同体のために臨在の幕屋を警護し、幕屋の仕事をする。すなわち、臨在の幕屋にあるすべての祭具を守り、イスラエルの人々のために幕屋を守り、幕屋の仕事をする」とあります。この「幕屋」を「神殿」と言い換えることができます。その働きの中には、賛美のつとめもありました。

時代状況は変化していますが、バビロンに捕囚とされた人たちの中に、レビ人がいない

とは考えられません。エズラは複数の人たちを通して、「神殿に仕える人」を再募集します。招きに応えた人たちが来ました。「慈しみ深い神の御手の助け」によって、神殿に仕える人たちです。

旅の無事を祈る

神殿の礼拝に必要なものが整えられました。いよいよ、エルサレムに向かって出発です。しかし、心配事があります。「道中で待ち伏せする敵」（エズラ8：31）です。「主にささげられた聖なる人たちが運ぶ祭具は高価です。銀22トン、祭具と金は3.4トン、旅路の日数は最終的に100日以上になります。主に祈らずにはおられません。断食を伴った祈りです。旅の無事を保証するのは、「武力」（7：22）ではなく、神の御手です（7：

準備のための聖書日課		
17日	㊦	捕囚から帰って来たエズラ エズラ7:1~10
18日	㊦	必要なことはただ一つ ルカ10:38~42
19日	㊦	どのようなときも主をたたえ 詩編34:2~11
20日	㊦	エズラと共に行く人びと エズラ7:27~8:14
21日	㊦	自分の体を神に献げて ローマ12:1~8
22日	㊦	盛大な宴会への招き ルカ14:15~24

31)。その神に仕えようとする思いと賛美する心が旅の足取りを軽やかにしたでしょう。無事にエルサレムに到着し、主に献げ物をします（エズラ8：35）。



成人科

●エルサレムに神殿を建てることを目的として、人々はバビロンから帰ってきました。そして、神殿は完成しました。ところが、ここで、エルサレムに帰らず、バビロンに残っていた人たちがいたことが知られます。神殿建築にかかわらなかった人たちです。エズラもその一人と考えられます。

教会において大きな決断として、会堂建築や牧師招聘しょうへいがなされます。そこには痛みを伴う決断があったり、大きな課題（借入金の返済など）が残ることがあります。その決断をした人たちは、そのことに誠実にかかわり、神さまに应答していくのですが、その決断の場（時）にいなかつ

た人たちと意思を一つにできないことが起こったりします。しかし、ここにその違いを克服する出来事として、礼拝が整えられていきます。そこに神によって結ばれる共同体が形作られます。

●礼拝のために奉仕する人たちが求められています。エズラは「再募集」ということを行っています。教会においても、礼拝や教会学校の奉仕者の再募集、さらに、再々募集が繰り返されている現実があるかもしれません。そこで求められているのは、特別な能力のある人なのか、主を賛美する者とは、主を喜ぶ者です。その募集に応募しますか？

礼拝を整える人たち

聖書 エズラ記8章15～23節(参照8:24～30)

暗唱 聖句 あなたたちは、主にささげられた聖なる人々です。
エズラ 8:28

30
課

10
月
23
日

エズラは、身の内からパチパチと火花がはぜているような人だ。アハワ川で、あたしは初めてエズラを見た。アロンの家系の祭司で、律法に詳しい者としてペルシアの書記官をしているエズラは、旅立ち準備をした大勢の人を前に、ひとりで向かい立っていた。これから何を言うのかと、あたしたちは息をつめた。

カシフヤのあたしたちの村にエズラから使いが来たのは数日前。あたしは兄弟たちと村を見下ろす丘で羊の世話をしていた。長のイドの家に入って行く彼らの雰囲気も人数も、ただ事じゃないと見ていたら、夜、イドが父さんやおじさんを訪ねて来た。あたしは静かに壁向こうの話し声に耳を澄ませた。「なあ、ハシャブヤ、エシャヤ、ぜひエルサレムに行ってはくれまいか。今日エズラから伝令が来た。エズラは捧げものを携え、律法を教えるためにエルサレムに行こうとしている。神殿で奉仕するレビ人が必要だ。男たちが1500人ほど集まったが、レビ人がいないそうだ。あんたたちはこれまで忠実に神に仕えてきたレビ人だ。どうだろう」。エルサレムだって！あたしはばあちゃんがくれたアーモンドの花色のすべすべ石をさわった。ミリアムばあちゃんは同じ名前のあたしに、自分が子どもの頃たくさんの方がエルサレムに帰ったことをよく話してくれた。

朝になると、あたしたち家族はエルサレムに行くことが決まっていた。大急ぎで荷



造りし、アハワ川で待っている人たちと合流した。赤ちゃんから大人まで、羊や牛などの家畜も含めてとんでもなく大きな旅団だった。固唾をのんでいるあたしたちの前で、エズラは口を開いた。「招きに応じてエルサレムに旅立つ決心をしたあなたたちよ。これから数ヶ月にわたる旅が守られるよう、私は断食し、神に祈る。あなたたちも同じようにしてほしい。慈しみ深い神は、ペルシア王の心を動かされた。王や国中の人々から神殿に捧げるよう貴重な金銀も預かった。幼い子どもたちも連れての旅だ。私たち一行を狙う敵もいるだろう。だが私は王に護衛を求めなかった。なぜなら、ここまですべてを整えてくださった神が、私たちを守ってくださるからだ。主なる神にひたすら信頼し、みんなで祈ろう。みんなそろってエルサレム神殿で心から礼拝しよう。そして祭司たち、レビ人たち、あなたたちは神にささげられた聖なる人たちだ。心して神殿で主なる神に仕えてほしい」。進んでひざまずき祈るエズラに続き、あたしたちも神さまに真剣に祈った。

礼拝を整える人たち

青少年科



聖書

エズラ記8章15～23節(参照8:24～30)

暗唱
聖句

あなたたちは、主にささげられた聖なる人々です。
エズラ8:28

聖書から…

私たちがささげている礼拝のために、どれだけの準備や働き人がいるのでしょうか。預言者エズラも礼拝を整えるために奔走していたのでしょうか。礼拝する場所は整ったけど、礼拝に必要な何か足りなかった。建物はあつた。礼拝に必要な祭具もある。それよりも大切なのは、礼拝をささげる人だと聖書は語ります。私たちの礼拝は、そこに集う人が大切にされつつ、主に礼拝をささげる場所となっているのでしょうか。

礼拝の式次第はだれが決めて、どんな意味があるのか。私たちはこんな礼拝がしたい！こんな賛美がしたい！と願っても、礼拝を最後に整えてくださるのは、主なる神なんだとエズラたちの物語から示されます。どんな時でも、どのような形でも、私たちの礼拝が続けられているのは、主の整えがあつてこそ。私たちは、主が整えてくださる礼拝に招かれているのです。バビロンからエルサレムに、主から礼拝への招きをいただいて旅をしていく人たち。私たちが礼拝をささげるために向かうその道のりと距離は違うのかもしれませんが、きっとワクワクドキドキしながらその旅路に踏み出していたのでしょうか。

分かち合おう

- 礼拝に必要なものは何でしょうか。礼拝堂？ 静かさと厳かさ？ 賛美歌？ 整った祈り？ ピアノ？ オルガン？ 説教者？ 司会者？ 礼拝するスペースだけではなく、受付や週報を準備する人、会堂の掃除当番や郵便物の管理をする人、礼拝奉仕者のために祈る人…。礼拝の時間だけではなく、備えのためにも多くの時間と大切な働きがささげられ、礼拝になっているのだらうと思います。礼拝のために「わたし」ができることは何があるのでしょうか。話し合ってみましょう。
- 海外からの訓練生や留学生、実習生が増えてくると日本語を第一言語としない方が教会を訪れてくださる機会も増えてきたのではないのでしょうか。自分の言葉で礼拝に参加することができない人もいます。日本語を勉強中で、日本語の礼拝がわからない人もいます。自分たちの礼拝の場所を持っていない人たちもいます。それでも祈るために教会を訪れてくださる。神さまから教会の礼拝に招かれているのに、実は一緒に礼拝に与ることができていない「誰か」がいらないのでしょうか。私たちの礼拝に、教会学校に、神さまに招かれて集う人はどんな人でしょうか。分かち合ってみましょう。

30課

10月23日

礼拝を整える人たち

聖書 エズラ記8章15～23節(参照8:24～30)

暗唱 聖句 あなたたちは、主にささげられた聖なる人々です。
エズラ8:28

30課

10月23日

聖書から…

みんなで一緒に神さまを礼拝する神殿ができました。なんとうれしいことでしょう。人々は喜びました。そして神さまは、その完成した神殿で捧げる礼拝を整えるために、エズラを立ててくださいました。エズラはエルサレムに向かって旅立ちます。礼拝に必要なものを神さまに尋ね、そして聴きながら礼拝を整えるためにです。神さまの導きはエズラから離れることはありません。神さまの導きを第一に求めて歩む時に、神さまはその人に応えてくださることを、エズラは共にエルサレムに向かう人々に伝えました。礼拝に、祭具以上に必要なもの、それは神さまに祈り求め、導きの言葉に信頼し、そして恵みと慈しみを感謝する人です。その人々の賛美で満ちる礼拝を神さまは喜んでくださいます。

活動①

ワークシート

「礼拝を整えるために」

●準備●週報、ワークシート(人数分)

礼拝を整えましょう。

- ①週報から、礼拝を整えるためにどんな奉仕がされているか探してみます(週報がない場合は、主日礼拝の中で、また一週間で、礼拝を整えるためにどんな働きや奉仕があるのか考え、出し合ってみましょう)。
- ②週報 司式 宣教 奏楽 お花 掃除 会衆 受付 献金祈禱 録音 音響 他

- ③人型の空欄に、どんな奉仕がされているか考え、書き入れます。人型が足りない場合は加えてみましょう。

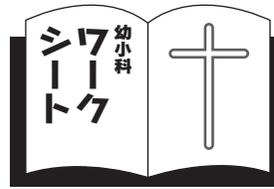
活動②

「神さまを賛美する楽器をつくろう」

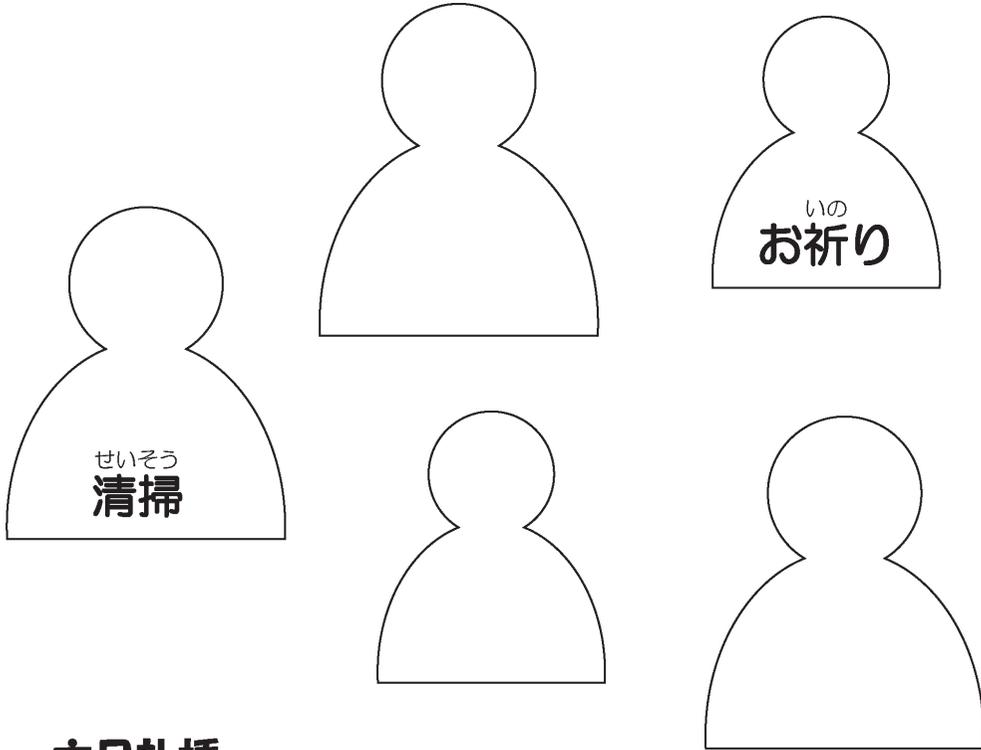
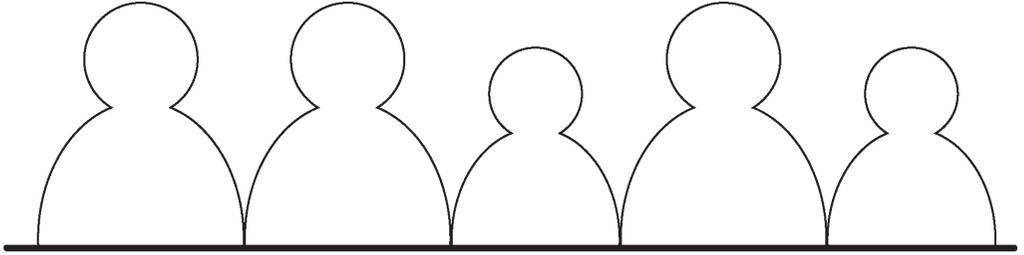
●準備●紙コップ、折り紙、輪ゴム(それぞれ人数分)、紙コップの中に入れるもの(ボタン ビーズ 木の枝を小さく切ったもの 小石など)

- ①紙コップの中に種類別に(ビーズなど)入れます。
- ②折り紙(2枚重ねてもよい)でコップにふたをします、輪ゴムを二重にして留めます。
- ③②を振ります。紙コップ楽器には何が入っているか他のメンバーに当ててもらいましょう。
- ④中身は違っても、一緒に振って音を出し、28課で歌った曲などを賛美しましょう。
- ⑤太鼓にして割りばし(バチにする)でたたいてみるのも楽しいでしょうね。

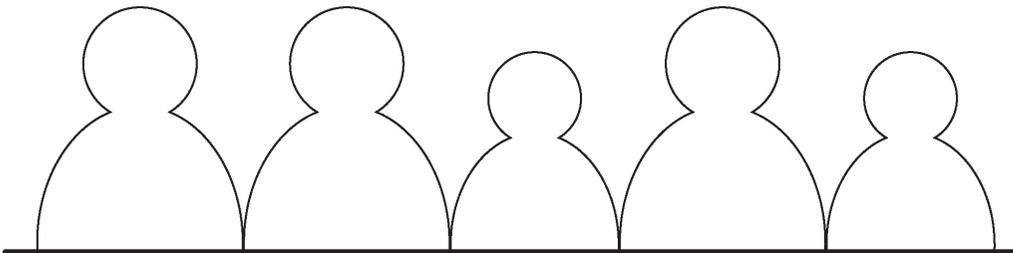




主日礼拝



主日礼拝



エルサレムへの想い

エズラ記では、バビロンとエルサレムを結ぶやり取りでしたが、ネヘミヤ記では、ペルシアのスサ（ネヘミヤ1：1）とエルサレムを結ぶやり取りになります。

ネヘミヤが遠くエルサレムのことを想う時、嘆き、悲しみがあります。その想いは私たちに、意外に感じられることです。なぜなら、私たちは、エズラ記を開き、神殿完成の大きな喜びを分かち合いましたが、ネヘミヤ記の冒頭では、その喜びのかけらさえ感じることができません。

「捕囚の生き残りで、この州に残っている人々は、大きな不幸の中であって、恥辱を受けています。エルサレムの城壁は打ち破られ、城門は焼け落ちたまま」（ネヘミヤ1：3）というエルサレムの現状を知り、ネヘミヤは「座り込んで泣き、幾日も嘆き、食を断ち、天にいます神に祈りをささげた」のです（ネヘミヤ1：4）。嘆き、悲しみはいつまで続くのでしょうか。ネヘミヤは祈っています。祈ることができます。

献酌官ネヘミヤ

「ネヘミヤ」という名前の意味は、「ヤハウエ（主）は慰めたもう」と考えられます。おそらく、バビロン捕囚の民であった両親の思い、祈りが込められた名前と言えます。そのネヘミヤは今、ペルシアの「献酌官」として、ペルシアの王宮にいます。この「献酌官」という働きの詳細は不明ですが、「歴史の父」

と呼ばれるヘロドトスの『歴史』の記述を参照すると、相当高い地位であり、王に重用され、王の寵愛（ちようあい）を受けるような人物もいたようです（ヘロドトス『歴史』上 松平千秋訳 岩波文庫）。

ネヘミヤも王の信頼が厚いようです。それは、ネヘミヤの生活は、豊かで恵まれていて、地位も名誉もあるということです。何不自由ないペルシアでの生活です。しかし、エルサレムの状況を知って、居ても立っても居られません。心のうちの嘆き悲しみが、顔に出してしまいます（ネヘミヤ2：2）。これは、ペルシア王とネヘミヤの関係が地位や立場で成り立っている外面的なものでなく、心のうちにある本音が言えるものだったということです。これもペルシアでの恵まれた生活です。しかし、ネヘミヤはそこに安住しません。

ネヘミヤは王に自分の願いを吐露（とろ）します（その前に、神に祈ります。ネヘミヤ2：4～5）。3節でネヘミヤはエルサレムのことを「先祖の墓のある町」と言っています。厳密に訳すと「先祖の墓の『家』がある町」となります。「墓」という言葉によって、ネヘミヤの嘆き悲しみが感じられるところですが、「家」という言葉を加えることで、ペルシアの生活習慣を意識した言葉の選びもあるようです。と言うのも、ペルシアの王の墓は、家の形をしたものが知られています（たとえば、キュロス王の墓、杉本智俊『図説 旧約聖書の考古学』河出書房新社）。ネヘミヤは自分の思いを理解してもらうために、相手に分かりやすい説明をしています。

待ち構えているもの

ペルシア王はネヘミヤの願いを快諾します。しかし、彼にとって、ネヘミヤは大切な存在です。王妃と共に、「旅にはどれほどの時を要するのか。いつ帰れるのか」と尋ねています（ネヘミヤ2：6）。結局、ネヘミヤがペルシアに帰るのは、約12年後です（ネヘミヤ5：14）。

ペルシアの王の好意、書状（援助）を得ての旅立ちですが、エズラの時（エズラ8：22）とは異なり、ネヘミヤの旅は護衛付きです（ネヘミヤ2：9）。さらに、ネヘミヤの計画を知って、「非常に機嫌を損ねている」人たちがいます（ネヘミヤ2：10）。この人たちはこの後、ネヘミヤの行動を邪魔し、困

準備のための聖書日課			
24日	㊦	エルサレムの荒廃	哀歌2：8～12
25日	㊧	苦渋と欠乏の中で	哀歌3：16～27
26日	㊨	エルサレム滅亡の予告	ルカ21：20～24
27日	㊩	解放の時到来の約束	ルカ21：25～28
28日	㊪	エルサレムの現状	ネヘミヤ1：1～3
29日	㊫	ネヘミヤの祈り	ネヘミヤ1：4～11

難を与えることとなります。しかし、祈りがあります。祈ることができます。この先もこれまでと同じく「神の御手が守ってくださる」（ネヘミヤ2：8）に違いありません。



●ネヘミヤが遠くエルサレムの苦しみを想う姿があります。この後、ネヘ

ミヤは実際にエルサレムに行き、そのわざを行うことができますのですが、私たちが遠くにある人々の苦しみを想う時、実際にその場に行けるとは限りません。むしろ、行けないことの方が多いでしょう。しかし、何もできないということではありません。ネヘミヤについて語られる時、彼の祈りの姿が度々、注目されます。エルサレムの惨状を聞いたネヘミヤがまず行ったのは、祈ることでした。祈りから始まることがあります。たとえ、この後のネヘミヤのように、その場に行けなくても、今ここで自分にできることは何な

のか、それもまた祈りによって知ることができるのではないのでしょうか。

- 祈ることによって、自分の想いを神の前に表すネヘミヤは、一方で、始めから意識してそのようにしたわけではありませんが、結果的に、人に対してもその想いを表しています。思わず、顔に出てしまった悲しみです。私たちには、悲しみだけでなく、思わず顔に出てしまう喜びもあります。自分の心のうちにある「本音」を出せば、万事うまくいくということはありませんが、私たちはそれぞれの想いを誰に対して、どのように表しているのでしょうか？

エルサレムへの想い

聖書 ネヘミヤ記2章1～10節

暗唱 聖句 あなたの僕の祈りとあなたの僕たちの祈りに、どうか耳を傾けてください。
ネヘミヤ1：11

31課

10月30日

献酌官けんしやくかんとしてペルシア王に仕えるネヘミヤは、仕事から他言できない内密の話も聞くのだろうか。余計なことは話さず、口を開く時にはいつもすっかり決断がついている。心の中に常に炭火が燃えているような人だ。おれはネヘミヤの遠縁で、小さい時から一緒に暮らし、身の回りの世話をしている。

仕事を終え王宮から戻ったネヘミヤからは、ゆらりと炎が上がっていた。「ヨハナン、エルサレムに行くよ」。おれは聞き間違いかと思った。「えっ？ エルサレムですか？ あなたが？」「そう。私の暗い顔を見て、悩みごとは何かと王がお尋ねになった。なので、先祖の墓のある町が荒廃こうはいし、大変悲しいのだと申し上げた」。

そうだ。しばらく前にエルサレムからネヘミヤの兄弟が来て、城壁も門も焼け落ち、崩れたままだという話をした。ネヘミヤはその知らせにとってもショックを受けた。何日も泣き嘆き、断食して神さまに祈りを捧げていた。

「王が望みは何かと尋ねるので、神に祈り、思い切ってお願ひした。私を町の再建のため派遣してほしいと」。「それ、王がお許しになったんですか？」「ああ、許して下さった。王も王妃も、必要な期間とは具体的に問うので、ならば、といろいろお願いしてみた。スムーズな旅のため西方の長官たちにあてた通行許可の手紙や、工事に使うための材木をいただけるよう王の森林管



理者への手紙も」。おれは目を丸くした。「それもお許し下さったんですか？ ずいぶんと気前のいい…」。「快諾だ。その上、道中の警護も一緒に派遣して下さるぞ」。

「そんな。捕囚の民でありながら、献酌官という王の側近の地位を得、王に気に入られ、ここペルシアで何の不自由もない生活じゃないですか。わざわざこの生活をうち捨ててまで行くことなんですか。私たちの民がこのように王の優遇ゆうぐを受けて城壁を再建する、なんて聞いたら、面白くないと思う人たちもいるんじゃないですか。何もあなたが行かなくとも…」。「やれやれ、いろいろ行かない理由を探すね」。ふ、と笑ったネヘミヤはこれでおしまい、とでもいうかのように手をパンと叩いた。「面白くない者たちもいるだろう。だが、私は気にしない。神は私の祈りを聞き届け、道を開いて下さったのだ。私はエルサレムの人々と共に城壁を再建し、神の掟を守り行う者として生きたい。さあ、もう決まった事だ。準備を頼むよ。忙しくなるぞ」。

立ち上がったネヘミヤの目は、はるか遠くを見ていた。

エルサレムへの想い

青少年科



聖書

ネヘミヤ記2章1～10節

暗唱
聖句

あなたの僕の祈りとあなたの僕たちの祈りに、どうか耳を傾けてください。
ネヘミヤ1：11

31課

10月30日

聖書から…

ネヘミヤはエルサレムのことを離れたところで聞いて、どれだけ悲しかったのでしょうか。自分の故郷が、そこに住む人たちがつらい思いをしているというのを一緒に経験もできない、離れたところから見守ることしかできない。祈るしかできない。ペルシアでの豊かな生活があったとしても、ネヘミヤの祈りの課題にずっと挙げられ続けていたのでしょうか。

今おかれている整えられた環境から抜け出すことの不安も、自分の行動を快く思っていない人たちの存在も、エルサレムに帰ってからの新しい出会いへの期待も全部ひっくるめて祈り続けていただろうと思います。エルサレムに戻って過ごした12年間、ネヘミヤは念願の帰省となったでしょうけれども、きっとペルシアでエルサレムを思って祈っていたように、エルサレムで過ごした12年間も、ペルシアで出会った人たちのことを思って祈っていたのだらうと思います。離れていても祈り続ける。そのような関係が主によってつくられていることを大切にしていきたいですね。

分かち合おう

- ネヘミヤの視線の先は、目の前ではなくて「はるか遠く」（みんなで聴く聖書のおはなしより）。目の前にある祈りの課題も、「はるか遠く」のことも祈ることができます。例えば連盟の特別委員会があります。私の生活には直接関係ないかもしれないけど、でも、私の祈りとして神さまがくださっている祈りの課題として、それぞれの委員会が分かち合ってくださいています。私たちに託されている「祈り」。その祈りのボタンを一緒につないでいけたらいいなあと思います。
- 私たちのお祈りにノルマはあるのでしょうか。毎日1時間祈ったとしても、今日一日分の祈りがそこで終わるということではありません。24時間365日、祈り続けることはとっても難しいことです。神さまに祈りなさいと言われていても、祈ることを忘れてしまう日もありますし、神さまに祈れない、そんな日もあるのではないのでしょうか。祈れない時にも、イエスさまが大切に祈られた「主の祈り」が与えられています。暗唱できるくらい祈り慣れている「主の祈り」。その一つひとつの言葉をもう一度読み返しながら、イエスさまの祈りを味わってみませんか。

エルサレムへの想い

聖書 ネヘミヤ記2章1～10節

暗唱 聖句 あなたの僕の祈りとあなたの僕たちの祈りに、どうか耳を傾けてください。
ネヘミヤ1：11

31課

10月30日

聖書から…

王さまとネヘミヤは深い、そして強い信頼関係で結ばれています。ネヘミヤは神さまとの関係がいつも一番でした。そして、その神さまとの関係が王さまとの関係をつくりました。王さまは、神さまを第一にするネヘミヤを信頼し、頼りにし、いつもそばにいてほしいと願っていました。それは王妃も同じでした。王さまに願いを聞いてもらったネヘミヤは、さらに神さまに祈り続けます。ネヘミヤはエルサレムへの旅が、そしてそこで待ち受けるものが困難なものになることを知っていました。でも、ネヘミヤにとって不安や恐れよりも、神さまへの信頼が最優先だったのです。そんなネヘミヤの旅立ちに、王さまは護衛をつけました。そこにも神さまの配慮と備えがありました。

活動①

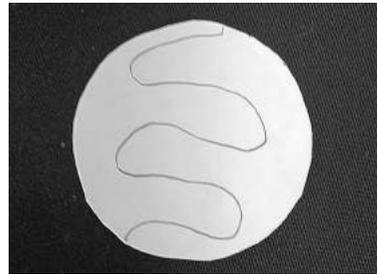
「お祈りに導かれて」

- ①お祈りカードを用意し、スタートからゴールまで、部屋の色々なところに隠しておきます。
- ②「出発！」部屋の色々なところに隠してあるお祈りカードを見つけます。
- ③集めたお祈りカードを感謝の箱に入れます（箱に感謝と書いた紙を貼っておきます）。
- ④私たちのお祈りを神さまはいつも喜んで

聞いてくださいます。「いつも喜んでいなさい」『新生讃美歌』446番（日本バプテスト連盟）の2番（絶えず祈りなさい）を一緒に賛美しましょう。

●お祈りカード●

丸カードを用意し、中に波線で手を描き、お祈りカードを用意します（複数枚）。



活動②

ワークシート

「3つつないでゴー」ビンゴ

- 準備●ワークシート、えんぴつ（人数分）
- ①ワークシートを拡大コピーし①～④を太線にそって4枚に切ります。
- ②読み札1～18を切り離して裏向きに置き、一人が一枚ずつめくり、順番に読み上げます（1神殿のカードは裏向きにしないで最初に読みます）。
- ③縦、横、斜め、3つつながった人は「ゴー」と言います。全員が全部につながるまで続けましょう。
- 2回やる場合●
- 一回目 丸でしるしをつけます。
- 二回目 三角でしるしをつけます。



①

しんでん 1. 神殿	ほうし 18. 奉仕	さんび 16. 賛美	ごえい 8. 護衛	しんでん 1. 神殿	さいだん 9. 祭壇
17. エルサレム	おう 7. 王さま	しんでん 1. 神殿	10. バビロン	ふこく 11. 布告	しんでん 1. 神殿
きぼう 13. 希望	しんでん 1. 神殿	いの 12. 祈り	しんでん 1. 神殿	いの 12. 祈り	ほうし 18. 奉仕

②

③

3. ネヘミヤ	2. エスラ	しんでん 1. 神殿	しんでん 1. 神殿	さいだん 9. 祭壇	きぼう 13. 希望
しんでん 1. 神殿	ほしゅう 4. 捕囚	しゅ たみ 5. 主の民	ほしゅう 4. 捕囚	れいはい 14. 礼拝	しんでん 1. 神殿
おうきゅう 6. 王宮	しんでん 1. 神殿	おう 7. 王さま	しゅ たみ 5. 主の民	しんでん 1. 神殿	よげんしゃ 15. 預言者

④

読み札

しんでん 1. 神殿	2. エスラ	3. ネヘミヤ	ほしゅう 4. 捕囚	しゅ たみ 5. 主の民	おうきゅう 6. 王宮
おう 7. 王さま	ごえい 8. 護衛	さいだん 9. 祭壇	10. バビロン	ふこく 11. 布告	いの 12. 祈り
きぼう 13. 希望	れいはい 14. 礼拝	よげんしゃ 15. 預言者	さんび 16. 賛美	17. エルサレム	ほうし 18. 奉仕

三日間過ごしてから

ペルシアのスサからエルサレムまでの旅路について、その日数などの詳細は記されていません。ネヘミヤの一刻も早く、エルサレムに着きたいという思いが反映しているのでしょうか。しかし、時間が止まったかのようです(2：11)。この三日の間に、ネヘミヤは何をしていたのでしょうか。旅の疲れを癒していたのでしょうか。目の当たりにしたエルサレムの惨状に座り込み、絶望していたのでしょうか。神に祈っていたのでしょうか。計画を練っていたのでしょうか。謎の沈黙の三日間です。

エズラについてもエルサレムに着いてからの「三日間」という言及があります(エズラ9：32)が、そこでは、はっきりと、「そこで三日間休息を取った」となっています。ネヘミヤは何のための三日間だったのでしょうか。イメージは広がります。魚の腹の中に三日三晩いたヨナ、十字架ののち三日目のイエスさまのよみがえり、そして、イエスさまの声を聞いたサウル(パウロ)の「目が見えず、食べも飲みもしなかった」三日間もあります(使徒9：1以下)。ネヘミヤの「三日間」、彼はどんな時を過ごしたのでしょうか。

神が心に示して

旅の詳細も三日間の意味も不明ですが、いよいよ、ネヘミヤは行動を起こします。エルサレムの町の破壊状況の調査です。「城壁」という言葉が繰り返されていますが、ここで

の城壁は、町全体を取り囲んでいる壁のことです。古代社会において、町＝都市と呼ばれるものは、防衛の設備として石垣で壁がめぐらされていました。ネヘミヤが行うことは、単なる城壁の再建ではなく、町そのものの再建という大事業です。

細心の注意も必要です。すでに、ネヘミヤの計画に反対する者の姿が見え隠れしています。ネヘミヤは夜、調査に出かけます。本来なら、昼間の明るい時にすることですが、ネヘミヤは、夜という時間帯に、密かに、エルサレムの町の状況を調査します。

ネヘミヤがそのことを「密かに」行ったことを印象付ける言葉があります。それは、「動物」に乗って、出かけたということです。この「動物」が何なのか、ろばか馬か、という解釈はなされるころですが、ここで、広く家畜を意味する言葉が用いられています(ヘブライ語のベヘマー、参照・創世記1：24他)。家畜に乗っているネヘミヤです。どの家畜に乗ったのか、内緒です。密かに、計画は進められます。反対者がいるのです(2：19以下)。と言うことは、先の「三日間」は、密かに念入りに計画を練っていたのでしょうか。何より、忘れてならないのは、実現するのは、人の計画、思いではなく、神の計画、思いであるということです。

良い企て

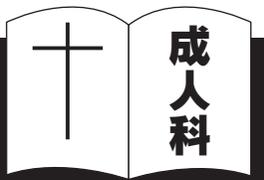
密かにことを進めるネヘミヤですが、一人、あるいは数人で実現できる城壁、町の再建ではありません。神のみ手が恵み深く守って

ることを確信して(2:18)、計画を公表します(2:17)。これを聞いた人たちもその計画に反対する存在のことは感じていたに違いありません。だからこそ、今日の今日まで、エルサレムは荒れ果てたままなのです。しかし、彼らはネヘミヤの言葉に応答します、「早速、建築に取りかかろう」、そして、このことを「良い企て」(直訳すると「良いこと」として、奮い立ちます(2:18)。この「奮い立ち」は、「自らの手を強くする」とも訳すことができます。神のみ手が動くところで、人の手もそこに加えられます。

念押しのように、反対者のことが記されています(2:19)。彼らはネヘミヤたちを嘲笑い、さげすみます。王の権威まで持ち出します。数々の不安や困難があります、しかし、

準備のための聖書日課			
31日	㊦	祈りを受け入れる主	詩編6:1~11
1日	㊦	主の企てはとこしえに	詩編33:1~11
2日	㊦	神の計画と人の企て	1コリント4:1~5
3日	㊦	エズラの三日間	エズラ8:31~35
4日	㊦	神殿で三日過ごす少年イエス	ルカ2:41~52
5日	㊦	三日で神殿を建てるイエス	ヨハネ2:13~22

神ご自身がこのことを成功へと導いてくださるのです。



成人科

- 「善は急げ」という言葉があり、「急がば回れ」という言葉もあります。

今課の前半は、「急がば回れ」でしょうか。そこで気になるのか、「三日間」という時間です。様々なことが考えられる時間となっています。その一つ、地域やその時の状況によって異なりますが、「葬儀」をめぐる「三日間」を経験することがあります。召天の日、前夜式の日、葬儀の日、そこには死を思いつつ、いのちに思いをはせる大切な時間があります。慌ただし三日間であり、静まる三日間でもあります。「三日間」ということから思うこと、経験したことを分かちあってみましょう。

- 今課の後半は、「善は急げ」でしょうか。これまで、密かに、そして、念入りに備えられたことが、一気に動き始めます。まさに「時が満ちた」というところです。何より、ここで急げるのは、そこにあるのが、神の計画が実現する時だからです。人の思いでは、不安材料があります。そのことでは右往左往しているような急ぎ足になってしまいそうです。しかし、それが神による良い計画であるなら、文字通り「善は急げ」です。私たちは神の良い企てであるにもかかわらず、先に不安を数えて、踏み出すことを躊躇していることはないでしょうか。

良い企てへの備え

聖書

ネヘミヤ記2章11～20節

暗唱
聖句

天にいます神御自ら、わたしたちにこの工事を成功させてくださる。
ネヘミヤ2：20

32
課

11
月6
日

眠らずに待っていると、やがてひそめた足音が戻ってきた。フードを深くかぶったネヘミヤは、出迎えたおれに「ヨハナン、後を頼む」とアインの手綱を預け、同様にフードをかぶる数名には「では、明日」と告げると、マントについた砂をざらっと落としながら自室に向かった。おれは送り出しながら彼らの顔をちらりと見る。ネヘミヤの側近中の側近たちだ。こんな夜中、どこに出かけたんだろう。

三日前エルサレムに着いたが、ネヘミヤは何をしているのかずっと部屋にこもっていた。こんなことは時々ある。大きな一歩を踏み出す前、ぐうっと力をためるような。閉じられたドアの内側から静かな熱を感じた。今夜ようやく出てきたと思ったら、行先も言わず月明かりを頼りにひっそり出かけてしまったのだ。

おれはアインを小屋に引いていき、わらで丁寧^{ていねい}にこすってやる。一体どこを歩いたことやら、足だけでなく体にも土ぼこりや小さな石、すすまでついている。ひづめの隙間に小石など入ってないかよくよく調べた後、水をたっぷり、新しい干し草も足してやった。鼻づらをなでながらアインのきれいな瞳をのぞく。「おまえ、ネヘミヤと一緒に何を見て来たんだい？」アインは静かにいなないておれに頭を寄せた。

翌日、人々の前にネヘミヤは姿を現した。ペルシアの都スサからやって来た総督を見ようと、人々はこぞって集まって来た。民



たち、祭司や貴族、役人たち、もろもろみんな…。「私はこの目で城壁の崩れ、城門の焼け落ちを見た。荒れ果てた町に住むことは、私たちにとって恥であるだけではない。ひいては主なる神は私たちを守る力がないと周りの人々が神を侮ることになる。それではいけない。みなで力を合わせて城壁を建て直そう。これは神が示してくださったことだ。その証拠に、神はペルシア王の心を動かし、建築資材と共に私をここに派遣してくださった。主なる神のみ心の実現を周囲の人々に示し、私たちの信仰を明らかにしよう」。

ネヘミヤの炭火が、神さまの息を受けて炎を上げた。その炎は、おれたちの心のうち一つひとつに燃え広がっていった。周りから口々に声上がる。「ネヘミヤの言うとおりだ。早速みんなで建築にとりかかり、この良い企てを実現しよう」。

周辺の総督たちは、ペルシア王への反逆のつもりかとあざ笑った。ネヘミヤはそれを一蹴^{いっしょく}した。「主なる神が私たちにこの工事を成功させてくださる。あなたたちには関係がない」。この炎は誰にも消せない。

良い企てへの備え



聖書

ネヘミヤ記2章11～20節

暗唱
聖句

天にいます神御自ら、わたしたちにこの工事を成功させてくださる。
ネヘミヤ 2：20

聖書から…

念入りに準備をすることの大切さをネヘミヤがエルサレムについて3日間も、静かに過ごしていたことから示されます。「何か思いついた!」と思ってそのことを思い巡らしてみると、その思いつきの穴が見えてきたりします。神さまの計画を担うネヘミヤがそこまで入念に準備をする必要はあったのか…、主がすべてを為してくださるのだから…、と思わないでもありません。でも、主の計画、主のみ心であったとしても、ネヘミヤは3日間、熟考して祈って、備えていたのだらうと思います。

ネヘミヤが城壁（町）の修復に取り掛かります。3日間、この修復のあとにできる町はどのような町になるのか、どのように主を礼拝するのか、どんな人がこの町に集まってくるのか…など思い巡らしていたのでしょうか。

神さまの示される計画であったとしても、神さまが豊かな出来事にしてくださるという確信があったとしても、それに招かれる私たちは、祈り、熟考し、行動へと押し出されていく必要があるのかもしれませんが、それが城壁の建設という大きなプロジェクトであればなおさらです。

分かち合おう

- 新しいことを始めるときに、すぐに行動に移せますか？ それとも、これが失敗したらこうなるかもしれないから…とリスクまでを考えて、行動するタイプですか？ すぐに新しいことに取りかかれるときと、取りかかれないときの違いは何でしょうか。どうしても決められない、新しいことに踏み出せないことがあるのでしょうか。主の「時」が来るのを一人静まって祈るということもいいのかもしれませんが、主の時の小さなサインを聞いてみませんか？

- 「神さまにすべてを委ねる」という言葉を使ったことはありますか？ 使ったことはなくても聞いたことはあるかもしれません。どうしようもない問題にぶつかったら、言いたくなる一言なのかもしれません。「できることはやった！ だからあとは神さまに委ねます」というニュアンスもあるだろうし、「自分の力ではどうにもならないから、神さまに委ねてしまおう」という諦めにも近いニュアンス、どちらの「委ねる」が私たちにとって楽でしょうか。神さまに委ねると同時に私たち自身も備える必要があると思います。その上で委ねる。私たちができる備えはどのようなことがあるでしょうか。そして、なぜ、神さまに委ねながらも、私たち自身も備える必要があるのか、一緒に考えてみましょう。

32課

11月6日

良い企てへの備え

聖書 ネヘミヤ記2章11～20節

暗唱 聖句 天にいます神御自ら、わたしたちにこの工事を成功させてくださる。
ネヘミヤ2：20

聖書から…

ペルシャで聞かされたエルサレムの状況を一刻も早く正確に知りたいと思うネヘミヤでしたが、それでも「三日間」じっとしました。その間、神さまの導きを祈り求めたことでしょうか。どのように行動したらよいのか、自分の思いを最優先にするのではなく、ここまで導いてくださった神さまに、まず尋ね求めることが大切であることをネヘミヤは知っていました。そして、慎重に一つひとつを進めました。町を再建することに反対する人たちは妨害するでしょう。ですから何よりも、ネヘミヤには神さまの導きと知恵が必要でした。ネヘミヤは神さまからの励ましに力と勇気を得て、そして人々に呼びかけました。「城壁を建て直そう」。そこには祈りと行動を共にする人たちが備えられていました。

活動① ワークシート

「ネヘミヤにしつもん」

- 準備●ワークシート、鉛筆、消しゴム (人数分)
- Qはネヘミヤへの質問 Aはネヘミヤの答え (聖書からさがしましょう)
- Q1～3の質問にネヘミヤはどう答えるでしょうか、考えてAの空欄に書きます。
- Q4にはメンバーの一人が質問を出し、それを書きます。その質問にネヘミヤはどう答えると思うか、自分の考えを書きます。

みんなで発表します。ネヘミヤの気持ちを考えてみましょう。

(Q1：夜、出かけて何していたの？
Q2：再建に必要なことは？ Q3：協力してくれる人はいたの？)

活動② ワークシート

「ネヘミヤとお話し」

- ①ワークシートのネヘミヤを切り取り裏面に割りばしなどを貼り付けて紙人形を作ります。
- ②ネヘミヤ (紙人形を動かしながら) 「みなさんこんにちは」「わたしに聞きたいことありますか」など、メンバーに話しかけます (ネヘミヤ役はリーダーが担当)。
- ③メンバーからの質問に答えたり、一緒に考えたり、また、メンバーに質問を返したりして、クラスで対話をしましょう。



活動③

「ネヘミヤと一緒に賛美しよう」

- 「祈ってごらんよわかるから」『新聖歌』481番 (日本福音連盟新聖歌編集委員会 教文館)
- ネヘミヤ (紙人形を動かしながら) 「いつでも“かみさま”ってお祈りできますよ。かみさまはどんな時も、いつも一緒にいてお祈りを聞いてくださる、私はそれをたくさん経験しましたよ」とネヘミヤ人形を使ってメンバーにメッセージを伝えます。

ネヘミヤにしづもん ネヘミヤとお話し



32課

11月6日

Q1. 夜、^{よる}出^でかけて
^{なに}何していたの？

A1.

Q2. ^{さいけん ひつよう}再建に必要なことは？

A2.



Q3. ^{きょうりよく}協力してくれる人^{ひと}は
いたの？

A3.

Q4.

A4.

主を喜び祝う日

聖書

ネヘミヤ記7章72節～8章12節(口語訳は73節～)

暗唱
聖句

主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。
ネヘミヤ8：10

33
課

11
月
13
日

城壁の完成

エルサレムの城壁再建には多くの困難がありました(3～6章)、ついに、完成の時を迎えます(6：15～16)。困難が完全には払しょくされていないことも報告されていますが、何より、城壁は再建されたのです。さらに、7：1～2には、別の報告があります、「城壁が築かれたので、わたしは扉を取り付けさせた。そして、門衛と詠唱者とレビ人を任務に就けた。わたしは、兄弟のハナニと要塞の長ハナンヤにエルサレムの行政を託した。このハナンヤは誠実で、だれよりも神を怖れる人物だった」。

エルサレムの城壁再建は、単なる建造物の話ではなく、町の生活再建の話でもありました。まだ整えないといけないこともありますが、ここでは、完成したという喜びの報告がなされています。

喜びの優先順位

城壁が完成、その喜びの完成披露パーティーの前に、別の喜びの場面が描かれます。久しぶりの書記官エズラの登場です。13年ぶりという計算がされたりもします。彼が行うのは、律法の朗読です。この思いがけない展開は、「行って良い肉を食べ、甘い飲み物を飲みなさい。その備えのない者には、それを分け与えてやりなさい。今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。悲しんではならない。主を喜び祝うことこそ、あなたがたの力の源である」(8：10)という言葉へとつな

がります。

まさに、何かの完成披露パーティーのように、ごちそうも並んでいますが、ここで注目したい言葉は、「喜び」です。聖書には、「喜び」と訳される言葉はいくつかありますが、ここで使われている言葉(ヘブライ語で「ヘドヴァー」)は、ここ以外では、歴代誌上16：27にあるだけです(もう一つ参照できる個所として、エズラ6：16があります)。城壁完成の喜びの前に語られる特別な喜びがあります。その喜びは「律法の書に耳を傾ける」(8：3)ことから始まります。

律法に耳を傾けて

唐突な印象もあるエズラの登場ですが、ここにはもう一つ印象的なものがあります。ネヘミヤ8：1から、エルサレムの城壁だけでなく、その街並みも再建されている様子がかがえますが、そこには、心ひとつになっている民がいます。そして、「律法」があります。

この「律法」とは、ヘブライ語聖書の三つの区分(「律法」、「預言者」、「諸書」)のうちの「律法」、すなわち、創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記の五つの書であると考えられます。「立つ」という言葉がありますが(8：5、7)、その朗読を夜明けから正午まで、立ったままで聞いていたとは考えにくいところです。大切なのは、ここに「礼拝」があることです。エズラの賛美、祈り(8：6)、さらに、「律法」、すなわち、聖書の言葉が、朗読され、翻訳され、意味が明らかにされていきます。その役割は、エズラ一人で

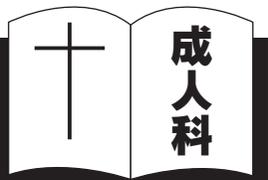
はなく、レビ人によっても担われます。「レビ人」という特別感がありますが、総督、祭司、書記官と言った肩書めいたものはありませんので、一般信徒による「説教」を考えてもよいでしょうか。そのことが、「主にささげられた聖なる日」(8:9)に行われます。

なぜ泣くの? 喜びへ!

律法のことを聞いて、民は皆泣いています。なぜ泣くの? うれし泣きではなさそうです。自分の罪に対する嘆き(なげ)でしょうか。どの言葉が、心に刺さったのでしょうか。それぞれの思いがあるところです。しかし、エズラたちは言います、「嘆くな、泣くな、良い肉を食べる、甘い飲み物を飲め、それを持っていない人と分かち合え!」そして、この一言が発

準備のための聖書日課		
7日	㊦	城壁再建の困難の一場面 ネヘミヤ3:33~38
8日	㊧	城壁の完成とその後の困難 ネヘミヤ6:15~7:3
9日	㊨	喜びの律法 詩編19:8~11
10日	㊩	律法と賛美 詩編119:169~176
11日	㊪	共に喜び祝う 申命記26:5~11
12日	㊫	心燃やす聖書 ルカ24:28~35

せられます、「主を喜びとすることこそ、あなたがたの力である」(8:10、聖書協会共同訳、参照・口語訳)。主の日の礼拝の喜びです。



●ネヘミヤ記は、エルサレムの城壁再建が基本的テーマとなっていますが、

それは、(町の)生活再建の話でもありません。そして、その生活の中心にあるものとして、ここには「礼拝」の光景が描かれています。そこには、「集まって一人の人のようになった」民がいます。この「集まって一人の人のようになった」という表現は、エズラ3:1にもあり、そこにも礼拝がありました。「一人の人のようになった」そこには、どのような人たちがいるのでしょうか。今日の礼拝には、どのような人たちがいるのでしょうか。子どもたちも外国の方も共にいて、そして、病室にいるあの方の顔も思いうかべつつ、聖

書の言葉に耳を傾けます。生活の中心に「礼拝」はあるでしょうか。

- 長年の苦労も、完成の時を迎えると、その苦労した思いが一気に吹き飛ばすことがあります。そこにあるのは、喜びです。唐突な印象があるエズラの登場と律法朗読の場面ですが、そもそも、私たちにとって、聖書は「喜び」となっているのでしょうか。固くて難しいものとして、横においていたりして(特に旧約聖書は?)。「蜜よりも甘い」(詩編119:103)神の言葉を共に味わい、主を共に喜ぶ礼拝の「今日」から始まる一週間の生活であることを思っています。

主を喜び祝う日

聖書

ネヘミヤ記7章72節～8章12節(口語訳は73節～)

暗唱
聖句

主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。
ネヘミヤ8:10

33
課

11
月
13
日

みんなに聞こえるよう高い壇上で巻物を
広げた祭司エズラは、相変わらずパチパチ
火花を散らしているみたい。「あなたたち、
もう泣くのはやめなさい。今日は主なる神
の聖なる日。おおいに喜ぼう」。力強いエ
ズラの声は、あたしたちの涙をぬぐった。

ネヘミヤの指揮のもと、あたしたちは
崩れていた城壁や城門を52日で補修した。
そして新年の今日、人々は一人またひとり
と、それぞれの町からエルサレムに、水の
門の前の広場に集まって来た。城壁の再建
は、あたしたちは主なる神の民だ、と目
に見える形で示すことになったと思う。そし
て、だからこそ、その神さまのみ言葉をよ
く知りたいと思った。そうやってすすんで
心ひとつに集まったあたしたちは、エズラ
にモーセの律法を教えて欲しいと求めた。
広場には、小さな子どもも、女も男もみん
な集まった。エズラが律法を朗読し、父さ
んたちレビ人が翻訳し、解説した。夜明け
から昼まで、その声に耳を傾けた。誰にで
もわかるよう律法が解き明かされると、ど
んなに神さまがあたしたちを愛しておられ
るか、それなのにどんなに神さまから離れ
た生き方をしていたかをつぶさに示され、
あたしたちは悲しさに泣き始めた。

その時、エズラの「喜ぼう!」という声
が、あたしたちの中でパチパチはぜた。「今
日は喜びの日!主なる神を喜び祝うことは
私たちの力の源だ。さあ、ごちそうを食
べてお祝いしよう。持たない者には互いに分



かち合おう」。肉やパンの焼けるいい匂い
が、そこら中に漂い始めた。ごちそうの大
きな器を運んでいると、「ミリアム、こっ
ちだ」とエシャヤおじさんがあたしを呼ん
だ。そばに行くとおじさんや父さんは周り
の人たちに声をかけた。「さっき言ったと
おりだ。神さまに捧げられたこの日を喜ば
う。みんなここからとって一緒に食べよう。
お祝いだ」。焼きたてのパンはパリッとし
て、塩味の効いた肉は柔らかい。甘い飲み
物で喉を潤すと自然と頬がゆるむ。心の底
からじわじわ喜びが沸き上がってきた。喜
び楽しむ声があちこちで聞こえ始めた。家
族や近所の人たちと一緒におしゃべりしな
がら食べる。通りかかったネヘミヤのと
ころのヨハナンにも、どうぞ、と肉をはさん
だパンを差し出した。

このごちそうとともに、神さまのみ言葉
を食べたことをあたしは忘れない。昔、民
が荒野でマナをいただいたように、あたし
たちはみ言葉で養われる。養ってくださる
神を喜び礼拝することは、あたしたちの力
の源。

主を喜び祝う日

青少年科



聖書

ネヘミヤ記7章72節～8章12節(口語訳は73節～)

暗唱
聖句

主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。
ネヘミヤ8:10

聖書から…

エルサレムの城壁完成には多くの課題があり、時間もかかったそうです。時間がかかってみ心を成し遂げられる神さまの世界につながっていくと思いながら、この物語を読みたいと思います。城壁ができて、城壁の外と内側が仕切られました。イスラエルの人たちの信仰の場所だけでなく、礼拝を中心にして営まれる生活も少しずつ整えられていきました。

エルサレムの町がどんどん完成していく中で、人々は神さまのみ言葉を一緒に聞き喜び、城壁完成の喜びを共に噛みしめていたのでしょう。み言葉を読み、その解き明かしを聞き、そして一緒に食事をするのが、喜びを分かち合うことにつながっていました。

この喜びの分かち合いで、イエスさまが多くの人とパンと魚を分かち合った共食を思い出しました。み言葉を聞き、共に命の糧をいただく。イエスさまが語り伝えたい神の国の先取りが、エルサレムの城壁完成の喜びにも重なってくる気がします。私たちの礼拝も、神さまがくださる恵みを分かち合う、喜びの礼拝に招かれていることを覚えて主の日に向かいたいですね。

分かち合おう

- 「エズラが律法を朗読し、レビ人が翻訳し、解説」をしたと聖書には書かれています。礼拝には聖書を読む人、その言葉を翻訳して、解説する人もいます。72節で、祭司、レビ人、門衛、詠唱者、民の一部、神殿の使用人がいたことがわかります。礼拝には多くの人が集っていました。礼拝を導いてくださるのは神さまですが、その礼拝を作り上げるのは、私たちです。み言葉を翻訳し、解説するレビ人。バプテスト教会では礼拝に集う人すべてがレビ人です(「聖書の学び」「律法に耳を傾けて」参照)。礼拝を作るために、私たち一人ひとりができることはどんなことでしょうか。礼拝をささげることは「ねばならないこと」ではなく、エズラたちのように喜びが根底にあると思います。どんな時に礼拝を共にささげる喜びを感じますか。
- 当時の聖書の朗読は、今の聖書のようにではなくて、「律法(創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記)」のどれかでした。律法の言葉で集っている人が一つとなったということは、神さまの言葉に動かされて、共に食事(命)を分かち合い、み言葉を分かち合うそのような共同体に作り上げられたのだと思います。聖書を読み、み言葉を解き明かすこと、み言葉に生かされる私たちのそれぞれの証しや食事を分かち合うこと、それは私たちにとってどんな喜びなのでしょう。考えてみましょう。

33課

11月13日

主を喜び祝う日

聖書

ネヘミヤ記7章72節～8章12節(口語訳は73節～)

暗唱
聖句

主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。
ネヘミヤ8：10

聖書から…

祭司エズラは力強く律法を読み上げていきました。一緒に神さまの言葉を聞くことのできた人々は喜びに満たされ、そこにいる子どもたちの笑顔も広がっていきます。理解することのできた神さまの言葉は人々を励まし、新たな希望を注ぎ、また、心の内を照らしてくれました。そこには泣き出す人たちがいます。悔いの残ることや失敗したことなどを次々と思い起こしてしまうのかもしれませんが、でも、どんな人にも大切なことは、ここまで導いてくださった神さまの愛と赦しに目を注ぐことです。エズラはさらに力の源を伝えます。「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源」。神さまが与えてくださる言葉を、そして食べ物、みんなで分かち合って、喜び合って生きる道がここに備えられています。

活動①

「みんなでごあいさつ」

●準備●ふくらませた風船を人数分、マジックなど

- ①風船に一人ひとりの笑顔を書きます。
- ②風船をもってみんなで広がったり集まったりしてみましょう。
- ③集まったときに「神さまありがとう」と一緒に言います。
- ④風船をもって教会の中を歩き、出会った人に「おはようございます」と言います。またはクラスの中で互いに挨拶しましょ

う。共に教会に集う喜びを広げましょう。
*風船は来週も使います。段ボールなどに入れておきます。

活動②

「ニコニコ」「わっはっは」あなたは？

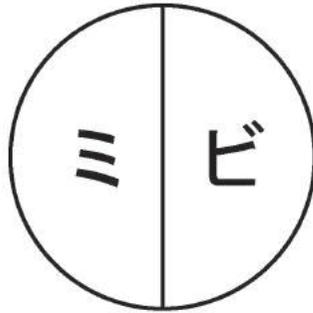
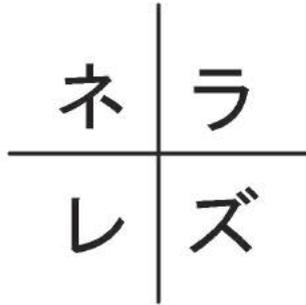
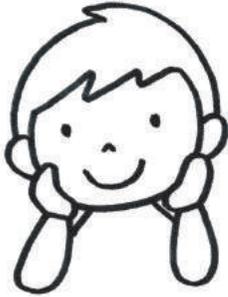
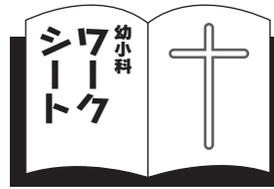
- ①紙(トランプ位の大きさ)を12枚のカードにします。6枚の片面にニコニコマークを書き、残りの6枚の片面には大きく笑ったわっはっはマーク(ニコニコマークの口を半円型にする)を書きます。裏の片面はすべて白紙にします。
- ②12枚のカード全部を白紙の面にして机などに並べます。一人2回めくることができます。ニコニコマークなど2枚が同じマークだった場合、そのカードはもらえます。合わなかったらまた白紙の面を上にしてもどきましょう。次の人も同じようにします。
- ③「うれしい時、あなたはニコニコするのかな、わっはっはって笑うのかな。それとも？」表現は色々でも、神さまは気持ちを知っていてくださいます。
*カードは来週も使います。

活動③

ワークシート

「誰? 暗号をとこう」

- 「暗唱聖句」を皆で読みます。力の源を伝えてくれた人たち(ネヘミヤ記8：9)が暗号で隠れています。誰でしょう?
- 暗号を解き、見つけましょう(答え：ネヘミヤ、エズラ、レビ人)。



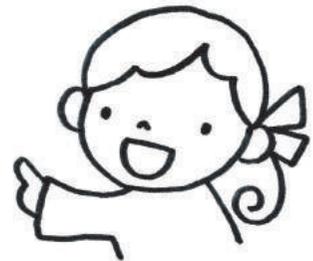
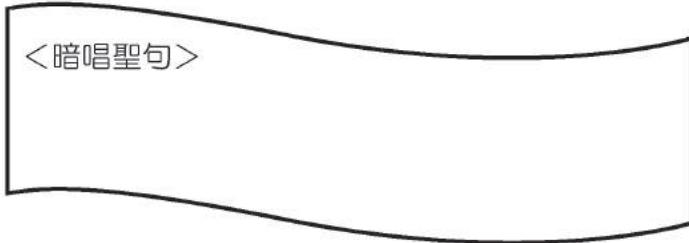
<暗号>



<誰?>



<暗唱聖句>





みんなで賛美

聖書

ネヘミヤ記12章27～43節(参照12:44～47)

暗唱
聖句

主はエルサレムを再建し
イスラエルの追いやられた人々を集めてくださる。詩編 147:2

34
課

11
月
20
日

全員集合!

いよいよ、エルサレムの城壁の完成を祝います。27節には、「奉獻式と祝典」とあり、式典が盛大に行われたことが想像できます。レビ人が集められます。彼らは村や田舎から来ています。エルサレムの城壁が破壊され、居住地としての役割を果たせていない間、そこで避難生活をしてきたレビ人なのでしょうか。ここにある地名は、エルサレムの近く、ベツレヘムの近く、エリコの近くの村々です。城壁再建が生活再建とつながっています。

レビ人の生活は、神を賛美し、祈ることがその務めです。賛美の再建という言い方はふさわしくないかもしれませんが、泣くことが喜びに変えられたように、今、ため息、うめき声が賛美の歌声となるのです。祈りと楽器、賛美の歌声をもって、馳せ参じます、全員集合!

遠くまで響く喜びの声

エルサレムの城壁完成の記念式典の会場として、神殿もそれにふさわしいですが、今回の会場は、その神殿も含めたエルサレムの町全体です。祭司、レビ人、民(12:30)は、式典の参加者です。進行役は祭司とレビ人、そして、民はその喜びを共有します。その人数は記されていませんが、町にいるすべての人が喜びに加わるのです。

エルサレムの町に合唱隊が配置されます。ラッパの響きと共に、喜びの声が町全体を包み込みます、いや、町からあふれ出していま

す(12:43)。そして、この一つの節には、「喜び」という言葉が三つ、「祝った=楽しんだ」という言葉が二つ、詰め込まれています。その喜びを共にする、女性たち、子どもたちもいます。何人いるのでしょうか、いいえ、ここもまた、全員集合!

神への賛美と感謝の歌

「遠くまで響いた」という言葉は、エズラ3:13の光景を思い起こさせます。ここでも、「遠くまで響く」ことに、横の広がりだけでなく、縦の「天にまで」という広がりを考えることができます。ここには、歌の具体的な歌詞は記されていませんが、詩編48など、いくつかの詩編を参照することができます。賛美の歌です。詩編147は歌います、「ハレルヤ。わたしたちの神をほめ歌うのはいかに喜ばしく、神への賛美はいかに美しく快いことか。主はエルサレムを再建し、イスラエルの追いやられた人々を集めてくださる。打ち砕かれた心の人々を癒し、その傷を包んでくださる」(詩編147:1～3)。

新しい共同体へ

エルサレムの城壁再建は、町の再建、生活の再建と結びついています。さらに、12:46からは、礼拝の再建も考えることができます。この節の前後からは、その礼拝に携わる祭司やレビ人の生活再建もなされたことが、「生活の糧」という言葉から、読み取れます。ところで、ネヘミヤ記とエズラ記には、こ

れら以外の生活再建の様子も描かれています
が、そこには、「ユダヤ教」という形での生活
共同体への歩み出しがあります。キリスト
教会は、どのような共同体の姿をネヘミヤ記
とエズラ記から描くことができるでしょう
か。これまで、エルサレム、神殿、城壁、祭
司、賛美という言葉を中心にまとめてきました。
12：47には、「アロンの子ら」という言葉
があります。

私たちはまもなく、その「アロン」、そして、
「祭司」という言葉に出会います（ルカ1：5）。
また、「城壁」という言葉は、「敵」の存在を
前提としています。そこには、恐れと不安が
あります。ルカ21：20には、エルサレム
の滅亡が予告されています。しかし、「新しい
エルサレム」のことが、大きな慰めと希望
の言葉として、ヨハネの黙示録で語られます

準備のための聖書日課			
14日	㊦	罪の告白と賛美	ネヘミヤ9：1～6
15日	㊦	地の果てに及ぶ 賛美	詩編48：1～15
16日	㊦	城壁のうちの平和	詩編122：1～9
17日	㊦	こぞって、 主を賛美	詩編148：1～14
18日	㊦	絶えず神を ほめたたえて	ルカ24：36～53
19日	㊦	新しい エルサレムで	ヨハネの黙示録 22：1～5

(21章)。そこには、新しい賛美もあふれて
います。私たちが歩み出す一歩は、どのよう
な姿の新しい共同体に向かっていくのでしょ
うか。



成人科

●城壁の再建をテーマとし、(町の)生活再建を描くネヘミヤ記ですが、最終的に再建されるものは、神との関係、礼拝となっています。礼拝には、週のはじめの主の日の礼拝があり、献堂式も牧師就任式も、そして、結婚式も葬儀もまた礼拝の形で行われます。様々な礼拝がありますが、そのすべての中心には神がおられ、神を賛美する者がそこにはいます。「みんな」という言葉には、ちょっとぼやけた印象をもつところもありますが、まず、この「みんな」の中に自分自身がいるのかを思います。体はそこにあっても、心が別のところに行っていることはないでしょうか。

●「集まる」ことに困難を覚える状況の日々があるならば、自分の体はそこにはないけれど、心を、神を賛美する心を「みんな」の中に置くことで礼拝を覚えることができるでしょうか。そこには、「主が追いやられた人々を集めてくださる」日が到来することを待ち望む祈りがあるにちがいません。神によって、何が再建されていくのか、それは、これからさらに新約聖書へとつながっていくところで、「絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた」(ルカ24：53)という出来事を先取りして、「みんな」で今日の礼拝で賛美し喜びましょう。

みんなで賛美

聖書

ネヘミヤ記12章27～43節(参照12:44～47)

暗唱
聖句

主はエルサレムを再建し

イスラエルの追いやられた人々を集めてくださる。詩編 147:2

34
課

11
月
20
日

「塔を数え、城壁を見上げよ。語り伝えよ、主は永遠に私たちを導いてくださる」。城壁の上は、賛美と祈りの大行進。神殿をめざし、左右から城壁をぐるりと踏みしめて歩むのは、レビ人の合唱隊、奏楽隊、民の長たち、祭司たち。もちろん、あたしたちを導いた祭司エズラと総督ネヘミヤもいる。この城壁奉獻礼拝の奉仕のために、エルサレム周辺に住んでいるレビ人もみんな集まった。レビ人たちの賛美と楽器の音、祭司たちのラッパの音に導かれ、あたしたち民もみな声を合わせた。城壁に囲まれたエルサレムの町全体が、身をふるわせて賛美と祈りを注ぎ出しているようだ。「主をほめたたえよ！主はエルサレムを再建し、イスラエルの民を集めてくださる」。城壁が完成し、あたしたちの町が、生活が新しく整えられた。神さまは散らされていたあたしたちを集め、慰めてくださった。あたしたちは子どもも女も一人残らずエルサレムに集まった。生きて働いておられる神さまに、心新たに感謝と喜びの礼拝を捧げる。あたしたちの賛美と祈りは、どよめきとなってうねり、高く、遠くたなびいていく。

礼拝の後にはたくさんの動物が捧げられ、喜び祝った。あたしはすっかり目がかすんで見えなくなってしまったばあちゃんの手を引く。年を取ってもしゃっきり昔のことを覚えていて話してくれる。「神殿の基礎が据えられた時や、神殿の献堂式を思い出すよ」。ばあちゃんの声がはずむ。「あの時



も心からみんなで賛美を捧げた。献堂式の時、あたしはアサフを抱っこしてた。「父さんを？」あたしはさっき朗々と賛美しながら城壁の上を行進していった父さんの子どもの頃を想像するけど、無理だ。

歩いてたら「エリシェバ！」と、よく通る声があたしを呼んだ。ミリアムが近づいて来る。あたしの横ではあちゃんが息をのんだ。「ばあちゃん、城壁工事の時に知り合ったミリアム。あたと同じで、ばあちゃんの名前をもらったんだって。それでね、ミリアムもすべすべ石を持っているの。アーモンドの花色」。ばあちゃんの顔にゆっくりとほほえみが広がった。ミリアムがばあちゃんの顔の高さにかがむ。腰も曲がって背の縮んだエリシェバばあちゃんは、手を差し伸べ、小さな女の子がするみたいにミリアムをぎゅうっと抱きしめた。「ミリアム、ミリアム！それで、あんたの髪の毛は、きつとこのすべすべ石みたいに、つやつやと黒いんだろうね！」

抱き合った二人の間で、二つの石が会って、カチリと鳴った。

みんなで賛美



聖書

ネヘミヤ記12章27～43節(参照12:44～47)

暗唱
聖句

主はエルサレムを再建し
イスラエルの追いやられた人々を集めてくださる。詩編 147:2

聖書から…

みんなで賛美するために一つ所に集まる。城壁完成を喜び合うために集まってくる。人々はいろんな場所から、いろいろな思いで集まっていました。「みんなで聴く聖書のおはなし」にもあるように、昔の神殿を知っている人もいれば、捕囚の生活を経験した人も、残されて都がないエルサレムを見ていた人も、神殿ができ上がるのを見ている人も、でき上がった神殿をだけを知っている人もいたでしょう。

そこで人々は、さまざまな方法で神さまを賛美しました。シンバルや豎琴、琴などの楽器を用いて、またそれに合わせて賛美する人、その賛美に心をあわせる人、踊りだす人もいたのかもしれませんが。

人が集まるということ、それは、そこに生活している人たちがいるということでもあります。日々の生活の中で生まれる神さまへの感謝という賛美をもって集まってきたのでしょう。礼拝の場所が整えられるということは、そこで安心して生活する場所が整えられていくということにもつながります。この賛美の場にどんな人たちが集まっていたのか想像してみながら、みんなで賛美することを一緒に考えていけたらいいですね。

分かち合おう

●神殿の城壁が完成して、賛美をみんなでささげています。本当に「みんな」がそこにいたのでしょうか。病気の人や、聖書の朗読が聞こえない人、神殿まで歩いていけない人なども一緒に賛美できていたのでしょうか。私たちの生活の中では当たり前のようにそこにいる人が、教会では見かけないという人がいませんか。私たちの礼拝に参加する「みんな」の中にいない人はどんな方でしょうか。なぜみんなの礼拝が、「みんな」を受け入れないものになっているのでしょうか。一緒に考えてみませんか。

●これまで賛美は、神さまを賛美する歌(賛美歌など)を歌うことだと思っていました。私はある日、突発性難聴になり、左の耳で音を聞くことができなくなり、これまでのように賛美ができないという不安を抱え数年を過ごしました。ある日、手話通訳の方が賛美のときも、ずっと手話を通して賛美をささげておられるのに目がとまりました。その姿に手だけではなく、表情や体の動きも全部含めて賛美している！と感じました。賛美は音楽や声だけでなく、神さまがくださるたくさんの恵みへの応答です。私ができる方法で神さまを賛美することができるのだと気が付かされました。賛美するって、どんなことだと思いますか？ またどんな方法があるのでしょうか。

34課

11月20日

みんなで賛美

聖書

ネヘミヤ記12章27～43節(参照12:44～47)

暗唱
聖句

主はエルサレムを再建し
イスラエルの追いやられた人々を集めてくださる。詩編 147:2

聖書から…

あちらから、こちらからと人が集まってくる。楽器を持っている人もいます。みんなうれしそう! 「あなたに会えてよかった」、「遠くからやっと来ることができた」、そんなうれしさが広がります。でも一番の喜びは一緒に神さまを礼拝し、賛美できること。そしてその喜びが感謝を、希望を広げていきます。

「子どもはあっちに行っていないさい」「あなたのいる場所はここにはないよ」などと言われる人はいません。ここは神さまを喜びとする人たちの集まりです。喜びの消えそうな人も、くすぶりを持っていた人も、全員が集まって大きな一つの喜びの光となりました。「そう、喜びは神さまからくるもの」、神さまのしてくださったことを数えよう。みんな愛されている私たち。愛し合って生きていこう。礼拝の喜びは続きます。

活動①

「集まろう」

- 準備●先週作った笑顔が書いてある風船、うちわやおぼんなど



- ①メンバーで協力して、紐で大きな円を作ります。離れたところにおいてある風船を、うちわなどに乗せて円まで運び、入れます。
- ②一人ひとり順番にいれましょう。
- ③風船が全部集まったらみんなで拍手。

活動②

「喜びが広がりますように」

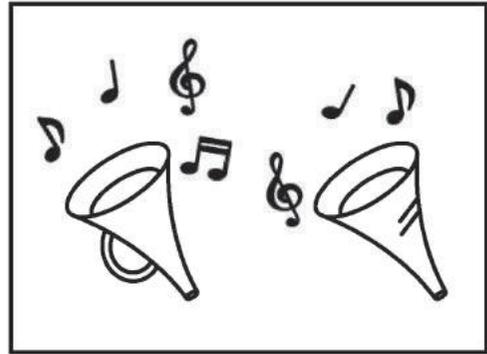
- 準備●大きな画用紙に教会の絵を描いておきます。先週使ったカード、のり
- 教会の絵のまわりに先週使ったニコニコマーク、わっはっはマーク、(他自由に)をみんなで貼りましょう(教会にくることができないでいる人も、イエスさまはみんなをつないでいてくださることをおぼえ、感謝しましょう)。
- 「喜びひろげよう」
イエスさまに愛されている喜び広げよう。どうやって? みんなで考えてみましょう。
「イエスさまはあなたのこと大好きだよ」「あなたは、このことを誰に伝える?」とメンバーに声をかけましょう。

活動③

ワークシート

「喜び祝おう」

- 準備●ワークシート、鉛筆、消しゴム、(それぞれ人数分)
- *人々の喜びの音が楽器の音と共に遠くまで響いていく、その様子を思い浮かべながらワークをします。
- ①□で囲んである絵と同じ絵を□で囲みます。
 - ②あなたはどんなラッパを吹いてみたいですか。ワークシート右下の□の中に描きます。互いに描いたラッパを見せ合って、どんな音がするだろうと想像してみると楽しいでしょうね。



あなたのラッパ



立ち上がるイエスさま

聖書 ルカによる福音書4章16～21節

暗唱
聖句 この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した
ルカ 4：21

35
課

11
月
27
日

立ち上がるイエスさま

ルカ 4：14 から、イエスさまのガリラヤでの福音宣教が始まります。「立つ＝立ち上がる」(4：16) イエスさまの姿は、まさに、始まり、スタート！という印象を深く覚えることができます。この何気ない、「立ち上がる」という言葉ですが、実はこの言葉は、「ルカ」が、その福音書と使徒言行録で、多用している言葉の一つです。その他、17 節の「育つ」、「渡す」、「目に留まる」、20 節の「目を注ぐ」も「ルカ」が好んで用いる言葉です。

「ルカ」に限ったことではありませんが、聖書の各書には、その書でよく用いられる言葉やその書にしかない言葉があります。それが、それぞれの書の特徴や彩りとなっています。その言葉を選ぶことで語られる福音に「目を注いで」いきます。ここでは、「ルカ」ならではの言葉で語られる、「解放」が主題となります。解放と言うと、苦しみ、悲しみ、抑圧、囚われなどから解き放たれることですが、自分に貼られた誤ったレッテルが取り除かれ、「自分らしさ」を取り戻すことも意味しているでしょうか。「ルカ」らしさ、そこで語られる福音です。イエスさまが来られ、立ち上げられました。福音に目を注ぎましょう。

「いつものように」、 そこで起こる特別なこと

パウロも会堂（ユダヤ教のシナゴグ）で、福音を語りますが、イエスさまも安息日に会堂に入られます。「いつものように」とあり

ますが、この言葉自体は新約聖書ではここ以外に、三回しか出てこない珍しいものです（マタイ 27：15、マルコ 10：1、使徒 17：2）。情性やマンネリではない、特別な、大切な習慣がそこで営まれていると感じます。「いつものように」会堂に入られたイエスさまは、そこで、聖書を朗読されます。会堂で聖書を朗読することは、ユダヤ人の成人男子に認められていたことで、イエスさまだから、特別ということではありませんが、この言葉「朗読する」は、ルカ 6：3、10：26 にも用いられていて、単に声に出して読むことなく、その言葉を「どう読むか」、どのように理解しているかを含む大切な言葉です。イエスさまは言われます、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」（ルカ 4：21）と。

イエスさまは、イザヤ書の巻物を「開き」（4：17）、朗読して、「巻き」（4：20）ます。この巻物ならではの、「開き」、「巻く」という言葉は、新約聖書ではここにしかない言葉です。「いつものように」、そこで特別なことが起こるのです。それは解放の福音の実現です。

時間を巻き戻して

イエスさまが朗読されたのは、イザヤ書 61：1～2 を中心とした言葉です。この箇所はイザヤ書においては、バビロン捕囚から帰還した人々に語られた名の知られていない預言者の言葉となっています（56～66 章が「第三イザヤ」と呼ばれ、一個人なのか

複数の人物が議論されています)。それは先のエズラ、ネヘミヤと重なる時代の言葉です。そこで、私たちは、^{なぐさ}慰め、希望の言葉を聞き、神殿の完成、城壁の完成を喜びました。そして、今、もう一つの完成を喜びます。解放の福音、主の恵みの年の到来です。それは、城壁や神殿などのように、目に見えるものではありませんが、私たちにとっては、なくてはならないものです。イエスさまが、そのことを語るために立ち上げられました。ルカ4:22以下には、その福音を聞いた人々の驚きが記されていますが、イエスさまの福音を拒否する人々の姿も繰り返し描かれています。エズラやネヘミヤの時のように、困難が待ち構えています。しかし、解放の福音は広がっていきます。イエスさまは、立ち上がって、主の恵みの年の実現を宣言されました。

準備のための聖書日課			
21日	㊦	異邦人にも救い	イザヤ56:1~8
22日	㊧	主の栄光の輝き	イザヤ60:1~7
23日	㊨	福音の初め	マルコ1:1~8
24日	㊩	福音を信じなさい	マルコ1:14~15
25日	㊪	天の国は近づいた	マタイ4:12~17
26日	㊫	ガリラヤから広がる福音	ルカ4:14~15



成人科

● イエスさまが「今日…、実現した」と言われた、イザヤ書の言葉は、それが最初に語られてから500年以上の年月が流れています。ここで「実現した」と言われても、何を今さら、という思いがあっても当然のところですが、私たちは、この言葉がすでに、2000年前に実現した、「今」を生かされています。そこで、私たちはこの言葉をすでに実現した確かな現実として、聞いているのでしょうか。その福音の喜びを実感しているのでしょうか。色あせたものにしてはいないのでしょうか。そして、私たちが語り、伝える福音の言葉は、その確かさをもって、いきいきと語られているのでしょうか？

● 私たちは、「イエス」に対して、「さま(様)」をつけ、「主」と呼び、「キリスト」、「救い主」と告白しています(弟子たちは「先生」と呼んだりもしています)が、この場面では、「一人の信徒」としてのイエスを覚えることができます。いつものように、会堂で、礼拝し、聖書を朗読し、福音を語り伝える、そこには「肩書」のようなものは伴っていません(あるのは「ヨセフの子」)。このイエスの姿に私たち自身の姿を重ねて、宣教、伝道のわざに招かれているのは、この自分自身であることを共に考えてみましょう。

立ち上がるイエスさま

聖書

ルカによる福音書4章16～21節

暗唱
聖句

この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した
ルカ 4：21

35
課

11
月
27
日

安息日、礼拝のために会堂に行くと、イエスが入って来た。ヨセフの息子のイエスが帰ってきたと、噂はぐるりと村を回っていた。バプテスマのヨハネからバプテスマを受けたら、聖霊が鳩のように降ってきたとか、ガリラヤ地方一帯をあちこち巡って会堂で教えていて、すごい評判だとか。小さい時からこのナザレの村で一緒に育ってきたイエス。おれには、いつも通りの彼に見える。イエスは、先週もその前も変わりなくこの会堂で礼拝を捧げていたかのように、落ち着いた様子で座席についた。

礼拝が進み、預言書の朗読となった。イエスが立ち上がると、イザヤ書の巻物が渡された。イエスは受け取ると巻物を開き、つと、一つの箇所にも目を落とし、朗読を始めた。

「主の霊が私の上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである」。何百年も前、民に語られた回復の預言が、イエスの口を通して再び音となった。聞いていると、輝く光の薄布が天井からゆるゆると降ってきて折り重なり、会堂を満たしていくような気がした。

「主がわたしを遣わされたのは、主の恵みの年を告げるため。主の恵みの時、がんにがらめになっている人は解放され、見えなくされていた人は見えるようになり、圧迫されている人は自由になる」。イエスの言葉と共に、会堂を満たした光の薄布はおれ



たちを取り巻いた。そして、イエスの語った言葉が、おれの中に押し入ってきた。主なる神さまの恵みの知らせは、富んだ人たちのところではなく、貧しくうめいているおれたちのところにもたらされる。搾り取られ、痛みと苦しみに、いつも大きな荷を負わされて下を向き、ようやく歩いているようなおれたちにこそ、解放がもたらされる。イエスの言葉はおれの中で、そう響いた。

イエスは読み終えて巻き戻すと、係の者に返し、自分の席に戻って座った。誰も、何も言わなかった。みんながイエスを見ていた。イエスが口を開くのを、みんなが息をするのも忘れて待っているのを感じた。光は依然として、静かに会堂に満ちていた。

しばらくの張り詰めた静寂ののち、イエスが再び口を開いた。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」。イエスがそう宣言した時、風が吹き抜けた。会堂を満たしていた光は渦を巻き、吹き抜ける風とともに外へとあふれ流れた。

「あなたたちの目の前で、聖書の言葉は実現した」。イエスは、静かに立っている。

立ち上がるイエスさま

青少年科



聖書

ルカによる福音書4章16～21節

暗唱
聖句

この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した
ルカ 4：21

聖書から…

イエスさまが神さまの働きのために立ち上がられた後、「いつもどおり」に会堂に行き、聖書を朗読しています。「いつもどおり」の生活の中に、神さまの働きがあるということでしょうか。いつもどおりの礼拝、祈祷会、教会学校。私たちの生活にも教会にも「いつもどおり」がたくさんあります。会堂で聖書を読まれて、話されたイエスさま。きっとこの日の礼拝もいつもどおり。突然「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と言われて聞いていた人はびっくりしたでしょう。エズラ・ネヘミヤの時代、神殿完成の喜びが広がっていったように、イエスさまの時代には、イエスさまと出会った人たちが神の国の完成を実感し、喜びにあふれていたのかもしれませんが。私たちがいつも読んでいる聖書。版や翻訳は違ってても、神さまの言葉である聖書は変わりません。いつもどおりの聖書から、どんなメッセージを聞くことができるのか。「この聖書の言葉は、今日、あなたが耳にしたときに、実現した」と、いつも通りの中に語りかけてくださる特別なイエスさまの言葉に期待して、聖書を共に読んでみましょう。

分かち合おう

- イエスさまの時代も、かわらず聖書を読み続けてきた様子を知ることができます。私たちが手にする聖書は66巻。イエスさまの時代よりも巻数は増えていますが、神さまがくださる言葉として大切に読んでいます。読みやすいものや、ちょっと読むのに苦労するもの。好きなものだけ読んでいると、偏ってしまいます。日々聖書を読むことの大切さがあると思います。いつもどおりの聖書を一緒に通読してみませんか。聖書を共に読む時間を大切にしてみましょう。誰かと一緒に聖書を読むときに見えてくる神さまの言葉を一緒に受け取りましょう。
- 待降節が始まると、世界バプテスト祈祷週間が始まります。イエスさまの福音を宣べ伝えるために立ち上がった働き人たちと、祈りをもってその働きにつながるができる大切な時期です。自分の国以外の場所で働いている人を覚えたいと思います。日本バプテスト連盟につながる働き人、また国際ミッションボランティアの働きにつかえている友を覚えて祈りましょう。またどのような働きをしておられるのか、私たちができることはなにか、考えてみませんか。オンラインの報告会や『世の光』（日本バプテスト女性連合発行）、ホームページでも、働き人たちと出会うことができます。

35
課

11
月
27
日

立ち上がるイエスさま

聖書 ルカによる福音書4章16～21節

暗唱 聖句 この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した
ルカ 4：21

聖書から…

イエスさまはすべての人を解放し、愛を示すためにこの世界に来てくださいました。すべてということは、例外の人はいません、ということです。

イエスさまはいつものように安息日に聖書を読まれました。貧しい人、捕らわれている人、目の見えない人、圧迫されている人、すべての人を解放してくださる聖書の言葉はなんと力強いことでしょうか。「いやいや、そんなことはない。あの人は見捨てられた人」「わたしなんか恵みをいただけるはずはない」と、イエスさまの言葉を受け入れないでいる人たちがいました。イエスさまは立ち上がりこう言われます。「すべての人が解放されるのです」と。そして今も、この解放の知らせを全世界の人に聴いてほしいと、願っておられます。イエスさまと共に立ち上がる人は誰でしょう。

活動①

伝えよう「愛されているわたしたち」

「世界中の子どもたちは神さまから愛されています」このうれしい知らせが世界中の子どもたちに届けられますようにお祈りしましょう。

- 世界の人にこのうれしい知らせを届けるために、どんな方法がありますか。みんなで考えてみましょう。
- 段ボール箱や画用紙を切り抜いて窓枠

(画面として使う) のようにする。メンバー一人ひとりが画面枠から顔を出して、うれしいニュースを伝えましょう。



活動②

ワークシート

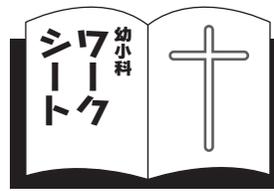
「世界バプテスト祈禱週間新聞」

- 準備 ● ワークシート、鉛筆、消しゴム (人数分) 定規

日本バプテスト連盟では、11月27日～12月4日を「世界バプテスト祈禱週間」として、世界宣教をおぼえて祈りを合わせます。

世界バプテスト祈禱週間新聞を作成し、教会の壁などにはりましょう。

- ① ワークシートを用いても、または白紙から自由にレイアウトして作成してみましょう。
- ② 日本バプテスト連盟から出される「国外伝道ニュース」や『世の光』誌 10月号(日本バプテスト女性連合発行)などを参考にするとよいでしょう。
- ③ 教会の人たちに「教会に来るきっかけ」や「聖書の言葉を教えてくれた人」「今年励まされた聖書の言葉」などインタビューして記事にしてもいいですね。



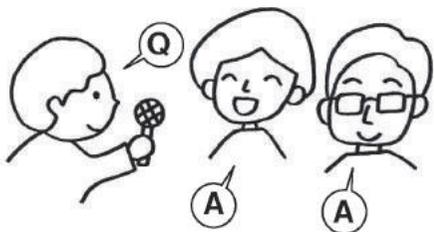
ねんど せんきょうし
2022年度 宣教師
 こくさい かつどう
国際ミッションボランティアの活動

おし
 知らせ

せかい
世界バプテスト
 きとうしゅうかん
祈禱週間
 しんぶん
新聞

インタビュー

いま せかい
今、世界は



いの
お祈り

ヨハネ誕生の約束

聖書 ルカによる福音書1章5～25節

暗唱 聖句 その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。ルカ 1：14

なんて日だ!

ザカリアとエリサベトを紹介する1：5を読むと、エズラが、ネヘミヤが、主の導きのうちに行い、喜び祝ったあのわがが、今ここに、脈々と受け継がれていることがわかります。ダニエル書に記された大きな苦難がありました。この後、登場する天使ガブリエルは、そのダニエル書にもその姿が描かれていました(8、9章)。大きな危機を経験しました。しかし、そこで断絶とはならず、ここに祭司の務めをする者、祭司の家系に連なる者がいます。8節の「祭司の務めをする」と訳されている言葉は、新約聖書では、ここにしかない言葉です。当たり前ではない、特別な出来事が起こっているのです。

この時代、祭司は各地に二万人前後いたと言われます。自分が属する組が当番になると、それぞれの地からエルサレムの聖所(神殿)に赴き、祭司としての務めを行うのです。各組は年に二回、各一週間、聖所での務めを担っていたと考えられます。

ここでまた、特別な出来事がザカリアに起こります。「くじを引いたところ、主の聖所に入って香をたくことになった」のです(1：9)。祭司は二万人前後いますから、聖所で「香をたくこと」は、一生に一度あるかないかの特別な務めです。初めてのことに、緊張して、「手間取る」(ルカ1：21)こともあったでしょう。ザカリアの特別な日、もう一つのことが起こります。主の天使ガブリエルが現れたのです。

天使ガブリエルの言葉

ガブリエルとは「神の人」という意味です。聖書に登場する天使は、メルヘンチック、ロマンチックな存在ではなく、大きな苦難の中で、神を遠くに感じるとき、神に忘れられたと感じるとき、その遠さ、隔たりを埋める形で現れます。新約聖書では、ヨハネの黙示録に多く、天使の姿があります。「ルカ」ではゲッセマネに天使の姿があります(22：43)。

ザカリアの苦しみは、「エリサベトとの間に子供がなく、二人とも既に年をとっていた」(ルカ1：7)ことでしょうか。天使ガブリエルは言います、「あなたの願いは聞き入れられた」(ルカ1：13)。ザカリアの名前の意味は、「神に覚えられている人」、「神が忘れておられない人」です。神はザカリアのことを覚えておられたのです。

天使ガブリエルの言葉は、詩の形になっているとも言われます。その内容はザカリアの個人的な喜びにとどまらず、イスラエル全体の喜びとなるものです。ヨハネと名付けられるその子の生き方は、旧約聖書の民数記6：3、レビ記10：9、サムエル上1：11などと関連していますが、より注目したいのは、マラキ3：23にある「再来するエリヤ」とのつながりです。

ザカリアとエリサベト

聖所での務めを終えたザカリアですが、天使ガブリエルのことばを信じなかったことで

口が利けなくなった状態で家に帰ります(1:22～23)。妻エリサベトには、どのように報告をしたのでしょうか。「身振り(合図)」(1:22)によってでしょうか。「字を書く板」(1:63)によってでしょうか。いずれにせよ、エリサベトの言葉(1:60)からすると、二人はその思い、決意を、何よりも神の約束を共有しています。

エリサベトをめぐるには、新約聖書のここにしかない言葉がいくつかあります(「身を隠す」、「恥」)。これらはエリサベト本人にしから分らない苦しみを示しています。彼女のところに、天使ガブリエルが現れた気配はありません。しかし、エリサベトは言います、「主は…わたしに目を留めてくださった」と。ザカリアが「神に覚えられている」ように、エリサベトも神に覚えられているのです。二人

準備のための聖書日課		
29日	㊦	確実な教えを伝えるために ルカ1:1～4
30日	㊧	非のうちどころのない者 フィリピ2:12～18
31日	㊨	天使の言葉に対する不信 ルカ24:22～27
1日	㊩	天の示しに応じて 使徒言行録26:19～23
2日	㊪	主は忘れない イザヤ49:14～21
3日	㊫	預言者エリヤと主の日 マラキ3:19～24

にはこの先、不安があります。しかし、生まれてくる子、ヨハネにも「主の力が及んでいる」のです(1:66)。



成人科

● ザカリアには願いがあり、そこに当然のこと祈りがありました。長い間、祈り続け、今日という日を迎えました。しかし、天使ガブリエルに対するザカリアの言葉(1:18)からは、諦めとも思える心の様がうかがえます。別の言い方をするなら、祈りを中断している、祈っていないザカリアの姿です。私たちは「祈りの力」という言葉を使うことができますが、ザカリアはその「祈りの力」によって、今日を迎えたわけではありません。ザカリアは諦め、その祈りは無力なものとなっています。彼はただ、「神の力」によって、今日を迎えるのです。「祈りの力」ということで、神ではなく、自分を誇ってはいないでしょうか？

● ダニエル書、そして、エズラ記とネヘミヤ記とのつながりの中に、本課の出来事があります。天使ガブリエル、神殿、祭司など、さらに、もう一つ、「預言者エリヤをあなたがたに遣わす」(マラキ3:23)ともつながっています。本課の出来事は、ザカリアとエリサベトという一夫婦に起こったことですが、それが多くの人の喜びへとつながります。私たちの小さなわざを神さまはどのようにつなぎ、用いてくださるのか。たとえ、自分自身はその結果を目撃できなくても、神さまの力に期待します。

ヨハネ誕生の約束

聖書 ルカによる福音書1章5～25節

暗唱 聖句 その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。ルカ 1：14

「エリサベト、では行ってくるよ」。神殿務めの順番が回ってきたザカリアは、身を清め、あたしにそう声をかけて上って行った。ところが何としたこと！ 帰って来たら、口が利けなくなっていた。一緒に戻った同じアビヤ組の祭司によると、ザカリアはくじで主の聖所で香をたくご奉仕に当たったのだという。「聖所からずいぶん長く出てこなくて、何を手間取ってるんだろうと思ってたんだ。そして出て来た時には話せなくなっていたんだ。だから、きっとザカリアは聖所で幻を見たんだろうってことになって」。何が起こったか、自分たちは分からないんだと話す同僚の横で、ザカリアは押し寄せる波を受けとめているような顔をしてあたしを見ていた。

家に入って二人きりになり、あたしはいろいろ尋ねたり、ザカリアは身振り手振りや板に書いたりして。やっと何が起こったかわかった。聖所に天使ガブリエルが現れたって。そしてこんなに年取ってるあたしたちに、子どもが与えられるって言ったんだと。信じられないような話だけど、ザカリアの口が閉ざされて戻って来たんだもの、神さまの力が働いておられるに違いない。

急に話せなくなったザカリアは不自由そうだ。あたしは彼の目を覗き込む。あたしたちは手間ひまかけて、お互いの思いを伝え合う。今までよりもっと、お互いのことが分かるようになった気がするよ。

しばらくして、あたしは自分のお腹の中



に命が宿ったことがわかった。あたしの中で、神さまからのお恵みが育っている…。悲しみに堅くなっていたあたしのお腹が、今は柔らかくふくらんでいる。神に覚えられている人、なんていう意味のザカリアの名前は皮肉だと、あたしたちはこれまで悲しく感じる時があった。でも、そうじゃなかった。あたしたちは決して神さまから忘れられてなかった。神さまは悩みつつ生きる一人ひとりを捨ておられないお方だった。神さまのまなざしは昔も今もずっと変わらずあたしにも注がれていたことがわかり、本当にうれしい。あたしたちの歳では、もうきっとこの子の成長した姿を見ることはできないだろう。だけど天使は、この子が成長した後、預言者エリヤのように人々を主のもとに立ち帰らせる働きをするとまで教えてくれた。そして名前はヨハネにせよと。主は恵み深い、っていう意味だ。疑いの言葉を閉じて、あたしはザカリアと一緒に神さまの恵みを思いめぐらす。この楽しみと喜びを共に育てよう。信じるともさ。主は恵み深い。

ヨハネ誕生の約束



聖書

ルカによる福音書1章5～25節

暗唱
聖句

その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。
多くの人もその誕生を喜ぶ。ルカ 1：14

聖書から…

神殿での香を焚く働きの当番が回ってくるということは、とても特別なこと。初めてのことで、高齢のザカリアにとって、不安もいっぱいあったと思います。そんな大切な働きの最中に、急に天使ガブリエルから告げられた我が子の誕生。驚くやら、信じられないやら…。ザカリアは、どんな気持ちでこの知らせを聞いたのでしょうか。天使の言葉を聞くことで精一杯だったかもしれないし、言葉を理解したとしても、それを受け取ることはできなかったのではないのでしょうか。大切な仕事なのに、きっと神殿での働きも手につかなかったのでは？ と想像します。

ヨハネの誕生は、ザカリアが想像を超えた神さまの契約を受け入れることから始まりました。私たちに示される神さまの約束を、こんなこと無理！ できない、できない！ と考えていると、新しいことへのチャレンジも、出会いもなくなってしまいます。信じられないような神さまの約束で、私たちが足踏みしていたとしても、あちらから確実にやってくるのでしょうか。ザカリア、エリサベトの喜びが、二人の周りの人たちにもうれしい出来事として広がっていったと思います。神さまは、ザカリア、エリサベトのことを神さまが覚えて、ヨハネ誕生の約束を成してくださいました。私たちのことを覚えてくださる神さまからいただく特別な「約束」を大切に受け取り、喜びを分かち合いたいですね。

分かち合おう

- 私たちが右往左往するときは、想定外の出来事と出会った時です。受け止めるのに時間がかかる出来事の前で、神さまはザカリアに沈黙を用意されていました。神さまの計画について思い巡らす時間を備えてくださっていたのです。今、あなたが神さまからもらっている新しい計画を思い巡らすことはどんなことがありますか？ 沈黙しながら考えることができるのでしょうか。分かち合ってみましょう。
- 伝えたいことを形にするというのは難しいなあと思います。ザカリアは子どもが生まれるまで、話すことができなくなり、身振りや筆談で思いを伝えることしかできず、どんな気持ちだったでしょう。出産を控えるエリサベトも不安があったと思います。自分の思いを人に伝えること、自分の言葉で伝えることも難しいときもあるのではないのでしょうか。神さまへ私たちの思いを伝えるとき、どのような方法があるのでしょうか。お祈り？ 礼拝？ 賛美？ あなたができる神さまへの思いの伝え方はどのようなものがあるのでしょうか。

ヨハネ誕生の約束

聖書

ルカによる福音書1章5～25節

暗唱
聖句

その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。
多くの人もその誕生を喜ぶ。ルカ 1：14

聖書から…

ザカリアは神さまに仕える祭司です。主の聖所で、その務めを果たしている時に主の天使が現れました。そして告げられたことは、ザカリアには信じられないことでした。「私と妻エリサベトは既に年をとっている。その二人に子どもが与えられるなど、願っていたことだけれど、それはありえないこと」。信じることのできなかつたザカリアは話せなくなってしまいました。驚くエリサベトと共に心を合わせて祈る中で、二人は神さまの導きにすべてを委ねていきました。天使が伝えてくれたことは嬉しい知らせです。わが子を抱けるという二人の喜びと共に、その子は人々を主のもとに導き、多くの人の喜びとなるのです。お腹の中で育っていく命を神さまに感謝しつつ、二人は共に、神さまの恵みをますます深く味わう期間を過ごしました。

活動①

「伝言ゲーム」

リーダーが、メンバーひとりに伝言をそっと伝えます。そのメンバーは次の人に伝え、そして次の人へとどんどん伝えます。最後のメンバーが大きな声で、伝えられたことを発表します。

(例)「教会に来るとき、ながーい橋をわたります」、「先週の暗唱聖句、覚えていますか」、「きのう、夕ご飯でオムライスを食べました」、「イエスさまはあなたのこと大好き」など。

活動②

「ジェスチャーゲーム」

リーダーはある文章をジェスチャーで伝えます。メンバー全員で、リーダーが何を伝えたかを当てます。

(例)「みんなが教会に来て私はうれしい」、「集まってお祈りしましょう」、「私は歌うのが大好き」、「私は踊ります」、「あなたはピアノをひきます」、「〇〇さんはバナナを食べます」

慣れてきたらメンバーにもジェスチャーをしてもらいましょう。

*ザカリアは話せなくなった時、どんな方法で人々やエリサベトに出来事を伝えたのでしょうか。

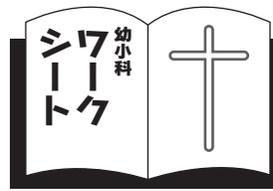
活動③

ワークシート

「どんな人たち？」

●準備●ワークシート（人数分）、鉛筆、消しゴム

- ①聖書を全員で読みましょう。
- ②ザカリア、エリサベト、民衆はどんな人たちでしたか。●に○をつけましょう。
- ③どんな人たちだったか、聖書を読んで気が付いたことを分かち合いましょう。

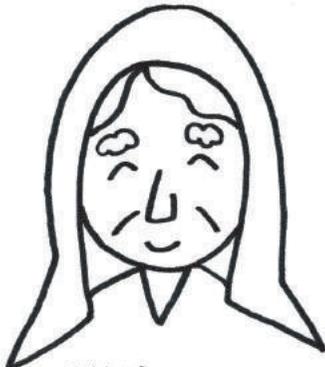


ザカリア ●



- 祭司として忠実に神さまの務めを担った。
さいし ちゅうじつ かみ つと にな
- トビア組の祭司だった。
くみ さいし
- 天使の言葉をすぐに信じた。
てんし ことば しん

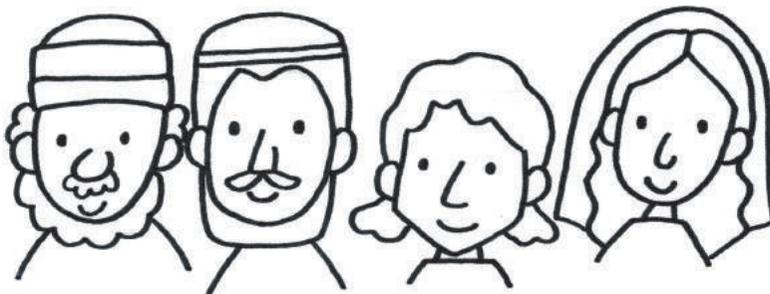
エリサベト ●



- ザカリアと結婚したばかりだった。
けっこん
- 神さまを信頼して歩んでいた。
かみ しんらい おゆ
- ダビデの時代の人だった。
じだい ひと

みんしゅう
民衆 ●

- 香がたかれている間、飲み食いしていた。
こう あいだの く
- ザカリアがなかなか出てこないで、みんな家に帰った。
で いえ かえ
- ザカリアが聖所で幻を見たのだと悟った。
せいじょ まぼろしみ さと



イエス誕生の約束

聖書 ルカによる福音書1章26～38節

暗唱
聖句 「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」
ルカ 1：28

「おめでとう」と言われても

ザカリアに続いて、マリアのところに天使ガブリエルが神から遣わされます。マリアはどのようなことで、神の速さを感じる、苦しみ、悩みを抱えていたのでしょうか。マリアの人となりに関する情報は皆無です。ここでは、「ナザレというガリラヤの町で生活しているダビデ家のヨセフという人のいいなづけであるおとめ」（1：26～27）、そして、「エリサベトの親類」（ルカ 1：36）であるのが「マリア」のすべてです。「ダビデ家のヨセフのいいなづけ」であることに不安を感じていたのでしょうか。この「いいなづけ」という言葉は、新約聖書では、こことルカ 2：5 と マタイ 1：18 にあるだけで、マリアとヨセフの関係のみに用いられています。

マリアを「素朴な一信仰者」と評する人もいますが、彼女のこれまでの「信仰」についても不明です。一つの言葉に注目するなら、マリアは天使ガブリエルの言葉に「戸惑」います（1：29）。この言葉は、新約聖書のここにしかない言葉です。マリアとは、天使の「おめでとう」の挨拶に戸惑う一人の女性です。

「おめでとう」の挨拶

「挨拶」という言葉は、新約聖書で、ルカ福音書に最も多く用いられています（10回中5回、1：29、41、44、11：43、20：46）。その挨拶の最初の言葉「おめでとう」は、「こんにちは」とも訳されますが、直訳は、「喜べ」です。そして、この動詞「喜ぶ」もルカ

福音書で最も多く用いられている言葉です。

マリアは何を喜ばばいいのでしょうか。続く、「恵まれた方」は、こことエフェソ 1：6 にしかない、特別感を感じる言葉です。マリアはどのように恵まれているのでしょうか。それは「主があなたと共におられる」ということですが、この言葉は直訳すると「主があなたと共に」となり、動詞がありません。マリアはかつて主が共にいたのか、今主が共にいるのか、これから主が共にいることになるのか、あるいは、天使ガブリエルが「これから主が共にいるように！」と祈り願っているのか、様々な取り方ができます。多くの聖書が訳しているように、「今、主が共におられるマリア」というのが落ち着きどころです。まさに「主が共におられる」ことに、喜びがあり、恵みがあります。ところが、マリアは、戸惑い、考え込んでしまうのです。そして、恐れています。

「神にできないことはない」

天使ガブリエルは言葉を続けます。その内容はマリア一人に留まらない、神の恵みの出来事、救いの計画の展開です。恐れているマリアの口から、絞り出すように出た言葉は「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんが」（1：34）となっています。これは神の出来事の大きな展開に圧倒されているマリアというよりも、天使ガブリエルの最初の一言、「あなたは身ごもって男の子を産む」（1：31）という自分一人のことで、止まり、思考停止状態のマリアのようにも思えます。このままなら、マ

リアもザカリアのように口が利けなくなるで
しょうか。

しかし、天使ガブリエルは言葉が続けます、
そこにある「神にはできないことは何一つな
い」(参照・ルカ 18:27) は、反論の余地
のない「庄」を感じる言葉にも聞こえます。
しかし、マリアは自分にできる、できないで
はなく、「神のできる」に応答します。それが、
積極的なものか消極的な応答なのか、意見が
分かれていますが、何より「天使は去って行っ
た」ということ、聖書には天使の登場は多くあ
りますが、その「退去」まで記すことはあまり
ありません。ここではっきり、神の遠さ、神
との距離を埋めるために間に立つ天使の出番
はなくなったのです。なぜなら、「主があなた
と共におられる」のです。

準備のための聖書日課			
5日	㊦	御子による恵み	エフェソ1:1~9
6日	㊧	救いをもたらす福音	エフェソ1:10~14
7日	㊨	主の天使とヨセフ	マタイ1:18~25
8日	㊩	主に不可能はない	創世記18:9~15
9日	㊪	神による救い	ルカ18:24~30
10日	㊫	人の知識と神の経綸	ヨブ42:2~6



成人科

●ザカリアには、願い＝
祈りがありました。マ
リアには、どんな願い＝
祈りがあったのでしょうか。その具体的
内容は不明です。ザカリアとの共通点と
して、天使ガブリエルの訪れがあります
から、マリアにも何かしら神の遠さを覚
える悩み苦しみがあったことが想像でき
ます。しかし、その具体的内容も不明です。
ある意味、マリアの思いとは全く異なる
ところから、マリアの思いとは全く異なる
形で、しかも、いきなり、神さまの約束
が伝えられています。私たちの思いや
想像を超えて、届けられる神の言葉があ
ります。「えっ！ そんな！」と言いたくな
ること、しかし、それは、神さま側から

すると、「おめでとう」なのです。自分の
願い＝祈りとは全く異なる形で経験した、
召命の出来事はありますか？

- 「受胎告知」の場面を多くの画家が描いて
います。そこには、それぞれの画家のマリ
アのイメージ、信仰が映し出されています。
聖書を手にしているマリア、裁縫道
具を横にしているマリア、百合の花と共
に描かれているマリア、それらは、自分
自身とは異なる素晴らしいマリアでしょ
うか。天使を前にして、おびえるように
しているマリアを描く画家もいます。マ
リアと自分は「＝」で結ばれるのでしょ
うか？

イエス誕生の約束

聖書

ルカによる福音書1章26～38節

暗唱
聖句

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」
ルカ 1：28

井戸から水を汲んできて、明るい戸外からひんやりした家の中に入ると、部屋の中は薄暗くてよく見えない。注意して壁際に水がめを置き、あー重かった、とのびをした時、「マリア」と知らない声がして、あたしは飛び上がった。誰かいる！全身の毛穴から冷や汗がふきだした。

部屋の薄暗さに目が慣れてくると、声の主がテーブルをはさんで部屋の隅の椅子に座っているのが見えた。驚きのあまり声も出ないあたしに向かって、その人は口を開いた。穏やかで、やわらかな声だった。「喜びなさい、恵まれた者よ。主があなたとともにおられる。私は主の使いだ」。何を言っているのか、よくわからない。主の使い？ どうして天使があたしの前に現れるの？ こわくて、手のひらにじっとりかいた汗を服にこすりつけた。

天使はあたしの心を見通したように続ける。「マリア、恐れなくて。神の恵みの内にいるのだ。あなたは身ごもって男の子を産む。名前をイエスと名付けなさい。その子は、主は救い、というその名の通り、偉大な人となる。神は彼にダビデの王座を与え、永遠にイスラエルの王となるだろう」。子どもを産む？ あたしはヨセフのいいなずけだ。結婚もしていないのに。「そんなことは。そんなことは、ありえないわ。あたしは男の人を知らないもの」。

天使は動じない。「聖霊があなたに降り、神の力があなたを包む。だから生まれた子



は神の子と呼ばれるだろう。そら、あなたの親類のエリサベトは、年を取り、子どもは与えられないと言われていたのに、男の子を身ごもってもう6カ月だ。神にできないことなど何一つないのだよ」。天使はテーブルの向こうに座ったまま、静かにあたしを見ている。

もちろん神さまを信じてる。だけどこれまで、神さまの計画が、特別にあたしの身に関わってくるなんて、考えたこともなかった。神さまは、あたしたちそれぞれの生きざまに深く踏み込んで、みこころを行うってこと？ 神さまが共にいてくださるって、そういうこと？ 長い沈黙の後、あたしはささやいた。「あたしは主のしもべ。神さまの言葉通りに、あたしの身になりますように」。

気づいたら天使はいなくなっていた。幻でも見た？ いや、幻じゃない。主があたしと共にいてくださる、という天使の言葉が、あたしの中に残ってる。これからあたしに何が起ころんだらう。そうだ、天使はエリサベトと言った。彼女にも、神さまの業が起こっている。エリサベトの元へ！

イエス誕生の約束

聖書 ルカによる福音書1章26～38節

暗唱 聖句 「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」
ルカ 1：28

聖書から…

ザカリアとエリサベトへのヨハネ誕生の約束の後、天使ガブリエルは、マリアという少女のもとにやってきます。奇跡のような2つの小さな命の誕生が、年を重ねた夫婦と、未婚の少女の元に与えられました。この2つの命の誕生から、神さまの出来事は、いろんなところで起こされていると思わされます。ヨハネの誕生も、イエスさまの誕生も大きな戸惑いや葛藤の中に起りました。

マリアという人がどのような人かはわからないけれど、聖書からわかることは、神さまがくださったイエスさまの誕生という約束の言葉に、「え、なんで？なんで私？信じられない！」と驚き、動揺し、一度は否定する、私たちとは何も変わらない存在のようにも感じます。マリアは天使からの言葉を、動揺しながらも大切に受け取り、神さまの出来事がこの身になりますようにと祈りました。

まさか！と思う出来事や、未来がどうなるかわからないけれど、神さまの出来事に身を委ねてみる。不安だけれども、「主と共におられる」、私たちの不安を受け止めてくださる方がいる。これから起こることに主が共にいると喜べるあなたはすでに恵まれている。先は見えないけど、神さまの出来事の中に喜びがある。ザカリア、エリサベト、そしてマリアの姿勢に続いて行けたらと思います。

分かち合おう

- 「おめでとう！」と急に言われたら、ちょっとうさんくさく、信じることはなかなかできない私たちではないでしょうか。神さまが共にいてくれると頭でわかったとしても、自分にできることの範囲を考えてしまう私たち。マリアは、天使から、こんなことがおこるよ！これが神さまの計画だよ！と教えてもらっています。教えてもらってもなお、神さまの計画を素直に喜べないマリアの姿が聖書には描かれています。神さまから直接、「これが神さまの計画だ！」と教えてもらうことができない私たちは、どのように、神さまの計画を知ることができるのでしょうか。
- 「主が共にいる」ということはわかっても戸惑ってしまう私たち。最初は戸惑いが勝っているけれども、最後には主が伴ってくださっていたことを振り返れば気づくことができるかもしれません。でも、私たちの生きる現実には、「主が共にいる」と感じる事が難しいこともたくさんあるのではないのでしょうか。そんな時、「主が共にいる」という言葉をどう受け取っていくことができるのでしょうか。一緒に考えてみましょう。

イエス誕生の約束

聖書 ルカによる福音書1章26～38節

暗唱 聖句 「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」
ルカ 1：28

聖書から…

天使が告げてくれたことに、マリアは喜びよりも戸惑いをおぼえました。まだ結婚もしていないのに身ごもるということ、子どもを育てるということ、すべてが予想もしていないことばかりだったからです。戸惑いの中で、でもはっきりとわかることは、天使が告げてくれたということ。天使は「主があなたと共におられる」ことを、そして恐れなくて大丈夫ということ、静かに、温かく語りかけてくれています。マリアは信じて委ねていくことが自分のすることと知り、「お言葉通りこの身になりますように」と言うことができました。そのマリアに、神さまは共に喜ぶ人、誰よりもわかってくれて支えてくれるエリサベトの存在を教えてくださいました。

うか。自由に書いてみましょう（例：驚いた顔など）

- ⑤「主イエスとともに」を歌いながら、「うれしい時も」を歌うときはうれしい顔、「悲しい時も」を歌う時は悲しい顔のお面を自分の顔の前に出します。（自由例：驚いた）時は（自由例：驚いた顔）のお面を使って歌いましょう。一人ずつ賛美するのを、みんなで見守ってもいいですね。

*いつもイエスさまと一緒に歩いてくださる。共にいてくださる。「どんな時も一緒だよ」って言ってもらえるとうれしいですね。あなたはだれに「いつも一緒だよ」って伝えますか。



活動①

「いつも一緒」

●準備●大きく円形に切り抜いた画用紙（または紙皿）一人3枚。クレヨンやマジックなど。

- ①「主イエスとともに」を歌いましょう。『ふくいん子どもさんびか』90番（発行 日本児童福音伝道協会 発売元 いのちのことば社）
- ②大きく円形に切り抜いた画用紙（または紙皿）でお面を作ります。
- ③うれしい顔、悲しい顔、を書きましょう。
- ④残りの一枚はどんな時の顔を書きましょ

活動②

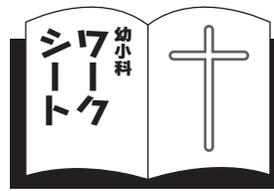
ワークシート

「マリアと天使」

●準備●ワークシート（人数分）、鉛筆、消しゴムなど

- ①天使が伝えたことに☆をつけましょう。マリアが答えた言葉に○をつけましょう。
- ②リーダーが順番に読んでいきます。全員が（ ）にしろしつければ次に進みます。
- ③一つずつ確認していきましょう。

○☆☆☆○☆☆☆☆ 947
777



- () おめでとう、恵まれた方、主があなたと共におられる。
- () マリア、恐れることはない。
あなたは神から恵みをいただいた。
あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。
- () その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。
神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。
- () 彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。
- () どうして、そのようなことがありえましょうか。
わたしは男の人を知りませんのに。
- () 聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。
だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。
- () あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。
不妊の女と言われていたのに、もう六ヶ月になっている。
- () 神にできないことは何一つない。
- () わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。



マリアとエリサベト

聖書

ルカによる福音書1章39～56節

暗唱
聖句

わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
ルカ 1:47

エリサベトのところへ

天使ガブリエルが去って、どれくらいの時間がたったのでしょうか。「そのころ」とあり、それほど時間はたっていないようです。マリアは「急いで山里に向かい、ユダの町に行きます (1:39)。この「ユダの町」については、ネヘミヤ 11:3 から、そこに祭司たちの生活の場があったことが知られます。具体的な町の名前は不明ですが、ザカリアの家がそこにあったのでしょうか。マリアの「急ぎ足」は、その家のザカリアはマリアの眼中にないのか、ザカリアは留守中だったのか、エリサベトのところへ、わき目も降らず一直線という感じです。

エリサベトがいるユダの町へは、ナザレから直線距離でも百キロ以上あります。その道をマリアはおそらく一人で急いでいます。この時のマリアが、妊娠初期であったのか、議論がありますが、様々な危険が想定される行動です。何よりマリアは急いでいます。言葉を変えると、じっとしていません。

じっとしてられないのには、二つの理由が考えられます。一つは喜びです。そこにはまた二つの喜びがあります。マリア自身の喜びとエリサベトの喜び、その二つの喜びを共有し、エリサベトに「おめでとう」を言いたいマリアです。もう一つの理由は、不安です。天使ガブリエルに告げられたことをマリアは完全に受け入れているのでしょうか。39節には「マリアは出かけて」とありますが、その言葉の本来の意味は、「立つ、立ち上がる」ということです。そこには、座り込んでいた

マリアの姿が想像できます。自分の不安をエリサベトに打ち明け、励まし、アドバイスをもらいたいマリアです。喜びの時、不安の時、じっとしてられません。

エリサベトの胎内で

マリアがどのような挨拶をしたのか、具体的な内容は不明ですが、その挨拶に即応答したのは、エリサベトの胎内の子、ヨハネでした。しかも、喜びと「おどり」による応答です。ここで「おどる」と訳されている言葉は、ルカ福音書にしかない特別な言葉です。喜びおどる胎児、マリアの挨拶は最高の胎教となっています。そのヨハネの喜びに促され、呼応するように、エリサベトは、マリアを声高らかに祝福します (1:45)。そこにある「幸い」という言葉は、新約聖書に45回用いられているうち、最多の15回が、この福音書にあります。

このエリサベトの幸いの祝福の言葉に促され、また呼応するかのように、「マリアの賛歌」が歌いだされます。天使ガブリエルが去って行った直後には、賛美の言葉が出て来なかったマリアが、エリサベトの言葉、ヨハネのおどりによって、賛美ができるようになったと言って良いのでしょうか。そこには、喜びの分かち合いがあります。また、マリアが不安を抱えているように、エリサベトも何かしらの不安を抱えていてもおかしくありません。不安を分かちあう二人でもあります。しかし、そこに、祝福と賛美の声があふれ出すのです。

38
課

12
月
18
日

マリアの賛歌

ルカ 1 : 46 ~ 55 の「マリアの賛歌」は、「わたしの魂は主をあがめる」のラテン語訳から「マグニフィカト」と呼ばれます。その言葉を歌詞として、多くの作曲家による魅力的な音楽作品が生み出されています。賛歌の内容については、サムエルの母ハンナの祈りの歌（サムエル上 2 : 1 ~ 10）をはじめとして、旧約聖書の様々な言葉との関連が知られています（詩編 34 : 3、35 : 9、69 : 31、25 : 5、イザヤ 12 : 2、ハバクク 3 : 18、申命記 10 : 21 など）。何より、心に留めるのは、これらの言葉によって、憐れみを忘れることがない主がほめたたえられているとい

準備のための聖書日課

12日	㊦	幸いな人	ルカ11:27~28
13日	㊦	人の子を待つ幸い	ルカ12:35~40
14日	㊦	共に喜び、共に泣く	ローマ12:9~15
15日	㊦	共に主をたたえよ	詩編34:2~11
16日	㊦	わたしの魂は 仰ぎ望む	詩編25:1~5
17日	㊦	ハンナの祈り	サムエル上2:1~10

うことです。この賛歌を歌うのは、マリア一人ではありません。エリサベトと共に、私たちもまたこの喜びの歌声に加わります。

38
課

12
月
18
日



成人科

●今、会いたい人はいますか？ 実際に会えなくても、今、誰かと分かち合いたい思いはありますか？ 39 ~ 45 節には、マリアの挨拶の内容、具体的な言葉、肉声は記されていません。彼女はエリサベトに何を語ったのでしょうか？ 喜びでしょうか、不安な思いでしょうか。何か一つの答えを出すのではなく、マリアの思い、言葉をいろいろと想像してみましょう。そして、その思い、言葉に応答する者として、エリサベトに自分を重ねて、自分なら、マリアに対して、どのような言葉をかけるでしょうか？ 相手の思いに寄り添う難しさがあります。その言葉、押し付けの結論とはなっていないでしょうか。

●ルカによる福音書には、「賛美」にちなんだ言葉、場面が多くあります。ここには、ヨハネのおどりによる賛美、エリサベトの言葉による賛美、そして、マリアの賛美へと賛美のバトンが渡されています。そのバトンは、2章にも渡っていきます。ところで、「マリアの賛歌」は、旧約聖書との関連が指摘され、マリアの「自作」とは言えなさそうです。誰もが作詞作曲した「自作」の賛美があるわけではありません。誰かの賛美に自分の思いを重ねています。愛唱賛美歌は何ですか？ クリスマスの賛美歌ではどうですか？

マリアとエリサベト

聖書

ルカによる福音書1章39～56節

暗唱
聖句

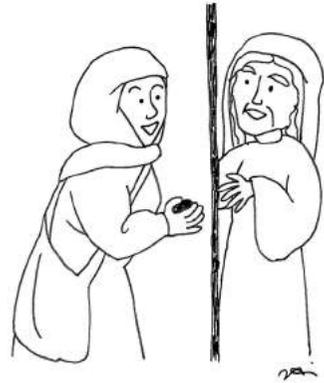
わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
ルカ 1：47

控えめに、でも確かな目的をもっているようなノックだった。扉が開くのももどかしく、息を切らせて滑り込んできたのは、マリアだった。「エリサベト！ お久しぶりです。マリアです」。「おやまあ、マリア！ほんとに久しぶり。まさか、ナザレから一人で来たのかい？」マリアは黒く光る瞳をあたしに向けてうなずいた。あんな距離を娘っ子一人旅なんて、普通じゃない。一体何が？ あたしはマリアの手を取って部屋に招き入れる。冷たい手だった。

マリアはあたしのゆるやかな体をちらと見て、言った。「エリサベト、おめでとうございます。男の子がおなかに、と。あの、天使があたしのところに来て、そのことを。そして、あたしも男の子を生むって…」。

マリアのその言葉を聞いた時、あたしのおなかの中で子どもがはねて踊って内側からノックした。そしてじわりと温かくあたしの中に聖霊が満ちてきた。あたしは霊に促されるまま、思わず声を上げた。「マリア、祝福された女よ。その胎のお子も祝福に満ちて。あたしの主のお母さんが、あたしのところに来てくれるなんて、なんてうれしいこと！ あんたの挨拶を聞いたとき、あたしのおなかの子は喜びに踊った。幸いなこと、主の言葉の実現を信じた女よ！」

しわの寄ったあたしの手を、マリアのつややかな手に重ねて言う。「あんたのおなかの中に、あたしの救い主がいるんだね。あたしには、わかるよ」。それぞれ初めて



の道を歩むあたしたち。神さまが共にいてくださることを信じ、喜びを分かち合おう。マリアの手が温かくなってきた。

「あたしの魂は主をあがめ、救い主なる神を喜びたたえる」。マリアの唇がほどけて、歌がこぼれた。「主のはしための、このあたしに、主は目を留めてくださったから。こののちずっと、人々はあたしを幸いな者と言うだろう。主の偉大な力があたしに臨んだから。主は弱い者、貧しい者、飢えている者を引き上げ、おごった者たちから公平と義しさを取り戻してくださる。主は、あたしたち民を顧みて、永遠に愛してくださる」。

マリアの歌に合わせて、部屋の中にはまばゆく賛美が満ちた。海を分けた道を踊り進みながら、ミリアムが小太鼓を鳴らす。サムエルを委ねたハンナが、感謝の祈りを捧げる。古の預言者たちが、主の導きを預言する。決して主に忘れられることのなかったあたしとザカリアの祈りも加わる。憐れみ深い、あたしたちの救い主。

重なる、重なる、重なる。あたしたちの賛美。

38
課

12
月
18
日

マリアとエリサベト

青少年科



聖書

ルカによる福音書1章39～56節

暗唱
聖句

わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
ルカ 1：47

聖書から…

天使から男の子を生むと言われたマリアは、エリサベトを訪問します。エリサベトの妊娠を、エリサベトと会うまでは半信半疑だったかもしれません。高齢で出産を控えたエリサベト。結婚前に妊娠し、出産すると言われたマリア。それぞれの不安を抱えた二人が一緒に時間を過ごすことは、二人にとって大切な時間だったと思います。不安を分かち合う中で、一緒に祈り、主に礼拝を捧げ、そして、神さまがくださる喜びの出来事として受け取り直していく。一人では生まれてこなかった神さまへ賛美の言葉。不安と神さまの約束を受け取った二人なら、賛美の言葉をつむぐことができる。誰かと一緒に生きるようにと神さまが教えてくれているのだと思います。

神さまの計画に不安を感じる中でも、神さまへの賛美に導かれた二人。私たちの日常もいつも喜びに満ちているわけではないけれど、主の日に礼拝へと招かれているのは、誰かと一緒に賛美をし、喜びを分かち合うためなのかもしれません。「なぜ、私にこのことが起こったのだろうか…」でも、「主のはしために、主が目を止めてくださったことを大切にしよう」と賛美の言葉を持って祈り続ける姿に励まされていきたいですね。

分かち合おう

- エリサベトの不安と喜び、マリアの不安と喜び、その両方が描かれています。新しい挑戦や出会いに押し出されるとき、ワクワクするのと同時に、不安も私たちの中に沸き上がってきます。マリアは、ナザレからユダの町まで、エリサベトに会いに行きました。一人で抱えられない感情を共有したくてたまらなかったのかもしれません。祈り合う仲間がいることで、マリアやエリサベトのように賛美へと導かれるのだと思います。あなたの周りに祈り合う仲間がいますか。どのような祈りを共有していますか。
- マリアとエリサベト、世代の違う二人が一緒に賛美をするということ。ミリアムやハンナの賛美に共鳴しながら二人は賛美をささげています。私たちの礼拝の賛美で、喜びを分かち合うことができているのでしょうか。新型ウィルスの感染拡大をきっかけに、賛美歌を歌わなくなった教会もあるのではないのでしょうか。共に歌えないけれども、礼拝で賛美をささげることは続けられています。歌う以外の賛美の方法はどのようなものがあるのでしょうか。賛美歌の歌詞を朗読するというのも一つかもしれません。歌う時とは違う賛美の豊かさを感じることができるのではないのでしょうか。

38
課

12
月
18
日

マリアとエリサベト

聖書 ルカによる福音書1章39～56節

暗唱 聖句 わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
ルカ 1：47

聖書から…

マリアに起こったこともマリアの気持ちも、よくわかってくれるにちがいないエリサベトおばさん。そのおばさんの家に向かうマリアの足取りは自然と早くなり、心は不安と喜びが入り混じっています。神さまは二人をとおして、この世界に救いの喜びをもたらしてくださるのです。二人は神さまの祝福と希望の中におかれまして。マリアの挨拶を聞いたエリサベトのお腹の子も大きな喜びを表しておどりました。マリアは、エリサベトの家で、不安も喜びもあるがままに受け止めてもらえる安心感を深く覚え、静かな安らぎに満ちていきました。「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます」。その口からは神さまをほめたたえる賛美があふれていきました。

活動①

「会いたいね」

リーダーやメンバーに会えるのはうれしいですね。教会に来ることができない時も、電話でお話ししたり、パソコンの画面を通して会うことができたりと、色々な方法があります。メンバーはどんな経験をしたことがあるか、出し合ってみましょう。

- ①「最近、誰かに自分の思いを聞いてほしいと思ったことがありますか」。どんなことがあったか、うれしい気持ち、こまったこと、びっくりしたことなどを話しましょう。ほかの人の話しも聞きましょう。

う。「あ、同じ気持ちになったことがある」。いろいろな発見があるかもしれません。

- ②次にお話しするのが楽しみになります。あなたも私も気持ちを分かち合うために、また「会いたい」気持ちを伝えましょう。

絵本紹介『はやくあいたいな』

作：五味太郎 発行：絵本館

会いたい気持ちは、なかなか会えなくてもなくなりません。会うことをあきらめません。

絵本を読んで、ついに会えた時の喜びをみんなで味わいましょう。

活動②

「神さまへの賛美」

- 準備●ハガキサイズの紙（人数分）、筆記用具

- ①私と一緒にいることを喜んでくださる神さま。神さまへの賛美の言葉、感謝の言葉を書いてみましょう。
- ②神さまへの賛美、感謝の言葉を書いた紙を壁に飾りましょう

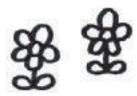
活動③

ワークシート

「急ぐマリア」

- 準備●ワークシートの拡大コピー、サイコロ、ペットボトルのふたとふたに貼るシールなど（駒用）を人数分

- ①自分の駒にしるし（シール）をつけましょう。
- ②一人でエリサベトのもとに向かうマリアです。早く会いたい気持ちがふくらんでいきます。その気持ちを思いながら、すごろくをしましょう。

★ とびきりの うれしい 顔をする					 エリサベト
		2つ もどる			
★ 会いたい 気持ちを自分の 言葉で言う					 マリア
		2回 やすみ			
					 マリア
		1回 やすみ			
					★ あしぶみを 3回する

スタート

イエスの誕生

聖書 ルカによる福音書2章1～20節

暗唱 聖句 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。
ルカ 2：11

そのころ

ルカ福音書が記すアウグストゥスの住民登録は、新約聖書以外には明確な情報がありません。しかし、「ルカ」の思は、世界史の出来事の只中に、神による特別な喜びの出来事が起こったことを記そうとするものです。

特別な出来事と言うと、5節の「身ごもっていた=身重であった」と8節の「野宿している」と訳される言葉は新約聖書のここにしかない言葉です。天使の登場には、神の遠さを覚える苦しみもうかがえます。それぞれの言葉に、不安や恐れ、様々な思いが交差しています。そのマリアに、そして、羊飼いたちに、特別な喜びの出来事が起こるのです。

身ごもっているマリアは、どのような思いで、ナザレからベツレヘムまでの旅をしたのでしょうか。そして、マリアはベツレヘムに到着して、どれくらいの日数を過ごしたのでしょうか。赤ちゃんが今にも産まれそうな陣痛状態で、宿屋の扉を叩きまわったのではなさそうです。一方の羊飼いたちは、どのような思いで、野宿していたのでしょうか。天使の喜びの知らせを聞いて、「その出来事を見よう」とベツレヘムに向かいますが、すぐに、乳飲み子イエスさまに出会えたのではなさそうです。16節にある「探し当てる」という言葉から、いくらかの時間と迷い道があったことが想像できます。探し回って、探し当てたのです。ちなみに、この言葉は、ここ以外では、使徒言行録21：4にしかありません。

飼い葉桶の中に

マリアと羊飼いたちはどちらも不安を抱えています。もう一つ、彼女たちに共通するものとして、「飼い葉桶」があります(2：7、12、16)。これは、新約聖書ではルカ福音書にしかない言葉です(ここ以外は13：15)。

この「飼い葉桶」はどこにあるのでしょうか。イエスさまがお生まれになった場所として、以前は、馬小屋、最近では、家畜小屋ということが言われます。しかし、聖書には、どちらの言葉もありません。言葉を変えて考えます。洗面器があるところはどこでしょうか。答えは、風呂場でしょうか。個人的な思い出ですが、大雨で雨漏りした時、居間に、雨漏り受けに洗面器が置かれていました。

聖書時代のパレスチナの家屋の様式に注目して、家族の居間と畜舎が家屋内で隣接し、「飼い葉桶」が、その人間の生活空間と畜舎の間に位置する「飼葉桶を備えたワンルーム式の中東村落」から、イエスさまの誕生の場面を描く考えもあります(ケネス・E. ベイリー『中東文化の目で見たイエス』教文館)。「飼い葉桶」の中に寝かされているイエスさまについて、二つの異なる言葉が使われています。7節の「寝かせる」は、ルカ福音書12：37、13：29では、「食卓に着く」という意味で用いられています。当時の生活習慣としての、体を横にして食事をする姿です。一方、12節と16節で「寝ている」と訳されている言葉はルカ福音書2：34、3：9、12：19、23：53にあって、何かが横にな

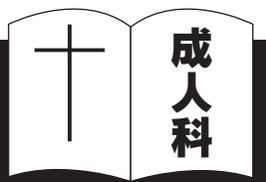
っている状態を表しているようです。「ルカ」が、なぜ異なる二つの言葉を用いているのはわかりませんが、23：53に注目するなら、イエスさまの葬りと死につながる姿があります。

不思議の先へ

喜びの知らせ、救い主の誕生を喜び、神をあがめ、賛美する「クリスマス」です。その喜びの知らせを天使から聞いて、出かける羊飼いたちがいます。また、その出来事を心に納めて、思い巡らすマリアがいます。「クリスマス」は大きな不思議です。私たちはこの出来事を「不思議に思う＝驚く」ことで終わるのではなく、その先へ、羊飼いたちのように、見に行き、マリアのように、思い巡らし

準備のための聖書日課			
19日	㊦	人間の姿で現れたキリスト	フィリピ2:1~11
20日	㊧	人の子が枕する所	ルカ9:57~62
21日	㊨	神の国の宴会	ルカ13:22~30
22日	㊩	天からの光の中で	使徒言行録 26:12~18
23日	㊪	エッサイの根を求めて集う	イザヤ11:1~10
24日	㊫	ベツレヘムよ	ミカ5:1~3

続けます。そして、あの日のマリア、今日の羊飼いたちのように、喜びを共に分かちあう交わりの場へと「急ぐ」のです。



- 「クリスマス＝キリスト・ミサ＝キリスト・礼拝」をどのように過ご

しているでしょうか。羊飼いたちの15～20節の場面には、天使はいません。星の輝きもありません。そして、東の方から来た学者たちもいません。そこにいるのは、マリアとヨセフと飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子だけです（牛やロバ、小鳥もいません）。私たちはどこかで、劇の舞台のフィナーレのオールスターキャストの盛大な盛り上がる的クリスマスを思い描いていることはないでしょうか。一年の終わりという時期も重ねて、クリスマスを華やかなグランドフィナーレとし

てはないでしょうか。私たちはフィナーレではなく、始まりとしてのイエスの誕生を共に喜びます。確かに喜びます。

- 何が始まったのでしょうか。本課の羊飼いと37課のマリアの場面で、共通していることがあります。それは、「天使が去った」ことです（神の遠さを覚える悩み苦しみが去ったということ）。私たちの現実には、年越しの悩み苦しみがありません。羊飼いたちも夜の野宿の場に帰ります。しかし、そこには、以前とは異なるものがあります。イエスの誕生によって、始まった喜びがあります。その喜びもまた年越しです。賛美のバトンを受け取り、次へ！

イエスの誕生

聖書

ルカによる福音書2章1～20節

暗唱
聖句

今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。
ルカ 2:11

羊飼いたちがそっと飼葉おけをのぞき込むのを、あたしとヨセフはそばで見ている。「ほら、天使が言った通りだ！」彼らは上気した顔でささやきあい、こぼれる笑顔をこちらに向け口々に話し始めた。「町の外の野原で羊の番をしてたら、夜空が真っ昼間みたいにはあーっと明るくなって天使が現れたんだ。もう、恐ろしくて」「ぶるぶる震えてると天使が『恐れるな』って言うんだよ。『今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主が生まれた。これはみんなへの喜びの知らせだ』って」。「その赤子は布にくるまって飼葉おけに寝てるって言うから、うれしくてすぐさま町中を探し回ったんだ」。不思議な光景だわ。羊飼いたちとこんな近くで過ごしたこともないし、彼らが町の人たちの前でこんなにしゃべるのを聞いたこともない。

住民登録のためにヨセフと共にダビデの町ベツレヘムへと旅をしてきた。町にいるうちに産み月となって、ヨセフの親戚の家にやっとのことで世話になり出産した。土間のあちら側の家畜たちの飼葉おけを借りて、赤ん坊を寝かせている。イエスと名付けよと天使は言ったわ。

泊まっている一間だけのせまい家はぎゅうぎゅう。この家の人たちと家畜たちに加え、あたしたちが間借りし、そして今は羊飼いたちも。羊飼いたちが連れて来た羊たちは、家からはみでて通りにまであふれている。家の人たちは目を白黒させるし、近



所の人たちは何事かと顔を出す。そこに羊飼いたちは、救い主が生まれたんだ、と先ほどの話をうれしそうに繰り返す。

さっきお乳を飲んだイエスはよく眠っている。あたしはおなかの底から愉快な思いがわいてきた。羊飼いたちに現れた天使の大群は「天に栄光、神にあれ。地には平和、み心に適う人にあれ」と神を賛美したという。いつもは反目してる町の人たちも羊飼いたちも、さまざまな動物たちもごっちゃんぎゅうぎゅうここにいる。布にくるまり、飼葉おけの中に静かに横たわる小さな赤ん坊を中心に、みんなが集められている。平和な喜びだわ。この子がすべてのものをつなげているのね。あたしは、これまでの出会い、見たこと聞いたことを、すべてしっかり自分の内にたたみこむ。

羊飼いたちは再び野原に帰っていく。神を賛美し、自分たちの体験を会おう人々に伝えながら。「おれのため、あんたのため、みんなのために救い主がお生まれになった。なんてうれしいことじゃないか」。

彼らを戸口で見送る。見上げると、漆黒の空に、満天の星。

イエスの誕生

聖書

ルカによる福音書2章1～20節

暗唱
聖句

今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。

ルカ 2:11

聖書から…

イエスさまの誕生物語を告げる天使の言葉を受け取る側には、いろいろな不安があったのだと実感しました。ザカリアとエリサベト、マリア、羊飼い、もちろんヨセフも。これからどうなるのかという不安の中で過ごしていた、その中にイエスさまがお生まれになりました。「神さまのお言葉なら」と思いつつ、きっと赤ちゃんイエスさまを見るまでは、不安、恐れ、感情がなくならなかったと思います。イエスさまと出会うことで、喜びの賛美にあふれる羊飼いたち。

私たちの礼拝にも通じる姿が、イエスさまの誕生物語の中にあると思います。私たちの日常の中に来てくださった赤ちゃんイエスさまが安心して眠ることができる世界。それが神さまの平和がこの地に来ることなのかもしれないと思われました。今、私たちの生きる世界は安心して眠ることができないかもしれません。この世界にお生まれになったイエスさまと出会った羊飼いたちの中に、喜びの賛美があふれました。聖書を通して、イエスさまの誕生をすでに知っている私たちも同じように、喜びの賛美を捧げることができるのではないのでしょうか。

イエスさまの誕生には不安が満ちていた。その中に生まれたイエスさまの誕生と一緒に祝いましょう。

分かち合おう

- イエスさまの誕生は、暗闇に灯るろうそくの光のように、私たちに照らしてくれています。今の私たちの生活の中にも、イエスさまの光を届けてくれているのでしょうか。一説には、アドベントキャンドルは「預言のキャンドル」「天使のキャンドル」「羊飼いのキャンドル」「ベツレヘムのキャンドル」と呼ばれ、それぞれ「希望」「平和」「喜び」「愛」を意味しているそうです。今私たちに必要なキャンドルはどれでしょうか。分かち合ってみましょう。
- 救い主のお生まれにいろんな不安があったこと、ただ、救い主のお生まれだと喜び日ではなかったことを話や聖書で見えてきました。ローマ帝国の支配の中にお生まれになったイエスさま。その希望はどのようなものだったのでしょうか。そして今の私たちにとって、救い主、イエスさまの誕生はどんな希望「おれのため、あんたのため、みんなのために救い主がお生まれになった。なんてうれしいことじゃないか」（みんなで聴く聖書のおはなしより）と、受け取ることができるのでしょうか。あなたにとってのイエスさまの誕生は、どのような希望ですか？分かち合っています。

39
課12
月
25
日

イエスの誕生

聖書 ルカによる福音書2章1～20節

暗唱聖句 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。
ルカ 2:11

聖書から…

暗い夜空に輝いている星を見上げながら、羊飼いたちは一晩中羊を見守っています。「星は、神さまがいつも私たちを見守ってくれていることを教えてくれているようだ」、そんなことを考えている時に天使が近づいてきました。そして「恐れるな」と言うのです。突然の光に包まれて、驚き、震えていた羊飼いたちに、救い主誕生の出来事は告げられました。「あなた方のために救い主がお生まれになった」。天使と天の大軍の賛美を聞いて、羊飼いたちの恐れは、喜びと感謝に変わりました。そして、その出来事を見るために、救い主に会うために出かけていきました。すぐに見つからなくても羊飼いたちはあきらめません。ついに乳飲み子を探し当てたとき、喜びと感謝はさらに大きくなりました。神さまが知らせてくださった大きな、素晴らしい出来事を今度は羊飼いたちが、人々に知らせていきました。

活動①

「わたしはひつじかい」

●準備●風呂敷など人数分

- ①頭に風呂敷を巻いて全員羊飼いになります。
- ②みんなで一緒にセリフを言ってみましょう。

●星(上)を見ながら

「暗い夜、しっかり羊を見守ろう」
「星がきれいだね」

「神さまも私たちを見守っているよ」

●喜びの声で

「天使が告げてくれたこと、すぐ見に行こう」
「羊たちも連れて行こう」
「みんなで救い主にお会いしよう」
「救い主は私のため、そしてすべての人のためにお生まれになったんだ」

活動②

ワークシート

「さあ、ダビデの町へ」

●準備●ワークシート、鉛筆、消しゴムなど(人数分)

迷路を通してダビデの町へ行き、救い主を見つけましょう。

とうとう救い主を探し当てたとき、羊飼いたちは何と言ったでしょうか。羊飼いの気持ちを想像しながら、みんなで考えてみましょう。

活動③

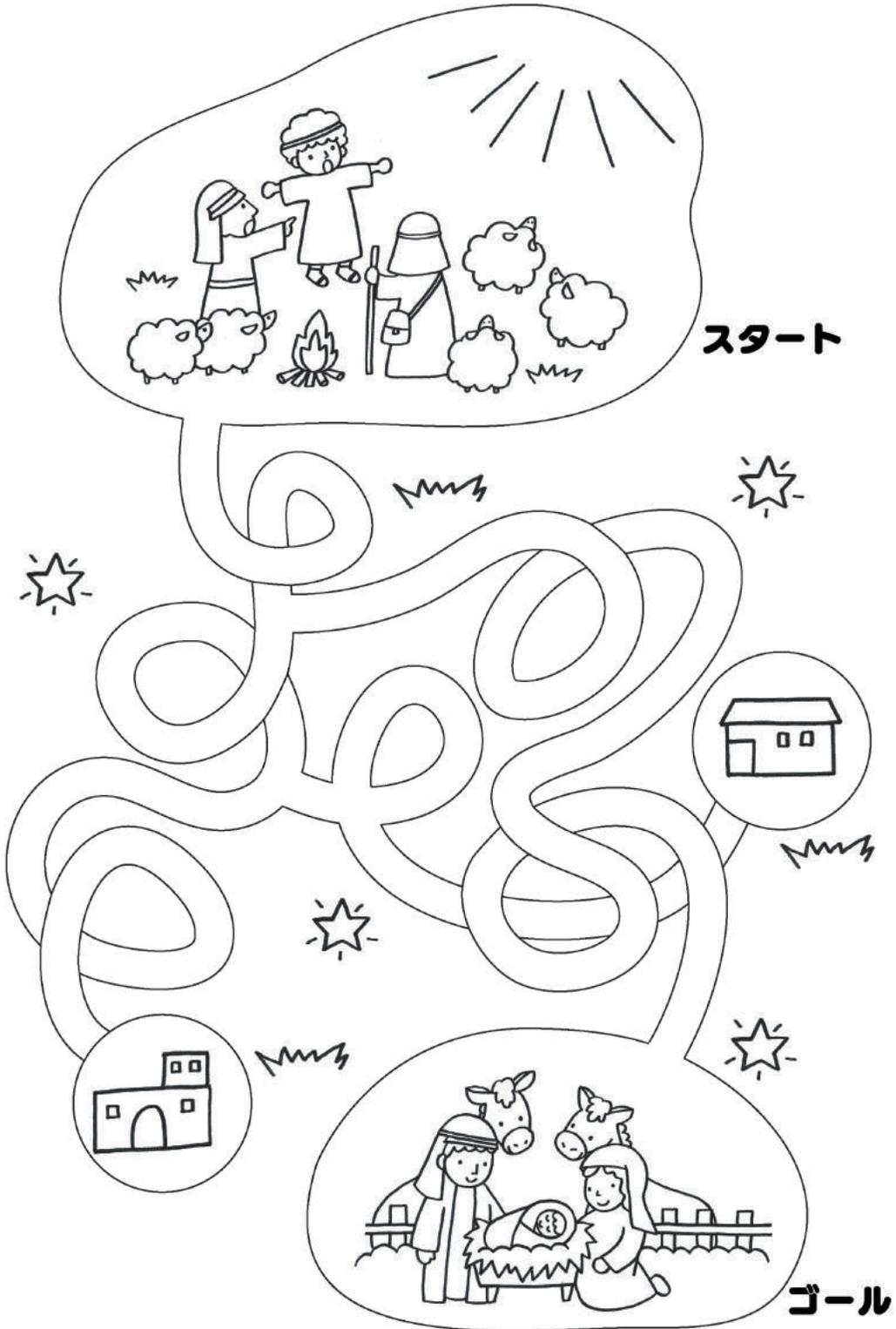
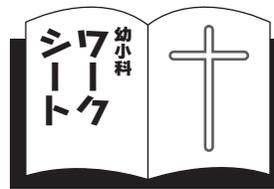
「クリスマスカードを作ろう」

●準備●ワークシートの絵を切りとる。(野原の場面や飼いやおけの場面を人数分) 色画用紙をハガキ大に切ったもの 人数分 色鉛筆 のり

- ①切り取ったワークシートの絵に色を塗り、カードに貼りましょう。
- ②暗唱聖句を書きましょう。

*今日はクリスマス。カードを友だちや家族に渡し、クリスマスの喜びを分かち合ひましょう。





主を



「主」
右手親指を左掌にのせる



「存在」(居る)
両手を握り両肘を立て

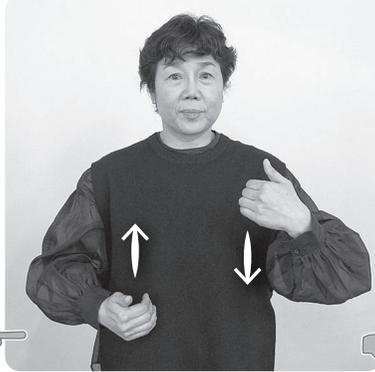


下におろす

喜び



「喜び」
両掌を上下に胸に当て



交互に上下させる

祝う



「礼拝」
主の前に
左手を向かい合わせ



主に対して
左手指を曲げる



「祝う」
つぼめた両手を上に向けて



パット上方に開く

ことこそ、



「祝う」の左手を残し
右人差指でさす

あなたたちの



「あなたたち」(皆さん)
掌を下に向けて水平に回す



「与えられる」
両掌を上に向け右上から

力の



前方下に差し出す



「力」
拳を握った左腕を曲げ
右人差指で



その上腕に力こぶを描く

源である。



「源」(根本)
左肘を立て、閉じた右手を当て



下に向けて開く



「まこと」(本当)
指先上向の掌の人差指側を
額に当てる

暗唱聖句 カード

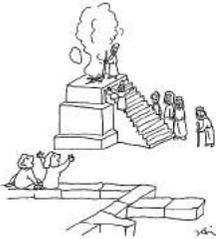
新共同訳

- 線で切り取って使用してください。
- ホームページからカラー印刷ができます。
- <http://www.bapren.com/>



のほ い かがよい かがみ しよ
上って行くがよい。神なる主が
その者と共にいてくださるよう
に。 歴代誌下 36 : 23

28課 10月9日



しよ しんでん きそ ず
主の神殿の基礎が据えられたの
で、民も皆、主を賛美し大きな
叫び声をあげた。

エズラ 3 : 11

29課 10月16日



しよ ごじしん た
主御自身が建ててくださるので
なければ 家を建てる人の労苦
はむなし。 詩編 127 : 1

30課 10月23日



あなたたちは、主にささげられ
た聖なる人々です。

エズラ 8 : 28

31課 10月30日



あなたの僕の祈りとあなたの
僕たちの祈りに、どうか耳を
傾けてください。

ネヘミヤ 1 : 11

32課 11月6日



天にいます神御自ら、わたした
ちにこの工事を成功させてくだ
さる。 ネヘミヤ 2 : 20

36課 12月4日

33課 11月13日



主を喜び祝うことこそ、あなた
たちの力の源である。

ネヘミヤ 8 : 10

34課 11月20日



主はエルサレムを再建し、イス
ラエルの追いやられた人々を集
めてくださる。 詩編 147 : 2

38課 12月18日

35課 11月27日



この聖書の言葉は、今日、あな
たがたが耳にしたとき、実現し
た

ルカ 4 : 21

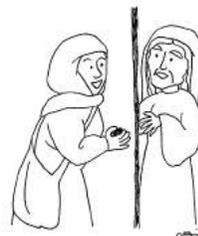
37課 12月11日



「おめでとう、恵まれた方。主が
あなたと共におられる。」

ルカ 1 : 28

38課 12月18日



わたしの魂は主をあがめ、わ
たしの霊は救い主である神を喜
びたえます。 ルカ 1 : 47

39課 12月25日



今日ダビデの町で、あなたがた
のために救い主がお生まれにな
った。 ルカ 2 : 11

暗唱聖句 カード 口語訳

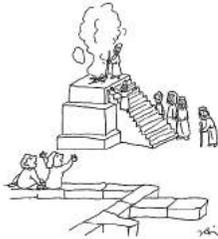
- 線で切り取って使用してください。
- ホームページからカラー印刷ができます。
- <http://www.bapren.com/>

27課 10月2日



その神、主の助けを得て上って
行きなさい 歴代志下 36 : 23

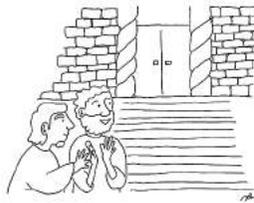
28課 10月9日



民はみな主をさんびするとき、
大声をあげて叫んだ。主の宮の
基礎がすえられたからである。

エズラ 3 : 11

29課 10月16日



主が家を建てられるのでなけれ
ば、建てる者の勤労はむなし。

詩篇 127 : 1

30課 10月23日



あなたがたは主に聖別された者
である。

エズラ 8 : 28

31課 10月30日



あなたの名を恐れることを喜ぶ
あなたのしもべらの祈に耳を
傾けてください。

ネヘミヤ 1 : 11

32課 11月6日



天の神がわれわれを恵まれるの
で、そのしもべであるわれわれ
は奮い立って築くのである。

ネヘミヤ 2 : 20

33課 11月13日



主を喜ぶことはあなたがたの
力です。

ネヘミヤ 8 : 10

34課 11月20日



主はエルサレムを築き、イスラ
エルの追いやられた者を集めら
れる。

詩篇 147 : 2

35課 11月27日



この聖句は、あなたがたが目に
したこの日に成就した

ルカ 4 : 21

36課 12月4日



彼はあなたに喜びと楽しみとを
もたらし、多くの人々もその誕
生を喜ぶであろう。

ルカ 1 : 14

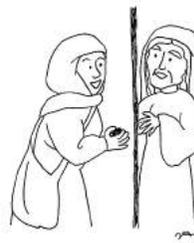
37課 12月11日



「恵まれた女よ、おめでとう、
主があなたと共におられます」

ルカ 1 : 28

38課 12月18日



わたしの魂は主をあがめ、わ
たしの霊は救主なる神をたたえ
ます。

ルカ 1 : 46 ~ 47

39課 12月25日



きょうダビデの町に、あなたが
のために救主がお生まれにな
った。

ルカ 2 : 11

神さまが豊かに、 豊かに…。

『聖書教育』のスタイルが2023年度から新しくなることを踏まえて、これまでの誌面を支えてくださった方々を紹介しています。

今号は、「暗唱聖句手話」と「おはなしカット」を担当してくださっている方々にスポットをあてました。

差し出した動きを、神さまが豊かに豊かに用いてくださいます。



塩山幸子

2014年4・5・6月号

現在

「聖句」の手話訳は楽しい作業ですが、意味を臆想しながら、じっくりする手話訳にたどり着くまでに戸惑いや苦勞も多々あります。与えられたスペースの中に、聖句の長さによって、18コマか24コマに納めると決め、手話訳や手話の数を工夫しています。教会生活を共にしている「ろう」の方の協力を得て作成していますので、同じ手話でも、時により表現に微妙なちがいが出てきます。それは、絵ではなく、教会生活の中での生身の表現の写真撮影故です。つたない私ですが、『聖書教育』誌担当の方々に祈り支えられ、奉仕を続けられましたこと、感謝です。「暗唱聖句手話」を目にしたのをきっかけに、ろう文化に関心を持ち、ろう者の言語である手話を習得され、共に歩む使命に導かれる方が加えられれば幸いです。



協力くださっている小館ご夫妻



香月 藍

2013年4・5・6月号

現在

聖書も絵も難しいと思っている私が、もう9年も「おはなしカット」を描かせていただいています。毎回カット案をもらうのですが、最初によく思うのは「今回も人が多いなー」という事です。(たくさんの人を1枚の絵の中に構成するのが難しく、いつも苦戦します)しかしある時、「そりゃそうだ。聖書は人間模様を通して私に教えてくれるのだから」と気づかされました。おはなしカットで人を描く時は、無意識で一人ひとりの性格や背景を想像しています。時には、自分の息子や家族、友人、教会のあの人などとイメージが重なり、胸が苦しくなったり感動を憶えたりしながら、この絵が何かに用いられるようにと願って取り組んでいます。



2020年7・8・9月号 22課

聖書教育



特集

レント・イースターメッセージ

野中宏樹

信教の自由を守る

細井留美

連載

協力伝道週間をおぼえて

金丸 真

2023 年度からの月刊

『聖書教育』紹介

『聖書教育』編集

ご意見、ご感想をお待ちしております。

FAX ● 048-883-1092 Eメール ● seishokyouiku@bapren.jp (編集担当)

聖書教育

● 2022 年 8 月 20 日発行・発売 ● 定価 1,200 円 (税込)

発行人 中田 義直

発行 日本バプテスト連盟

〒 336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和 1-2-4

TEL : 048-883-1091 FAX : 048-883-1092

日本バプテスト連盟 HP <https://www.bapren.jp/>

聖書教育 HP <https://www.bapren.com/>

ご注文は連盟販売管理室まで hanbai-kanri@bapren.jp

郵便振替口座 00150-9-192579

印刷 ニューライフミニストリーズ (新生宣教団)

● 内容についての編集責任は日本バプテスト連盟にあります。

● ワーク・教材以外の複製はご遠慮ください。

● 聖書は日本聖書協会新共同訳を使用しています。

©2022 日本バプテスト連盟

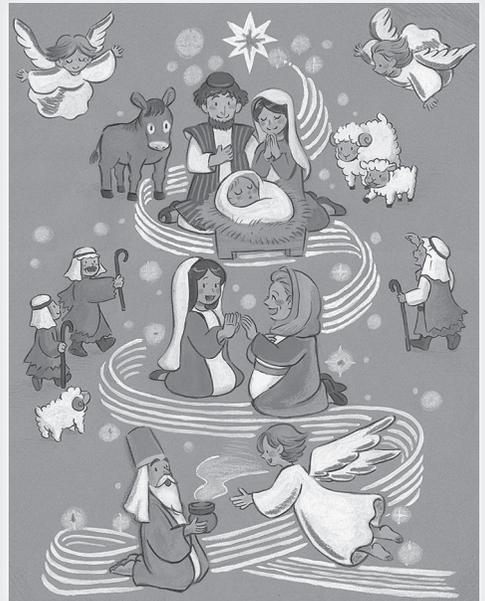
● 乱丁落丁はお取り替えいたします。日本バプテスト連盟販売管理室までご連絡ください。

● 表紙 三浦あや

● みんなで聴く聖書のおはなしカット 香月 藍

● レイアウト JC ユニット

● 幼小科ワークシート 吉崎 愛



表紙「かがやく星がみちびくクリスマス」

2023年4月号から
月刊『聖書教育』が
いよいよスタート！

赤ちゃんからおとなまで

聖書教育

2023～2025年度 総主題

今、共にキリストを証しするために—新たな『自立と協力』—

プログラムの概要

2023年度からの月刊『聖書教育』は機構改革が進む中、これからの連盟検討委員会と新『聖書教育』準備委員会が協働しながら企画を進めています。日本バプテスト連盟の機構改革の理念に基づき、2023～2025年度の3年は総主題を「今、共にキリストを証しするために—新たな『自立と協力』—」としました。そして年毎に「今」「共に」「キリストを証しするために」と順を追ったプログラムとして学ぶ予定です。

新しい月刊『聖書教育』では、これまでの「聖書の学び」に加えて、日々のディボーションを掲載し、クラスの準備だけでなく、聖書から日々養われることも大切にします。一人で、また仲間と共に、毎日言葉に触れて言葉を交わし合いたくなるようなメッセージをお届けいたします。月刊ですから、コンパクトで持ち運びに便利になります。ぜひ、携帯してご利用ください。



毎日開く『聖書教育』、対話が生まれる『聖書教育』

- 共同学習のために
- 一人ひとりの学びのために
- 子どもたちの活動のために
- 多様なわたしたちが共にキリストを証しするために

コンセプトは？

気になる 内容は？

巻頭言メッセージ ▶ 総主題や年主題も心にとめながら、教会暦・バプテストの暦からのメッセージ。

聖書の学び ▶ いくつかの立場の解釈が含まれるような幅広い聖書研究。

共同学習(大人クラス) ▶ 「今、私たちは…」と大人クラスで共同学習を深めていくためのポイント。

共同学習(子どもクラス) ▶ 子どもたちとクラスで学びのテーマについて考え、話し合うためのポイント。

今週のディボーション ▶ 「聖書の学び」を受けての黙想や、次週の準備となる聖書箇所から、6日間の聖書日課とショートメッセージ。

ワークシート ▶ 子どもたちの共同学習を助けるワークシート。イースターやクリスマスプログラムのためのアイデアも。

多様性のページ(5週目がある月) ▶ 教会学校の働きは、教会の中だけではありません。生の全領域で、主を証しすることは、様々な出会いと出来事を生み出します。そうした「今」の時代を生きる教会で共に分かち合いたいテーマに迫ります。

価格

年間購読 12冊 4,000円(税込)にて
ご注文を承ります。
年度途中からのご注文は、
1冊385円(税込)となります。

お申し込みは
連盟販売管理室まで

日本バプテスト連盟

〒336-0017
埼玉県さいたま市南区南浦和1-2-4
TEL: 048-883-1091 FAX: 048-883-1092
✉ hanbai-kanri@bapren.jp